

右者今般何々用ノダメ何縣何郡町村銃炮免許商何某ヨリ買入度候間免手形御下付(或ハ何々ニ付何縣何郡町村何某ヨリ讓受度候間御許可)被成下度此段奉願候也

何縣何郡町村番地

年月日

(買)讓受人

何

某

全

(買)讓渡人

他

某

縣令何ノ某殿

第二號書式

獵用銃(賣買)(讓與)(願

番號

一 何種獵銃

何 挺

番號

一 和 銃

何 挺

但玉目何奴

右者何縣何郡町村何某ハ(賣)讓渡又ハ何某ヨリ(買)讓受度候間御許可被成下度此段奉願候也

何縣何郡町村番地

年月日

(買)讓受人

何

某

全

警察署(分署)長
官氏名殿

(買)讓渡人 何

某

第三號書式

何年何月銃炮買受表

買受年月日	軍用銃名稱	個	數	銃炮賣主ノ族籍氏名	買受人族籍氏名
全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全

何年何月銃炮賣渡表

賣渡年月日	軍用銃名稱	個	數	賣渡人族籍氏名	免許商族籍氏名
全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全

◎銃炮取扱手續

○明治二十年三月十二日北海道廳訓令第八號警察署宛

銃炮取扱手續左ノ通假定ス

銃炮取扱手續

- 第一項 警察署ニ於テ甲乙二種ノ銃炮明細簿ヲ製シ甲ハ軍用銃乙ハ免許銃類ヲ登記スヘシ
- 第二項 明細簿ハ銃炮ノ買賣讓與改造廢毀其他出入變換ヲ記スヘシ
- 第三項 軍用銃ヲ獵銃ニ改造又ハ鑄潰シ燒燬等ニテ廢銃届出タルトキハ現品調査ノ上改刻印ヲ消除スヘシ
- 第四項 無檢印ノ軍用銃改刻印ヲ願出タルトキハ豫テ第一部警保課ヨリ回付スル番號ノ順次ヲ逐ヒ檢印ノ上下付シ其銃名及番號及出願者ノ族籍姓名ヲ全課ニ報告スヘシ
- 第五項 檢印アル軍用銃並免許銃ノ買賣讓與改造廢銃等ノ願届ハ銃名番號及願届者ノ族籍姓名等ヲ前全課全課ニ報告スヘシ
- 第六項 前二項ノ報告ハ該月末分取纏メ翌月五日限り各地差出報告スルモノトス

◎兵式銃操科用銃器火藥取扱方

○明治二十年十一月二十九日北海道廳訓令號外^{農學校}三校宛

兵式銃操科用銃器火藥取扱方法左ノ通定ム

兵式銃操科用銃器火藥取扱方法

- 一兵式銃操科用銃器ハ一定ノ場所ニ置キ正科用ノ外之ヲ使用セシム可カラズ
- 一銃器置場ハ倉庫内ニ設クヘシ若シ倉庫ナキハ四圍戸締堅固ナル室ヲ以テ之ニ充ツヘシ

- 一舍監室ハ銃器保管ニ便宜ナル場所ニ設置スヘシ
- 一舍監(舍監ヲ欠ク場合ニ於テハ舍監ノ職務ヲ執行スルモノ)ハ銃器置場ヲ保管シ常ニ注意看守スヘシ
- 一正科用ノ銃器ヲ出納スルキハ兵式銃操科教員ノ立會ヲ要スヘシ
- 一生徒銃器携帶ノ際ハ必ス兵式銃操科教員之ヲ監督スヘシ
- 一銃器ハ平常生徒ノ受持ヲ定メ取扱ニ注意セシメ失火其他非常ノ際ハ各自之ヲ携帶セシメ舍監引率適宜ノ場所ニ立退ヘシ
- 一發火演習ノ爲メ火藥ヲ要スルキハ其需用見込ノ量ヲ限り購求シ演習終リテ若シ殘餘ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ賣買營業人へ賣渡スヘシ
- 一校長ハ每週一回銃器置場ヲ檢査スヘシ

◎火藥類賣買免許商外國人ト火藥類賣買手續

○明治二十二年六月二十八日北海道廳訓令號外警察署宛

火藥賣買免許商外國人ト火藥類ノ賣買ヲ爲サント願出ル者アル時ハ貯藏制限内ニ限り警察署ニ於テ許可スヘシ

但賣買ヲ許可シタル火藥ハ其種類分量個數及雙方ノ國人名共一周年分ヲ統計シ翌年一月十日限リ當廳へ報告スヘシ

墓地埋葬取締

◎墓地埋葬取締細則

〔沿革〕明治十年十一月開拓使札幌本廳丁第六十六號達札幌郡墓地ヲ選定ス○十三年六月函館支廳第四十五號布達神佛埋葬地ヲ定ム○十六年四月函館縣甲第二十

四號布達死骸燒場取締規則ヲ定ム○同年六月札幌縣甲第二十七號布達墓地取締規則甲第二十八號布達火葬場取締規則ヲ定ム○同月根室縣甲第二十八號甲第二十九號同上○十七年六月函館縣甲第二十一號布達同上○同年十一月同縣甲第三十七號布達十二月札幌縣甲第八十三號布達十八年五月根室縣甲第三十二號布達墓地及埋葬取締規則施行細則ヲ定ム同時細則取扱手續及心得ヲ示ス○二十年六月北海道廳令第六十八號墓地埋葬取締規則訓令第六十八號同上取扱心得ヲ定ム○同年十月訓令第二百二十號願書調査心得ヲ示ス○二十二年三月北海道廳令第二十號細則ニ據リ難キ場合特許方ヲ定ム

○明治二十年六月十三日北海道廳令第六十八號
墓地埋葬取締細則左ノ通定ム

但明治十七年札幌縣甲第八十三號明治十七年函館縣甲第三十七號明治十八年根室縣甲第二十二號布達ハ廢止

墓地及埋葬取締細則

- 第一條 墓地及火葬場ハ人民ノ請願又ハ郡區長ノ撰定ニ依リ之ヲ許可スベシ
- 第二條 墓地及火葬場新設ノ請願書ハ所轄警察署ヲ經由スベシ
- 第三條 墓地ヲ新設スルニハ道路河川及鐵道線路ニ沿ハズ現在人家ヲ距ル五丁以上土地高燥飲用水ニ障ナク且將來道路河川ノ開通及土地開墾人民移住ノ支障トナラザル地ヲ撰ム可シ
- 第四條 火葬場ハ民家又ハ人民輻輳ノ地ヲ距ル十丁以上ニシテ將來道路河川ノ開通及土地開墾人民移住ノ支障トナラザル地ヲ撰ミ可成火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲ爲ス可シ

第五條 墓地ハ種族宗旨ヲ分クス何人ニテモ埋葬スルコトヲ得但死刑ノ遺骸ハ別ニ墓地ノ一隅ヲ劃シテ埋葬スヘシ

第六條 墓地火葬場ニハ管理者一名若クハ數名ヲ置ク

第七條 郡區長ハ墓地又ハ火葬場最近ノ寺院住職及僧侶若クハ其他相當ノモノヲシテ便宜墓地火葬場ノ管理者ヲラシムヘシ但從來定マリタル管理者アルモノハ此限ニアラス

第八條 人民ノ請願ニ依リ墓地火葬場新設ノ許可アリタルトキハ十日以内ニ其管理者ヲ取極メ郡區役所又ハ戶長役場ニ届出ヘシ管理者變換アルトキハ其都度郡區役所又ハ戶長役場ニ届出ヘシ

第九條 墓地ハ周圍ニ樹木ヲ栽ニ可シ墓地内ニハ大樹又ハ塙壇ヲ存ス可カラス但現存ノモノハ此限ニアラス

第十條 墓地管理者ハ常ニ墓所ヲ監護シ清潔ニ掃除ヲ爲シ勉メテ墓碑墓標等ノ頹敗ヲ防クヘシ

第十一條 火葬場管理者ハ火爐煙筒ノ掃除ニ注意スル等火化ノ障害ヲ防クヘシ

第十二條 坑穴ノ深サハ六尺以上タルベシ若シ土地ニ依リ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ハ格別ナリトス

第十三條 火葬ハ可成日没後之ヲ行フヘシ

第十四條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セントスル者ハ主治醫ノ死亡届ヲ添ヘ郡區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

醫師ノ治療ヲ受クル能ハスシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セントスルトキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ郡區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フ可シ若シ山川懸隔醫師ノ檢査ヲ得難キトキハ隣祐二名以

上ノ保證書ヲ以テ認許ヲ乞フコトヲ得但其認許ヲ乞フ爲メ數日ヲ要スル場所ニ於テハ保證書ヲ以テ埋葬スルヲ得ヘント雖モ速ニ其死狀ヲ郡區長又ハ戶長ニ届出ヘシ
 妊娠四月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産證ヲ以テ郡區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ
 變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ認印ヲ乞ヒ差出スヘシ
 未已決囚ノ死屍ヲ埋葬又ハ火葬セントスルトキハ獄醫ノ死亡届寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒ差出スヘシ
 第十五條 郡區長又ハ戶長ハ前條ノ届書證書ヲ領收シタルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ノ認許書ヲ與フ可カラズ
 第十六條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル認許證若クハ保證書ヲ取纏メ三月毎ニ之ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ
 第十七條 改葬ヲ爲サントスルモノハ所轄警察署ノ許可ヲ乞フヘシ
 但虎列刺發疹室扶私痘瘡ノ死屍ニシテ火化セサルモノハ改葬ヲ許サズ
 第十八條 死者ノ姓名族籍位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル様標ノ建立ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クルニ及ハス
 第十九條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ
 第二十條 埋葬又ハ火葬ヲ行フトキ警察官及巡查臨時監視スルコトアルヘシ
 附 則
 從來許可シタル墓地火葬場ニシテ本則第三條乃至第五條ニ抵觸スト雖モ此規則ヲ適要セス但火

葬場ハ本則ニ從ヒ漸次改良ス可シ

○明治二十年六月十三日北海道廳訓令第六十八號警察署宛
 今般廳令第六十八號ヲ以テ墓地埋葬取締規則相定候ニ付テハ仍ホ左ノ通心得ヘシ
 一 墓地火葬場及埋葬取締ハ通常衛生警察ニ於テ忽セニス可ラサルハ勿論殖民地ニ在テハ一種人情ノ感情ニ關スルモノ多シ故ニ取締上特ニ之カ注意ヲ要ス可シ
 一 管理者ノ勤怠ハ常ニ之ヲ視察シ便宜指揮督促シ墓地掃除等疎漏ナキ様取計フヘシ
 一 人民ノ請願ニ係ル墓地火葬場ノ新設願書ハ地位其他適否ノ意見ヲ付シ速ニ之ヲ進達スヘシ
 ○明治二十年十月十二日北海道廳訓令第二百二十號警察署宛
 墓地及火葬場設置ニ係ル願書ヲ警察署ニ於テ受理シタルトキハ先ツ郡區役所ニ移シテ左ノ調査ヲ爲サシメタル上明治二十年六月第六十八號訓令第三項ニ從ヒ進達スヘキ義ト心得ヘシ
 一 國郡町村番地官有民有ノ區別(民有地ナレハ其地目官有地ナレハ其地目)及縦横間數並面積
 一 實測繪圖面
 ○明治二十二年三月十五日北海道廳令第二十號
 墓地火葬場ヲ撰定スルニ當リ沿海又ハ山間ノ村落等ニ於テ明治二十年六月北海道廳令第六十八號墓地及埋葬取締細則第三條及第四條制限ノ距離ニ依リ難キ場合ニ於テハ實地調査ノ上該墓地ハ一町以上火葬場ハ二町以上ノ場所ニ限リ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

畜犬取締

○畜犬規則

〔沿革〕明治六年開拓使札幌本廳畜犬規則ヲ定メ札幌市街ニ施行ス十一年二月丁第十號ヲ以テ之ヲ改正シ十七年二月札幌縣甲第九號布達ヲ以テ更ニ畜犬規則ヲ定メ管内ニ施行ス〇七年九月同上函館支廳第三百十三號布達畜犬規則ヲ函館市中ニ施行シ八年十二月之ヲ改正シ十一年四月第三十八號布達ヲ以テ更ニ該則ヲ定メ管内ニ施行ス〇十一年三月根室支廳第十二號布達畜犬規則ヲ定メ十六年七月根室縣甲第四十號ヲ以テ該則ヲ改正シ管内ニ施行ス〇二十一年十二月北海道廳令第七十五號ヲ以テ畜犬規則ヲ定メ元三縣定ムル所ノ規則ヲ廢ス

○明治二十一年十二月二十一日北海道廳令第七十五號

畜犬取締規則左ノ通定ム

但明治十一年四月開拓使函館支廳第三十八號布達明治十七年二月札幌縣甲第九號布達明治十六年七月根室縣甲第四十號布達ハ廢止

畜犬取締規則

- 第一條 畜犬ニハ其畜主ノ住所氏名ヲ記シタル頸環又ハ牌子ヲ附ケ置クヘシ
- 第二條 畜犬狂猛ニシテ人畜ヲ害スルノ虞アルトキハ嚴ニ之ヲ繋留スヘシ
- 第三條 畜犬傳染病ニ罹リタルトキハ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 但此場合ニ於テハ時宜ニ依リ撲殺スルコトアルヘシ
- 第四條 頸環又ハ牌子ナキ犬ハ無主ノモノトシ處分スヘシ

第五條 第二條ノ繋鎖ヲ怠ルニ因リ違警罪ニ處セラレタル時ハ其畜犬ヲ警察署又ハ分署ニ於テ撲殺スルコトアルヘシ

水火災害及消防

○消防組設置準則

〔沿革〕開拓使ノ時官設消防組アリ規則ノ改廢其他一時ノ令違頗ル多シ沿革目錄ニ詳ニス〇十五年四月札幌縣甲第二十一號布達札幌市街消防規則ヲ定ム〇十七年九月根室縣丁第三十八號達根室市街消防事務規則改正〇二十一年三月北海道廳訓令第三十二號消防組設置準則ヲ定メ元三縣ノ規定スルモノ消滅ス

○明治二十一年三月二十七日北海道廳訓令第三十二號警察署宛

消防組設置準則左ノ通定ム

消防組設置準則

- 第一條 消防組ハ區町村ノ部落ニ從ヒ其必要ニ應ジ之ヲ設置ス可シ
- 第二條 消防組ハ警察署ノ管理トス
- 第三條 消防組ハ區町村部落ノ大小如何ニ從ヒ一個又ハ數個ノ組合ニ編制ス可シ
- 第四條 消防組ハ左ノ資格ヲ有スル男子ヲ以テ編制ス可シ
 - 一 區町村ノ現住者
 - 二 滿十七歲以上滿五十歲以下ノ者
 - 三 公權ヲ有スル者
- 第五條 前條ノ資格ヲ有スル者ハ志願又ハ命令ニ依リ之ヲ編入ス可シ

第六條 消防組ハ左ノ三役トス

- 一 組頭
- 二 小頭
- 三 消防手

第七條 組頭小頭ハ消防組合ノ公撰ヲ以テ之ヲ定ム可シ但時宜ニ依リ警察署ニ於テ直ニ之ヲ命スルヲ得

第八條 消防組ニ司令長及ヒ司令副司令ヲ付ス可シ

第九條 司令長ハ上席警部又ハ警部補司令副司令ハ警部警部補又ハ巡查ヲ以テ便宜之ニ充ツ可シ

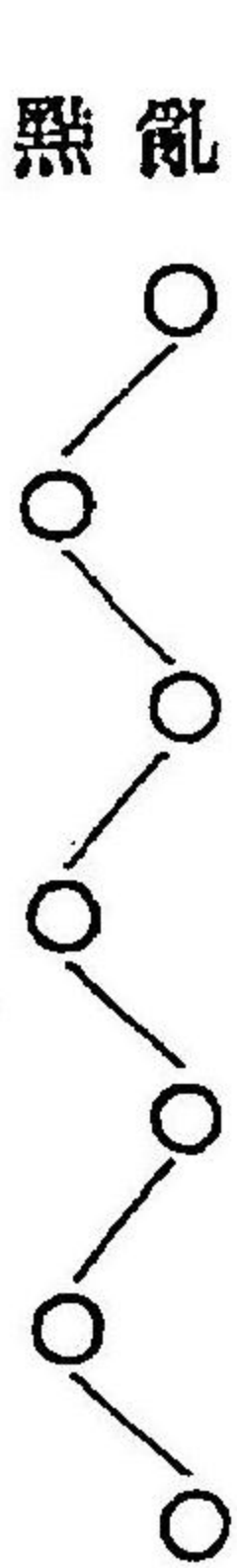
第十條 警察署長ハ其管内各消防組ノ總指揮官タル可シ

第十一條 司令長以下出火場ニ出ル時ハ晝夜ノ區別ニ依リ見易キ徽章ヲ携帯ス可シ

第十二條 消防組ノ徽章ハ警察署ニ於テ適宜之ヲ定ム可シ但組頭小頭消防手ノ區別ヲ分明ナラシムルヲ要ス

第十三條 出火ノ信號ハ半鐘トシ其打方ハ左ノ例ニ依ル可シ

一 官衙若クハ其近傍



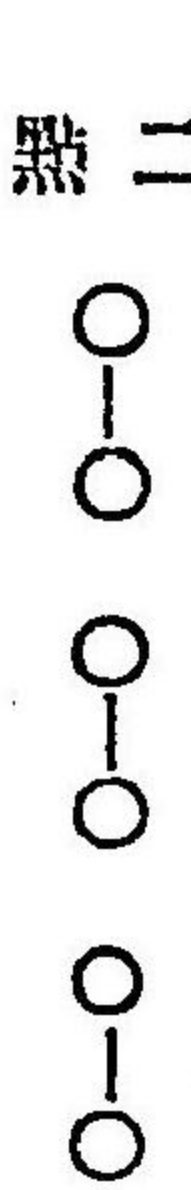
二 一區又ハ一町村内



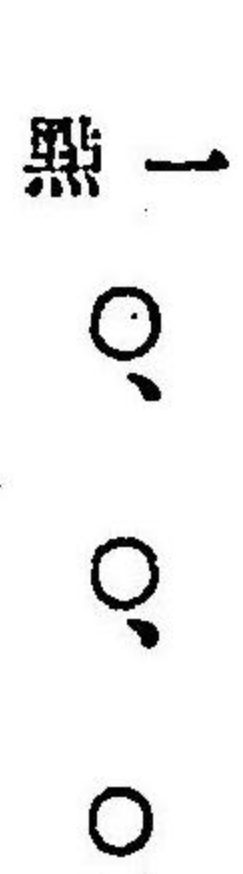
三



三 一區又ハ一町村外



四 鎮火



第十四條 消防組ノ演習ハ一年二回以上トシ尙ホ時々召集點檢ス可シ

第十五條 消防組ニハ一定ノ足留金ヲ給與スルヲ得

第十六條 消防上特ニ功勞アル者及負傷シタル者ノ賞金又ハ手當金ノ給與ハ豫メ規約ヲ定メ之ヲ支給スルヲ得

第十七條 消防組ノ怠慢失誤其他不行跡アル者ハ豫メ規約ヲ定メ除名又ハ停勤ノ處分ヲ爲スヲ得

第十八條 私設消防組ヲ願出ルモノアル時ハ區町村ノ折合ヲ慮リ之ヲ認可スルヲ得

第十九條 消防組ニ關スル經費ハ毎年度其豫算ヲ郡區役所ニ報告ス可シ

第二十條 出水等ノ防禦方モ亦消防組ヲ以テ之ニ充ツルヲ得

第二十一條 消防組編制及ヒ給與細則又ハ實地消防順序方法其他諸規約ノ類ハ警察署長ニ於テ便宜之ヲ定メ施行ス可シ

本則ニ依リ消防組ヲ設置シタル時ハ速ニ之ヲ届出可シ

第十三類

農耕及樹藝

〔沿革〕開拓使ノ時農產買上、菓木苗分與、樹木菓木培養、農具拂下、種子拂下等令達諭達少カラス概テ應使ト共ニ消滅ス沿革目錄ニ詳ニス〇十八年五月札幌縣諭達シ札幌街路ニ樹木栽植ヲ勸誘ス〇十九年五月北海道廳根室支廳甲第十五號樹木移植取締規則ヲ定ム二十年四月同廳令第三十三號ヲ以テ廢ス

〇札幌市街樹木栽植ヲ諭示ス

〇明治十八年五月十四日札幌縣無號諭達

街路ニ樹木ヲ栽植スルハ衛生上最モ緊要ノ點トス夫レ樹木ハ酸素ヲ吐キ炭素ヲ吸收スルヲ以テ常ニ大氣ヲ清淨ニシテメニ精神ノ爽快ヲ覺ヘシメ又火災暴風ノ防禦トナリ且ツ市街ノ風致ヲ美麗ナラシム故ニ歐米各國ニ於テ人家稠密ノ場所ハ樹木ヲ栽植セサルハナシ幸ニ札幌ハ街路ノ設ケ廣濶ニシテ樹木ヲ植ユルニ宜ニ付本年ヨリ漸次此有用ナル樹木ヲ栽植候様可致此旨諭達候事但樹木ノ種類及ヒ栽植方等ハ札幌區役所ノ指圖ヲ受クヘシ

養蠶

〔沿革〕開拓使創置以來蠶種原紙拂下ヲ爲シ或ハ養蠶製糸業修業生ヲ募リ上州富岡ニ派遣スル等勸誘一ニシテ足ラス六年十月函館支廳民第二十一號達諭原紙并蠶種紙規則ヲ定ム〇八年四月同使布達養蠶成繭條例ヲ定ム〇九年五月同使乙第二號布達養蠶條例ヲ定ム乙第三號布達野桑伐採ヲ禁ス〇十一年八月札幌本廳

甲第二十四號布達野桑保護假規則ヲ定ム○十一月同使乙第二十八號布達野桑條例ヲ改正ス○十二年三月函館支廳第二十七號布達野桑摘葉取締規則ヲ定ム十六年七月函館縣甲第三十一號布達ヲ以テ之ヲ廢ス○二十年六月北海道廳令第六十七號ヲ以テ農商務省令第九號蠶種檢査規則ニ據リ蠶種檢査所名稱位置及夏秋蠶種檢査期日ヲ定ム○二十三年五月北海道廳令第三十四號蠶種製造販賣取締規則ヲ定メ農商務省令第九號蠶種檢査規則ハ本道ニ施行セサルモノトス

◎蠶種檢査所名稱位置及檢査期日

○明治二十年六月十三日北海道廳令第六十七號

明治十九年八月農商務省令第九號蠶種檢査規則第四條第六條ニ據リ蠶種檢査所名稱位置及夏蠶種秋蠶種檢査期日ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 蠶種檢査所名稱位置及檢査區域ハ左ノ如シ

名稱	位置	檢査區域
札幌蠶種檢査所	石狩國札幌區大通東一丁目 <small>(二十二年告示第三十八號ニテ移轉)</small>	石狩國、天鹽國、北見國、根室國、千島國、釧路國、十勝國、日高國
札幌蠶種檢査所	石狩國札幌區大通東一丁目 <small>(二十二年告示第三十八號ニテ移轉)</small>	後志國ノ内小樽、高嶋、忍路、余市、古平、美國、積丹、岩内、古宇、九郡
		膽振國ノ内室蘭、此田、有珠、幌別、白老、勇拂、千歲、七郡

七重蠶種檢査所

渡島國龜田郡七飯村

渡島國 後志國ノ内久遠、奥尻、太櫓、瀨棚、壽都、島牧、磯谷、歌棄、八郡
膽振國ノ内山越郡

第二條 石狩國札幌區及ヒ札幌郡ノ製造ニ係ル蠶種ハ札幌蠶種檢査所ニ於テ渡嶋國函館區及ヒ龜田郡ノ製造ニ係ル蠶種ハ七重蠶種檢査所ニ於テ檢査シ其他ノ蠶種ハ巡回檢査スルモノトス但檢査所遠隔ノ地ニ在テ少數ノ蠶種ヲ製造スルモノハ便宜最寄檢査所へ取寄セ檢査スルコトアルヘシ

第三條 初度夏蠶種ハ毎年七月一日ヨリ再度夏蠶種秋蠶種ハ毎年十月一日ヨリ檢査スヘシ

◎蠶種製造販賣取締規則

○明治二十三年五月三十一日北海道廳令第三十四號

蠶種製造販賣取締規則左ノ通之ヲ定ム

但明治十九年ハ農商務省令第九號蠶種檢査規則ハ農商務大臣ノ認可ヲ得北海道ニ施行セス

蠶種製造販賣取締規則

第一條 凡管内ニ於テ蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ賣買セントスルモノハ此規則ニ依ルヘシ
第二條 管内ニ於テ蠶種ヲ製造スルモノ及當道外ヨリ蠶種ヲ輸入スルモノハ此規則ニ從ヒ其檢査ヲ受クヘシ

第三條 販賣ノ目的ヲ以テ蠶種ヲ製造スルモノ及蠶種仲買ヲ營業セントスルモノハ郡區役所ヲ經當廳へ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第四條 當廳検査證印ナキ蠶種ハ之ヲ飼育スルコトヲ得ス
 第五條 當廳ノ販賣蠶種證印ナキ蠶種ハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス
 第六條 特ニ販賣ノ目的ヲ以テ此規則ニ從ヒ製造シ検査ヲ受タル蠶種ニアラサレハ販賣蠶種ノ證印ヲ付セス

但當道外ヨリ輸入シタル蠶種ニシテ當廳ノ検査證印アルモノハ此限ニアラス
 第七條 左ノ資格ヲ有スルモノニアラサレハ販賣ニ供スル蠶種ヲ製造スルコトヲ得ス

一 三ヶ年以上養蠶ニ従事セシモノ
 一 原紙二枚又ハ蠶量八匁以上飼育スルモノ
 第八條 販賣ニ供スル蠶種製造ニ用ユル蠶繭ハ左ノ二項ニ該當スルモノニ限ル

一 種類良好ニシテ純粹ノモノ
 一 蠶兒健全無病ノモノ
 第九條 他人ノ成繭或ハ蛾ヲ(註)受ケ又ハ玉繭薄皮繭其他形狀不齊ノ繭ヲ用ヒ販賣ニ供スル蠶種ヲ製造スルコトヲ得ス

第十條 販賣ニ供スル蠶種製造ニ用ユル原紙ハ一蛾製ニ限ル
 但種類改良ノ爲メ當道外ヨリ購入シタル蠶種ハ一蛾製ニセサルモノト雖モ當廳ノ検査ヲ受ケ無毒ナルトキハ販賣ニ供スル蠶種ノ製造ニ用ユルコトヲ得

第十一條 販賣ニ供スル蠶種ニハ其原紙ノ量目蠶種ノ種名飼育法ノ名稱製造人住所氏名ヲ詳記ス
 第十二條 販賣ニ供スル蠶種ヲ製造スルモノハ毎年四月三十日限り原種ノ種類掃立高及製造豫算

額ヲ當廳ニ届出撰繭ノ上ハ當廳検査員ノ検査ヲ受クヘシ検査ヲ受ケサル繭ヲ以テ販賣ニ供スル蠶種ヲ製造スルコトヲ得ス

前項製造者ハ別紙第一號書式ノ養蠶日記ヲ調製シ之ヲ検査員ニ示シ飼育ノ實況ヲ詳細説明シ生繭ノ検査ヲ受ケタルトキハ日記ノ末ニ検査員ノ證印ヲ受クヘシ

検査ノ際蠶種製造ニ適當セサルモノト認めルキハ其製造ヲ停止セシムルコトアルヘシ
 第十三條 自家ノ用ニ供スル目的ヲ以テ蠶種ヲ製造スルモノハ毎年八月三十一日マテニ原種ノ種類掃立高及製造額若クハ製造豫算額ヲ當廳ニ届出ヘシ

第十四條 前條ノ蠶種ヲ製造スルモノト雖モ原種證印アル蠶種ヲ飼育スルニアラサレハ蠶種ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條 石狩國札幌ニ蠶種検査所ヲ置キ札幌區及札幌郡内ノ製造ニ係ル蠶種及當道外ヨリ輸入シタル蠶種ヲ検査シ其他ハ便宜郡區役所ニ取纏メ巡回検査ス

第十六條 製絲用蠶種ノ検査ハ毎年九月一日ヨリ原種ノ検査ハ十月一日ヨリ始ム
 但夏蠶種(夏期飼育スルモノ)ハ當分検査ヲ施行セス

第十七條 販賣ニ供スル蠶種ハ本則第十一條ニ從ヒ第十二條ノ養蠶日記ヲ添へ販賣ニ供スル蠶種製造用原種及自家ノ用ニ供スル蠶種ニハ製造人ノ住所氏名ヲ詳記シ原種製絲用種ヲ區別シ検査所又ハ當廳ノ指定スル場所ニ差出スヘシ

第十八條 病毒ノ歩合原種ニ於テハ百分ノ五以下製絲用種ニ於テハ百分ノ十三以下ノモノニ検査證印ヲ付シ其以上ノモノニハ都テ廢棄證印ヲ付ス
 但販賣蠶種ノ本則ニ依ラサルモノ又ハ養蠶日記ニ檢印ナキモノニハ検査證印ヲ付セス

第十九條

廢棄證印ヲ付シタル蠶種ハ檢査終了ノ上當應ニ於テ便宜燒棄スヘシ
但本文ノ蠶種ハ檢査終了ノ日ヨリ一ヶ月間札帳檢査所ニ搬置キ蠶種製造者ニシテ之レカ一見
ヲ請フモノアルトキハ其望ニ應スヘシ

第二十條

蠶種ヲ販賣スルモノハ翌年五月三十一日限り別紙第二號書式ニ倣ヒ賣買ノ實額ヲ當應
ニ届出ヘシ

第二十一條

販賣ニ供スル蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種仲買ヲ營業トスルモノ左ノ場合ニ於テハ鑑札ヲ
返納シ又ハ書換若クハ再渡ヲ願出ヘシ

一

當道外ニ寄留若クハ轉籍スルトキ

一

廢棄スルトキ

一

改氏名又ハ轉居其他鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキ

一

鑑札ヲ紛失又ハ毀損シタルトキ

第二十二條

販賣用蠶種製造鑑札又ハ蠶種賣買鑑札ヲ有スルモノ休業一ケ年ニ渉ルモノハ其旨届
出ヘシ

第二十三條

本則第二條第三條第四條第五條第十二條第一項ニ違背スルモノハ違警罪ヲ以テ罰セ
ラルヘシ

(第一號書式)

「一種類毎ニ調製スヘシ」

養蠶日記

國郡町
製造人 氏

名

原種掃立何種若干蛾

一 掃立何月何日何時此蠶量何々何分

一 初眠何月何日何時桑留メ

一 一齡間給桑若干回

一 初眠起何月何日何時桑付ケ

一 二眠何月何日何時桑留メ

一 二齡間給桑若干回

一 二眠起何月何日何時桑付ケ

一 三眠何月何日何時桑留メ

一 三齡間給桑若干回

一 三眠起何月何日何時桑付ケ

一 四眠何月何日何時桑留メ

一 四眠起何月何日何時桑付ケ

一 上簇何月何日

一 五齡間給桑若干回

一 收購何石何斗何升何合

一 上繭 若干

一 玉繭 全

屑繭 全
 掃立ヨリ上簇迄 何十何日何時間
 給桑回数 何百何十何回
 製種用撰繭 何石何斗何升何合
 全 一升ノ顆數 若干
 製種 若干枚
 若干枚分
 備考(飼育ノ方法蠶病ノ景況等其概要ヲ簡明ニ記載スヘシ)
 右之通り相違無之候也

明治 年 月 日 國郡町番地
 蠶種製造人 氏 名 印

(第一號書式) 蠶種販賣高御届

蠶種類	數	量	検査証印	販賣地	代價
小石丸又ハ赤熟ノ類	枚數一蠶製ナラハ蠶數	原種又ハ製糸用種ノ類	國郡賣地名ノ	合	金 員
以下全シ					
合計					

右ハ明治何年製造ノ蠶種賣捌高相違無之此段御届候也

明治 年 月 日 國郡町番地
 北海道廳 御 中 蠶種販賣人 氏 名 印

牧畜

(沿革)開拓使創置以來牛馬取締及種畜貸與牧畜改良等ノ令達少カラス沿革目録ニ詳ナリ〇八年四月同使札幌本廳甲第二十六號布達牛馬取締規則ヲ定メ十三年四月甲第三十二號布達ヲ以テ之ヲ廢ス〇八年六月二十八日函館支廳無號布達函館區中牛馬取締規則ヲ定メ十年五月第五十五號布達ヲ以テ函館區外牛馬取締規則ヲ定メ第五十六號布達ヲ以テ函館區中取締規則ヲ改正ス〇十一年四月函館支廳第三十二號達牛馬豚貸付假規則ヲ定ム〇同年五月根室支廳第十八號達私有牛馬假規則ヲ定ム〇四月札幌本廳丁第三十七號布達惡種ノ牡馬罌丸截除方ヲ達ス〇同月函館支廳第四十六號達同上十二月ニ至リ第九十九號達同上牧畜者心得ヲ定ム〇十四年五月同上第三十號布達牛馬取締規則ヲ定ム〇十五年十二月函館縣乙第五十二號達十一年第三十二號牛馬豚貸付假規則ヲ廢シ農商務省達ニ據ラシム〇十六年八月同上第三十八號布達牧場取締規則ヲ定ム〇十七年二月札幌縣甲第八號布達種牛馬貸與規則ヲ定ム九月甲第六十號布達牛馬取締規則乙第二百三十八號達同上取扱手續ヲ定ム〇十八年三月同上甲第十五號布達種畜取締規則ヲ定ム〇十九年八月北海道廳乙第十五號達種豚貸與規則

ヲ定メ二十年廳令第九十二號ヲ以テ之ヲ廢シ更ニ種豚貸與手續ヲ定ム○十九年九月同廳甲第九號布達牛馬貸與規則ヲ定ム○二十年十月同廳令第九十九號民有牛馬籍規則ヲ定メ全日訓令第二百二十五號取扱手續ヲ定ム○二十二年七月同廳令第四十五號牛馬放牧ヲ禁ス

◎牛馬貸與規則

○明治十九年九月一日北海道廳甲第九號布達牛馬貸與規則左ノ通相定ム

但從前貸與ノ分モ此規則ニ準據スヘシ
右布達ス

牛馬貸與規則

- 第一條 種牛馬貸與ヲ乞フモノハ甲號雛形ノ願書ヲ出シ許可ノ上ハ乙號雛形ノ拜借證ヲ出スヘシ
- 第二條 貸與及返納ニ係ル一切ノ費用ハ借主ノ自辨タルヘシ
- 第三條 牝牛馬貸與年限牛ハ三ケ年馬ハ四ケ年トシ滿期ニ至リ返納セシムヘシ
但牛ハ二十四ヶ月馬ハ三十六ヶ月未滿ノモノヲ貸與スルモ其月數ニ滿ルマテハ本條年限ニ算入セズ
- 第四條 貸與牝牛馬ヨリ生産セシ駒犢ハ當廳ノ指示ニヨリ初産ニ産ノ内一頭ヲ上納スヘシ上納ノ後其牝牛馬ハ無代價借受人ニ下付スヘシト雖モ牛ハ齡十歲馬ハ同十二歲ニ至ル迄ハ當廳ノ許可ヲ經ルニアラザラハ買賣讓與スルヲ得ス(二十二年七月廳令第四十七號ヲ以テ更正)
但無代價下付ヲ受ケタルモノハ已號雛形ノ契約書ヲ差出スヘシ

第五條 上納ニ充ツヘキ犢ハ生産後十八ヶ月駒ハ二十四ヶ月以上ヲ經過シ牀格健全ノモノタルヘシ時機ニ依リ其期限内ニ上納セシムルヲアルヘシ

第六條 交尾ノ景況ハ毎年十二月限り丙號雛形ニ據リ分娩死亡失跡ハ其都度丁號戊號雛形ニ據リ届出ヘシ
但死亡ハ獸醫ノ診斷書若クハ戸長役場ノ證明書ヲ添付スヘシ

第七條 疾病ノ徵候アルモ速ニ治療ヲ加ヘ其景況ヲ届出ヘシ

第八條 畜養ヲ粗畧ニシ又ハ交尾ノ適度ヲ超過シ若クハ本則ニ違犯スルモ直ニ返納セシムヘシ

第九條 貸與種牛馬及上納スヘキ駒犢ヲ失跡セシメ又不注意ニ依リ斃死セシムルモハ相當ノ代價ヲ辨納セシム(二十二年廳令第四十七號ヲ以テ更正)

第十條 貸與中ハ時々主務官吏ヲ派遣シ畜養ノ實況ヲ視察セシムヘシ
(甲號)

種牛馬拜借願

牧馬(改良)蕃殖ノ爲メ何種何頭(牝牡ヲ區別ス)拜借仕度候間御許可被成下度目論見書相添此段奉願候也

年月日	族籍住所
	拜借人 何 之 誰印
	同 何 之 誰印
	保證人 何 之 誰印
	同 何 之 誰印

北海道廳長官氏名殿
郡區長與印

保證人 何 之 誰 印

目論見書

- 一 牧場ノ位置及面積
- 一 肉牛乳牛耕牛(乘馬、農馬)ノ内何々ヲ蕃殖ノ見込
- 一 牧牛馬何頭ヲ所持シ或ハ新ニ起業何頭購入ノ見込
- 一 地味ノ良否播種物ノ生育及飲用水ノ景况
- 一 管理方法ノ概略
- 一 冬季牧牛馬飼料ニ供スル草穀ノ種類

(乙號)(證券) 貼付スヘシ

拜借證

牧牛(改良)蕃殖ノ爲メ何種何頭(牝牡ヲ區別ス)御貸與相成正ニ拜借仕候就テハ種牛馬貸與規則確守可仕ハ勿論平素鄭重ニ取扱可申萬一不注意ヨリ拜借馬牛ヲ失跡又ハ斃死セシムルハ相當ノ代價辨納可仕若シ本人ヨリ上納致シ難キ節ハ保證人ニ於テ引受辨納可仕依テ保證人連署拜借證如件

年月日

族籍住所 拜借人 何 之 誰 印

(丙號)

北海道廳長官氏名殿

保證人 何 之 誰 印
同 何 之 誰 印

拜借(牛馬)自明治何年何月何日交尾御届

種 類		名 號		年 齡		毛 色		産 地		拜 借		畜 養		交 尾		事 由	
何々種	何々	何々	何々	何才	何毛	何々	何々	何々	何々	何年何月何日	何年何月何日	何々	何々	何回	何回	種牝ノ種類毛色名號等ヲ明記スヘシ	

右之通候也

年月日

北海道廳勸業課
御中

族籍住所

何

之

誰印

(丁號)

產出 牝 御届

種類	名號	牝區別	毛色	產地	生産年月日	血統	事
何々種	何々	牝或牝	何毛	何々	何年何月何日	父種類 母種類	體格良否ノ大畧ヲ記スヘシ
							由

(戊號)

馬牛 死亡 御届

種類	名號	牝區別	年齡	毛色	產地	拜借年月日	畜養地名	事
何々種	何々	牝或牝	何才	何毛	何々	何年何月何日	何々	何年何月何日何病ヲ發シ何月何日歿死 (又ハ何々ニテ失跡)
								由

右之通候也

族籍住所

年月日

北海道廳勸業課
御中

何

之

誰印

(己號)(證券印紙貼用スヘシ)

契約書

一何種牝馬 名號、毛色、生年月(四十二年七月廳令第
右ハ明治十九年御廳甲第九號牛馬貸與規則第四條ニ依リ御下付相成候ニ付テハ(馬)種改良ノ御
趣意ヲ奉シ(馬齡十二才)ニ至ル迄ハ官ノ御許可ヲ得ルニアラサレハ決シテ他へ賣渡讓與等仕間敷
萬一此契約ニ違背候節ハ該畜又ハ相當ノ代價御取上相成候共聊苦情申上間敷若本人不在又ハ事
故有之候節ハ保證人ニ於テ本人ノ義務一切引受可申候爲後日保證人連署契約書如斯候也

年月日

族籍住所

本人 何

之

誰印

全

保證人 何

之

誰印

全

何

之

誰印

北海道廳第二部長宛

◎種豚貸與手續

○明治二十年十月六日北海道廳告示第四百二十二號

種豚貸與手續左ノ通定ム

但從前貸與ノ分モ此手續ニ據ルヘシ

種豚貸與手續

- 第一條 種豚貸與ヲ乞フ者ハ毎年一月ヨリ四月迄ノ間ニ別紙甲號離形ノ願書ヲ出シ許可ノ上ハ乙號離形ノ證書ヲ出スヘシ
- 第二條 種豚ハ一戸ニ付杜登頭牝貳頭ヲ貸與ス但願人ノ情況又ハ官ノ都合ニ依リ特ニ頭數ヲ増減スルコトアルヘシ
- 第三條 貸與セル種豚杜登頭牝貳頭ニ付生産兒豚杜登頭牝貳頭ノ割ヲ以テ滿ニケ年間ニ上納スヘシ上納ノ後其種豚ハ無代價ヲ以テ借受人ニ付與スヘシ但生産後十二ヶ月未滿ノ者ヲ貸與スルキ其月數ニ滿ル迄ハ本條年限ニ算入セス
- 第四條 上納ニ充ツヘキ兒豚ハ生産後四ヶ月以上ヲ經過シ體格健全ノ者ニ限ル
- 第五條 受取及上納ニ關スル費用ハ借主ノ自辨トス但時宜ニ依リ甲ヨリ上納スヘキモノヲ移シテ直ニ乙ニ貸與スルコトアルヘシ
- 第六條 貸與種豚死亡若クハ失踪セシキハ其事由ヲ詳記シ保證人連署第二部へ届出ヘシ
- 第七條 種豚貸與ヲ受ケタルモノハ其初年蓄殖ノ景況ハ丙號離形ニ其後二年間ハ丁號離形ニ依リ毎歲十二月ニ取調ヘ第二部へ届出ヘシ(二十二年一月道廳告示第八號ヲ以テ本文ノ通改正)
- 第八條 種豚貸與中ハ主務官吏ヲ派遣シ飼養ノ景況ヲ視察セシムルコトアルヘシ
- 第九條 貸與種豚ノ飼育ヲ粗略ニシ若クハ此手續ニ違背スルキハ直ニ返納セシメ不注意ヨリ斃死若クハ失踪セシキハ相當ノ代價ヲ辨償セシムヘシ

甲號

種豚拜借願

豚蓄殖ノ爲メ杜何頭牝何頭拜借仕度保證人連署此段奉願候也

年月日

何國何郡何町番地士族平民
願人 何 誰

全 上
保證人 何 誰

北海道廳長官姓名殿

戶長與印

乙號(證券印紙貼用)

種豚拜借證

豚蓄殖ノ爲メ杜豚何頭牝豚何頭正ニ拜借仕候就テハ種豚貸與手續確守可仕ハ勿論平素鄭重ニ取扱萬一不注意ヨリ失踪又ハ斃死セシムルキハ相當ノ代價辨償可仕若シ本人ヨリ上納難致節ハ證人ニ於テ引受辨償可仕爲後證連署如件

年月日

何國何郡區町村番地士族平民
拜借人 何 誰
全 上
保證人 何 誰

北海道廳長官姓名殿

丙號

豚養殖御届

二十一年一月二日
告示第八號
以形丙第
シナ道形丙第
ナ元道形丙第
トナ元道形丙第
ス丁丙加形丙第

年 齡	事故		計	屠殺	賣却	斃死	失踪	計	差引現數
	牝	牡							
六ヶ月未満									
六ヶ月以上 十二ヶ月未満									
十二ヶ月以上									
計									

備考(假令ハ牝牡ノ内單ニ一頭ヲ借受ク之ヘ所有ノ牝或ハ牡ヲ配尾セシメタルトキハ本表中
ヘ所有ノ分ヲモ併記シ置キ其事由ヲ此欄内ニ記載シテ官私ノ區別ヲ説明スヘシ)

右御届仕候也

年月日

北海道廳第二部

御中

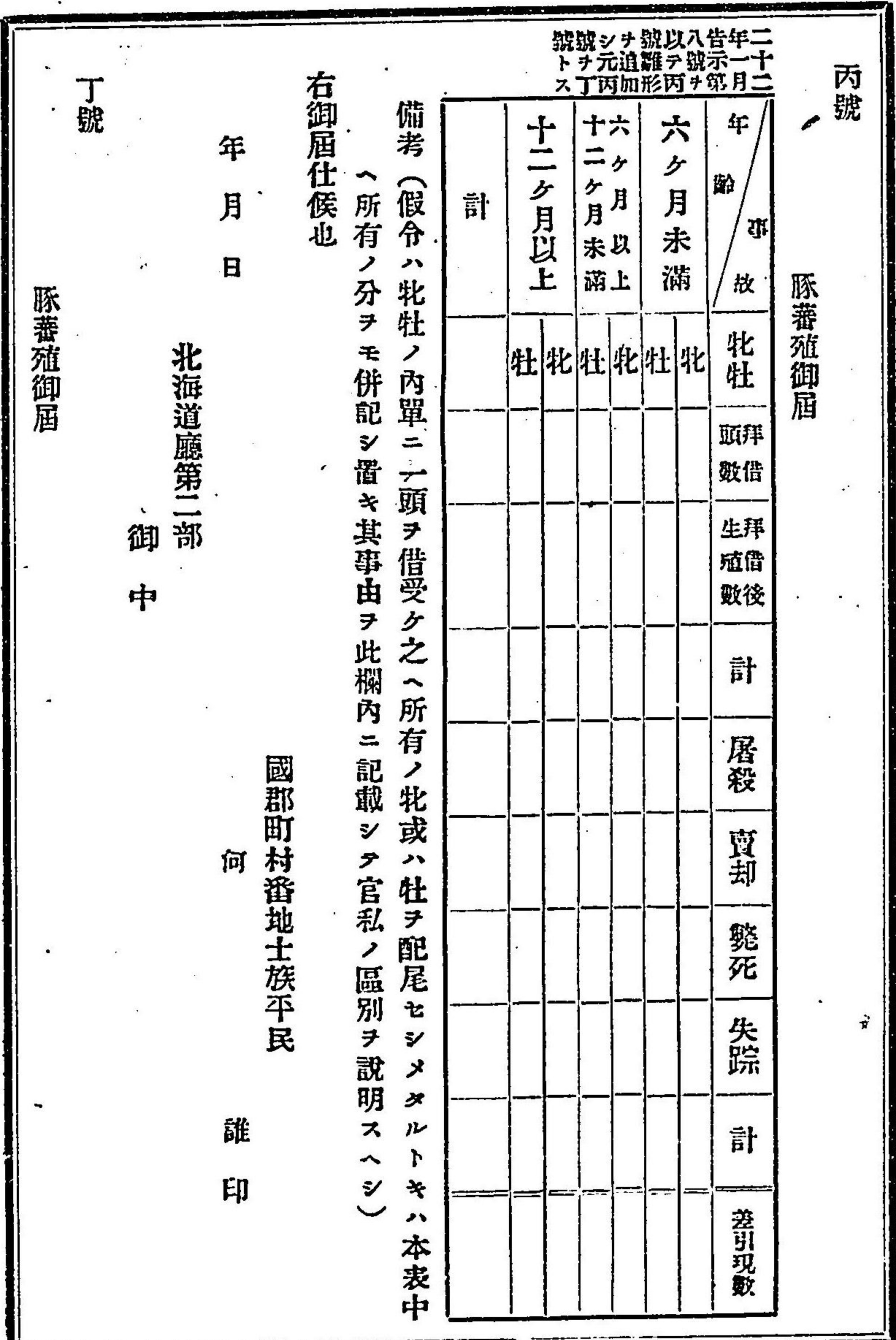
國郡町村番地士族平民

何

誰印

丁號

豚養殖御届



年 齡	事故		計	屠殺	賣却	斃死	失踪	計	差引現數
	牝	牡							
六ヶ月未満									
六ヶ月以上 十二ヶ月未満									
十二ヶ月以上									
計									

右御届仕候也

年月日

北海道廳第二部

御中

國郡町村番地士族平民

何

誰印

◎民有牛馬籍規則及取扱手續
 明治二十年十月二十八日北海道廳令第九十四號
 民有牛馬籍規則左ノ通相定明治二十一年一月一日ヨリ施行ス
 但明治十四年五月舊開拓使函館支廳第三十號布達全十七年九月舊札幌縣甲第六十號布達全十一年五月
 舊開拓使根室支廳第十八號達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
 民有牛馬籍規則

第一條 牛馬出生又ハ之ヲ買受讓受タル者ハ三十日以内ニ第一號書式ノ届書ヲ所轄(戶長役場設置ナキ地方ハ郡區役所以下之ニ倣フ)ヘ差出ヘシ

第二條 牛馬斃死若クハ屠撲殺又ハ賣渡シタル者ハ三十日以内ニ第二號書式ノ届書ヲ所轄戶長役場ヘ差出スヘシ

第三條 牛馬逃逸或ハ盜難ニ罹リ一ケ年ヲ經尙所在不明ノ場合ニ於テハ顛末ヲ記シ所轄戶長役場ニ届出ヘシ

附 則

從來牛馬ヲ所有スル者ハ明治二十一年一月一日迄ニ該畜ノ名稱產地種類血統毛色年齢寸尺ヲ詳記シ所轄戶長役場ヘ届出ツヘシ

(第一號書式)

馬牛(出生)(買受)(讓受)御届

何國何郡(區)何町村何番地族籍

買受人 何 誰 出生ノ時ハ記入セス

一(牝)(牡)馬牛
 名號 何々
 產地 何國何郡何町村
 種類 内外國種ノ別又ハ何種類何回雜種(馬ハ乘用農用等ノ別ヲ記ス)
 血統 父何母何或ハ不詳
 毛色 何毛(牛ハ記載スルニ及ハス)

年齢 何歳(出生屆ノ時ハ除ク)
 寸尺 何尺何寸
 右何年何月何日(出生)私(讓買受)候間及御届候也

何國何郡何町村何番地族籍
 何 之 誰 印

年月日 何町村戶長宛

(第二號書式)

用紙半紙
 馬牛(斃死)(屠撲殺)(賣渡)(讓渡)御届

何國何郡區何町村何番地族籍

讓渡人 何 誰 斃死屠撲殺ノ時ハ記入セス

一(牝)(牡)馬牛
 名號 何々
 產地 何國何郡區何町村
 種類 内外國種ノ別又ハ何種類何回雜種(馬ハ乘用農用等ノ別ヲ記ス)
 血統 父何母何或ハ不詳
 毛色 何毛(牛ハ記載スルニ及ハス)
 年齢 何歳
 寸尺 何尺何寸
 右何年何月何日(何々ノ爲メ斃死)(屠撲殺)又ハ讓買渡候間及御届候也

青森縣上北下北三郡ニ於テ馬匹ヲ賣(讓)渡シタルトキハ其證トシテ該地方產馬事務所ヨリ賣(讓)渡先ノ所屬郡區役所又ハ戶長役場ヘ左様式ノ馬券ヲ送付スヘキニ付明治二十年十月常應令第九十四號民有牛馬籍規則第一條ニ依リ買(讓)受人ヨリ届出ニ際シ馬券到達セサルトキハ其旨該地方產馬事務所ヘ通報スヘシ

(用紙程村紙八ツ切)

第 號	馬 匹 證 券	下 付 主 任 檢 印
父	何々種何毛何歳何郡何組又ハ何府縣何郡何町村	
母	全 上	
表 割 一	何々種何毛何歳	何 年 月 日
右 借 用 ノ 證 ト シ テ 本 券 ヲ 下 付 ス	旋毛何々	尺 寸
年 月 日	何 郡 何 組	何 郡 何 組
	產 馬 事 務 所 印	

裏

賣却年月日	買取人	受取郡名	全町村名	全姓名	名上	送籍地 組合長某印	縣郡何姓名	入籍年月日	受籍地 組合長某印	縣郡何姓名

鳥獸獵

◎鹿獵規則

(沿革)明治八年九月開拓使札幌本廳日高廳振兩國鹿獵規則十一月夕張外三郡同上規則ヲ定メ九年四月根室支廳同上假規則ヲ定ム○同年十一月同使乙第十一號布達鹿獵規則ヲ定ム十一月六月乙第二十號ヲ以テ改正ス○二十二年北海道廳令第二十二號ヲ以テ當分ノ内鹿ヲ獵獲スルヲ禁ス

○明治二十二年三月二十三日北海道廳令第二十二號

本道ニ於テ當分ノ内鹿ヲ獵獲スルヲ禁ス違フ者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

◎毒矢ヲ以テ獸獵スルヲ禁ス

○明治九年九月二十四日札幌本廳甲第二十六號布達
 從來土人共毒矢ヲ以テ獸類ヲ射殺スル風習ニ有之候處右ハ獸類生息妨害不悞ニ付今後堅ク相禁候
 然ルニ土人ノ舊慣一時常業ヲ失ヒ目下困難ノ者可有之ニ付他ノ新業ニ移ルヘキハ之ヲ移シ又ハ獵
 銃ヲ換用セントスル者ヘハ之ヲ貸與シ年々收獲ノ鹿皮十分ノ二ヲ以テ漸々獵銃ノ代價ヲ償還爲致
 將來生計ノ途ヲ失ハシメサル様誘導方厚ク注意可致尤彈藥購入不便ノ地ハ該分署ニ於テ適宜拂下
 取計且銃器取扱ノ義ハ精密教示可致此旨布達候事

◎田畑山野等ニテ「アマツボ」ヲ設クルヲ禁ス

○明治十四年十一月二十九日開拓使函館支廳第七十五號布達

從來田畑山野等ニ於テ「アマツボ」ト唱フル器具ヲ取設ケ獸類ヲ取獲スルモノ有之候處右ハ危險
 不少ニ付自今猥リニ相設候義不相成尤モ猛獸等ノ人害ヲ爲スニヨリ不得止「アマツボ」ヲ取設
 候節ハ其場ニ於テ人目ニ觸易キ目印ヲ立又ハ細張等ヲ爲シ人人人心附キ不近寄様可致此旨布達候
 事

◎山林官吏巡林中銃獵ヲ許ス

○明治十二年九月十二日開拓使札幌本廳乙第五十二號達分署宛

山林係官吏巡林ノ節猛獸ノ害ヲ防キ又ハ有害ノ鳥獸ヲ除クヘキ爲メ其區域内ヲ限リ銃獵差許シ獵
 形ノ通鑑札相渡シ且時宜ニ因リ監守人ヘモ銃獵差許ス義モ可有之候條爲心得此旨相達候事

鑑札雛形

根長二寸幅一寸五分

烙記	第何號	烙記
山林除害銃鑑札	開拓使	年月
開拓使本廳 民事局地理課 官姓名	開拓使	開拓使

◎有害鳥獸獵及威銃免許手續

○明治十三年八月二十五日開拓使函館支廳第六十四號布達

明治十年十一月第十一號公布鳥獸獵規則第二條ニ依リ有害鳥獸銃殺及ヒ威銃免許ノ手續左ノ通相
 定メ候條此旨布達候事

第一項 有害鳥獸ヲ除クカクメ銃殺及威銃出願ノ者ハ郡區役所ヨリ該鑑札ヲ附與スヘシ
 但本文ノ鑑札ヲ以テ普通ノ鳥獸ヲ銃獵シ又ハ貸借スルヲ禁ス

第二項 有害鳥獸ヲ除クカクメ銃殺及威銃スルモノハ稅ヲ納ムルニ及ハス

第三項 有害鳥獸銃殺ハ別ニ期限ヲ設クスト雖モ該鑑札ハ本人死去スレハ返納スヘシ遺失又ハ住
 所移轉其他鑑札而齟齬ヲ生スル事故アルモ其事由ヲ届出處分ヲ乞フヘシ

第四項 普通鳥獸獵期限内ニ於テ職遊獵ノ鑑札ヲ得タルモノ有害鳥獸ヲ銃殺シ及威銃發射スルハ
 別ニ此手續ニ依ルヲ要セス

第五項 鳥獸獵規則第七條第八條第十一條以下第十八條迄ヲ遵守スヘシ
 第六項 猛烈ナル有害鳥獸ニ出逢危急避カヌキ場合ニ於テハ所持ノ銃器等ヲ以テ防禦或ハ殺獲スルハ此規則ノ限ニアラス

○明治十四年四月十六日開拓使札幌本廳甲第六十二號布達

鳥鴉熊狼ハ有害ノモノナルヲ以テ殺獲セシモノヘハ手當金ヲ給シ專ラ勸奨シ來候處右取締ノタメ明治十年第十一號公布鳥獸獵規則第二條ニ依リ銃殺及ヒ威銃免許ノ手續左ノ通相定候條此旨布達候事

但シ該手續ニ牴觸スル從前ノ達並指令等ハ廢止ノ義ト心得ヘシ

有害鳥獸銃殺及威銃免許手續

- 第一項 鳥鴉熊狼ノ害ヲ除クカマメ銃殺及ヒ威銃出願ノ者ニハ郡區役所ヨリ鑑札ヲ附與スヘシ
- 第二項 鳥鴉熊狼銃殺及ヒ威銃鑑札ハ稅ヲ納ムルニ及ハス
- 第三項 此鑑札ヲ以テ普通ノ鳥獸獵鹿獵ヲナシ及ヒ貸借授受スルヲ禁ス
- 第四項 鳥鴉熊狼銃殺ハ區域並期限ヲ設ケスト雖日本人轉居或ハ遺失スル等鑑札面ニ齟齬ヲ生スルキハ返納及届出等ノ順序ヲ悞タルヘカラス
- 第五項 普通鳥獸獵並鹿獵免許鑑札所持ノ者鳥鴉熊狼ヲ銃殺スルハ妨ケナシ
- 第六項 鳥獸獵規則第七條第八條及ヒ第十二條ヨリ第十八條迄ヲ遵守スヘシ

紙用厚紙

<p>有害鳥獸銃殺及威銃免許手續</p> <p style="text-align: center;">第一項 免許手續ノ全文ヲ掲シ</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">印</td> <td style="text-align: center;">鳥鴉熊狼</td> <td style="text-align: center;">威銃殺</td> <td style="text-align: center;">免狀</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">鳥鴉熊狼銃殺免許之章</td> <td style="text-align: center;">鳥鴉熊狼</td> <td style="text-align: center;">威銃殺</td> <td style="text-align: center;">免狀</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">明治 年 月 日</td> <td style="text-align: center;">開拓使</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">札幌本廳</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tr> <td style="text-align: center;">番號</td> <td style="text-align: center;">本籍</td> <td style="text-align: center;">住所</td> <td style="text-align: center;">姓名</td> <td style="text-align: center;">年齢</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">號</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	印	鳥鴉熊狼	威銃殺	免狀	鳥鴉熊狼銃殺免許之章	鳥鴉熊狼	威銃殺	免狀	明治 年 月 日	開拓使			札幌本廳				番號	本籍	住所	姓名	年齢	第					號				
印	鳥鴉熊狼	威銃殺	免狀																													
鳥鴉熊狼銃殺免許之章	鳥鴉熊狼	威銃殺	免狀																													
明治 年 月 日	開拓使																															
札幌本廳																																
番號	本籍	住所	姓名	年齢																												
第																																
號																																

(備考)手當金給與ハ十六年札幌縣甲第七十二號布達ヲ以テ廢ス

◎在留朝鮮人鳥獸獵免許請求ノ時處分方

○明治十六年十月十八日札幌縣乙第八十八號達郡區役所宛
本邦在留朝鮮人鳥獸獵免許ヲ請求スルトキハ遊獵免許狀ヲ下付シ總テ内國人同様處分候義ト可相心得此旨相違候事

◎鳥獸獵規則ニ依リ除害セシ鳥獸名届出方

○明治十七年六月二十六日札幌縣乙第八十號達郡區役所宛
鳥獸獵規則第二條ニ據リ除害セシ鳥獸名届出ノ義別紙ノ通農商務省ヨリ達有之候條此旨相違候事第十四號

鳥獸獵規則第二條但書ニ據リ臨時免許ヲ與ヘ除害セシメタルトキハ該鳥獸名ヲ明記シ被害ノ景狀ヲ具シ其都度可届出此旨相違候事

明治十七年六月十一日

農商務卿 松方 正義

◎鳥獸獵免許期限中改姓名等ノ節免許書換方

○明治十七年七月十六日札幌縣乙第九十一號達郡區役所宛
鳥獸獵免許狀ヲ受ケタル者其期限中改姓名又ハ管内甲地ヨリ乙地ヘ轉住スルトキハ免許書換手續料取立ルニ及ハス本人所持ノ免許姓名又ハ住所ノミ書改メ主任者檢印下付候儀ト可相心得此旨相違候事

◎鶴獵禁止及蕃殖地

○明治二十二年五月九日北海道廳令第三十三號

本道ニ於テ當分ノ内鶴ヲ獵獲スルヲ禁ス違フモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○明治二十三年一月二十三日北海道廳訓令號外札幌外四郡長宛

千歲郡馬追山麓ヨリ千歲川ニ到ル各沼池ヲ以テ鶴蕃殖地ト相定候ニ付テハ發砲其他如何ナル手段ヲ以テスルモ該鳥ハ勿論其他諸鳥ヲモ獲殺相禁シ候條嚴重取締ヲナスヘシ(二十三年十二月道廳訓令號)
但別紙圖面朱線内各沼池ノ周圍百間以内ノ地所ハ貸下拂下テ許サス(圖面略ス)

○明治二十三年一月二十三日北海道廳訓令號外空知警察署長宛

夕張郡馬追山麓ヨリ夕張川畔ニ到ル各沼池(全下前全文)

捕魚採藻

〔沿革〕開拓使創置以來捕魚採藻業ノ保護勸誘ニ關スル令達少カラズ煩雜ニ亘ルヲ以テ沿革目錄ニ詳ニス○二十一年三月北海道廳令第十八號ヲ以テ北海道水產物取締規則ヲ定メ開拓使以來ノ令達本則ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

取締規則ヲ定メ開拓使以來ノ令達本則ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

◎水產物取締規則

○明治二十一年三月十九日北海道廳令第十八號

北海道水產物取締規則ヲ定ムル左ノ如シ
但舊開拓使本支廳舊函館縣舊札幌縣舊根室縣及當廳並元支廳布達命令ニシテ此規則ニ抵觸スルモノハ廢ス

北海道水產物取締規則

第一條 漁業若クハ水產物ヲ製造セントスル者ハ總テ此規則ヲ遵守シ願書ヲ作り局長ノ與印ヲ請

ケ所轄郡區長ニ願出ツヘシ若シ漁業ノ區域數郡區役所所轄ニ跨ルモノハ郡區長ヲ經テ北海道廳長官ニ願出ツヘシ

第二條 苔藻介類ヲ移植スル爲メ水底ヲ借區セントスル者ハ第一條ノ手續ニ準シ北海道廳長官ニ願出ツヘシ

第三條 此規則ニ於テ漁業トハ捕魚採藻(藻類植物ノ採捕ヲ併稱ス)ノ業ヲ爲ス者水產物製造トハ其原品ニ勞力ヲ加フル者ヲ云フ

第四條 漁業組合設置ノ場所ニ於テ其規約アル漁業若クハ水產物ノ製造ヲ爲サントスル者ハ該組合ニ加入シ願書ヘハ組合頭取ノ連署ヲ請クヘシ組合頭取ハ故障ノ有無ヲ取調ヘ故障アル者ハ其理由ヲ副申スヘシ

第五條 從來慣用セサル漁具漁法若クハ採藻法ヲ用ヒントスルモノハ第一條ノ手續ニ準シ願出ツヘシ若シ漁業組合設置ナキ場所又ハ其組合規約外ニ係ル漁業者ハ該地方同業者過半數ノ連署ヲ請クヘシ若シ同業者謂レナク故障ヲ唱フル時ハ其理由ヲ副申シテ願書ヲ進達スルコトヲ得

第六條 水面ノ位置ヲ定ムル漁業ハ位置、方位、沖出間數、隣接漁場ノ距離等ヲ願書ニ記載シ隣接漁業者ノ連署ヲ請クヘシ若シ隣接漁業者謂レナク故障ヲ唱フル時ハ其理由ヲ副申シテ願書ヲ進達スルコトヲ得

但隣接漁場ノ距離壹里以上ノ者ハ連署ヲ請クルニ及ハス

第七條 第四條第五條第六條組合頭取其他連署ヲ要スル場合ニ於テ故障ヲ唱フルモ其理由調査シ連署ノ有無ニ拘ハラズ許可スルコトアルヘシ

第八條 一地方毎ニ水產ノ蕃殖保護ヲ圖ル爲メ特ニ規約ヲ定メントスル者ハ北海道廳長官ノ認可ヲ請クヘシ

第九條 多人數共同シテ漁業若クハ水產物ヲ製造セントスル者ハ總代人ヲ定メ願出ツヘシ

第十條 漁業者水產物製造者其地ニ住居シ難キ時ハ常ニ本業ニ係ル事件ヲ處辨スル相當ノ代人ヲ定メ連署ノ上所轄郡區役所ヘ届出ツヘシ

第十一條 漁業者水產物製造者廢業、休業、改名、轉居、代替、等ノ節ハ直ニ其旨所轄郡區役所ヘ届出ツヘシ

第十二條 左ノ漁業ハ一ケ年(其年冬ヨリ翌年春迄漁業ノ概ク)間許可ス

一 差網(缺差網) 手線網 配繩漁 海鼠曳 採藻(昆布) (明治二十一年十月北海道廳令第五十七號ヲ以テ缺差網云々ヲ追加ス) 各介類採捕 其他簡易ノ方法ニヨリ魚介ヲ採捕スルモノ

第十三條 第十二條漁業ノ外ハ總テ無期限トス但公益上妨ケアリト認ムルモノハ相當期限ヲ定メ若クハ位置變換ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 第十三條無期限ノ漁業許可ヲ得タルモノ引續三ケ年間休業セシ時ハ許可ノ指令ハ効ナキモノトス

第十五條 河川ニ於テ鮭鱒ノ漁業ヲ爲ス者ハ本川ノ虫網ニ限ル其曳方ハ川幅ノ七分ヲ超過スヘカラス且ツ日没ヨリ日出迄ハ漁業ヲ禁止ス

但支川ト雖トモ自費ヲ以テ蕃殖方法ヲ設ケ實効アル者ハ特ニ漁業ヲ許可スルコトアルヘシ

第十六條 河川湖沼ニ於テ差網、アス網、若クハ不動漁具ヲ用ヒ又ハ水面ヲ横斷スルノ裝置ヲ爲シ魚類浜上ノ妨害タル漁業ヲ許サス

第十七條 學術研究又ハ遊漁若クハ自家所用ノ爲メ捕魚採藻スル者ハ出願ニ及ハスト雖トモ前條

ノ漁具及ヒ銛、鉤、曳網等ヲ用ヒ鮭鱒ヲ捕獲シ及一般ノ蕃殖上又ハ漁業者ノ妨害タル所爲ヲ許サ

第十八條 魚兒介苗其他未成長ノ苔藻ハ濫ニ採捕スルヲ許サス

第十九條 本則第一條第四條第五條第十一條第十五條第十六條第十七條第十八條ニ違背シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ(明治二十一年四月北海道廳令第二十四號ヲ以テ追加)

◎水産物取締規則漁業製造願屆書式

○明治二十一年三月二十三日北海道廳告示第二十二號

北海道廳令第十八號北海道水産物取締規則漁業製造願屆書式左ノ通定ム

何漁業(製造)(兼業)願

水産物取締規則ヲ遵守シ何々漁業(何採取何製造何兼業)相營度候間御許可被下度營業方法書(并ニ圖面)相添(左右隣接人)干場貸渡人連署此段奉願候也

國郡區町村番地(寄留何府縣)

士族平民

願人 何

某印

(全上)

(左隣接人 何

某印)

(全上)

(干場貸渡人 何

某印)

何々漁業組合頭取(副頭取)

年月日

Form for fishing license application with fields for date, applicant name, address, and signature.

北海道廳長官何誰殿

何

某印

又ハ 何區長何誰殿

前書ノ通願出ニ付調査ノ上進達候也

何

誰印

年月日

何郡何村戸長

何

誰印

何營業方法書(營業方法書ハ一扉毎トニ添付スルモノトス)

一 漁具 (製造ハ製造器具)

一 何網何統或銛鉤幾個ノ類

一 漁船 何船何艘但何人乗ノ類

一 漁場 何國何郡何處海面河面別紙圖面ノ通

一 海産干場 私有又ハ拜借若クハ何國何郡區町村番地何某ヨリ借受何國何郡區町村字何番地幾百何十

一 坪 建物

倉庫何棟何々棟新築又ハ從來私有又ハ何國何郡區町村番地何某ヨリ借受

一 備夫 何名

Form for fishing license application with fields for date, applicant name, address, and signature.

一 收獲高
一 何々
右之通

何石

年月日

代替(休業廢業轉居改名)御届

何國何郡何町村字河海面(何處)ニ於テ何年月御許可ノ上何漁業(何製造)致居候處今般(實業死
亡或ハ于其後渡
讓與其他何々)ニ付繼續營業(休業廢業轉居改名)致候間此段御届申上候也

國郡區町村番地(寄留何府縣)

士族平民

何

何々漁業組合頭取(副頭取)

某印

年月日

何區長何誰殿

前書之通届出ニ付奥印ノ上進達候也

年月日

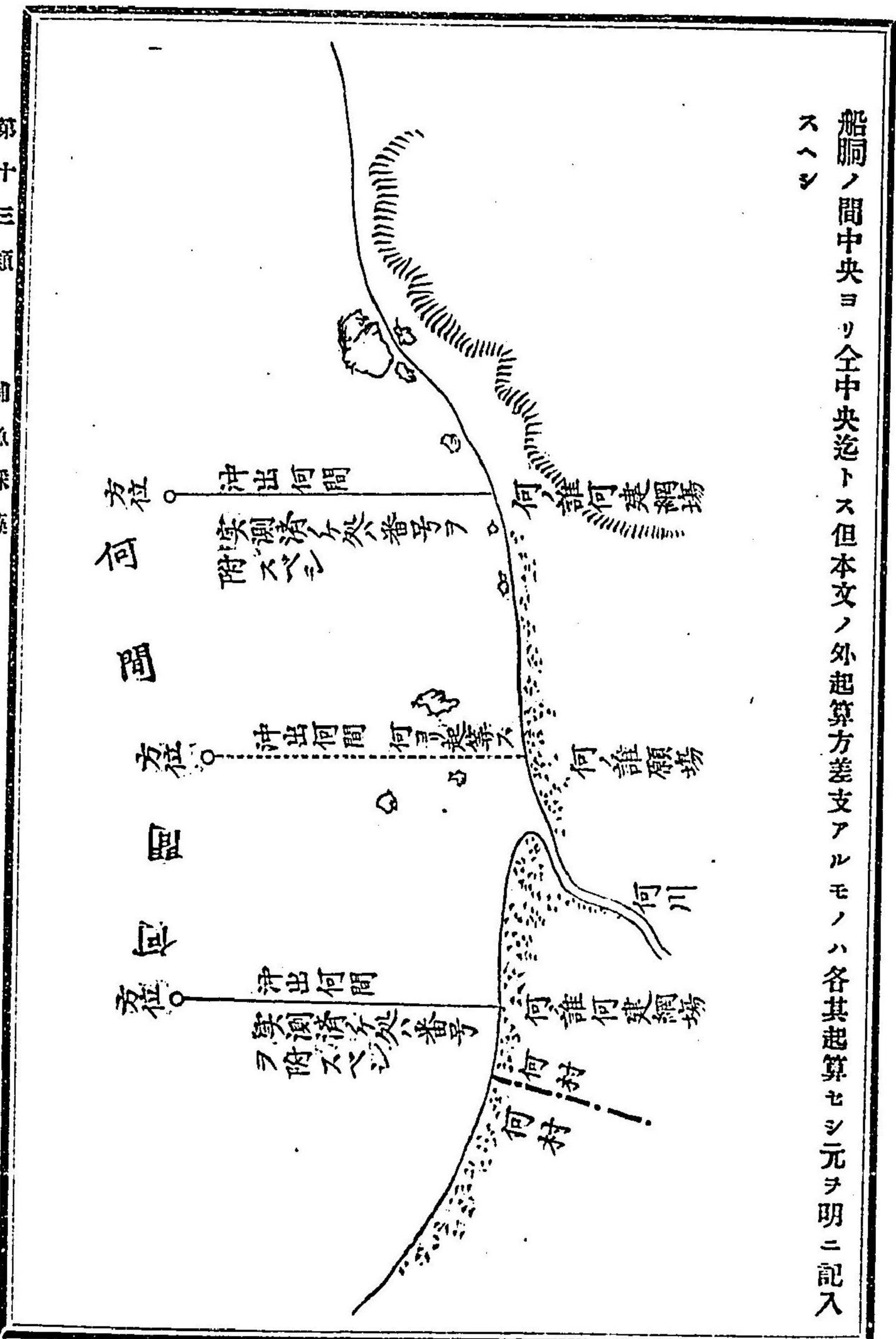
(別紙離形) (.....) 印ノ願場所ハ朱書)

何郡何村戸長

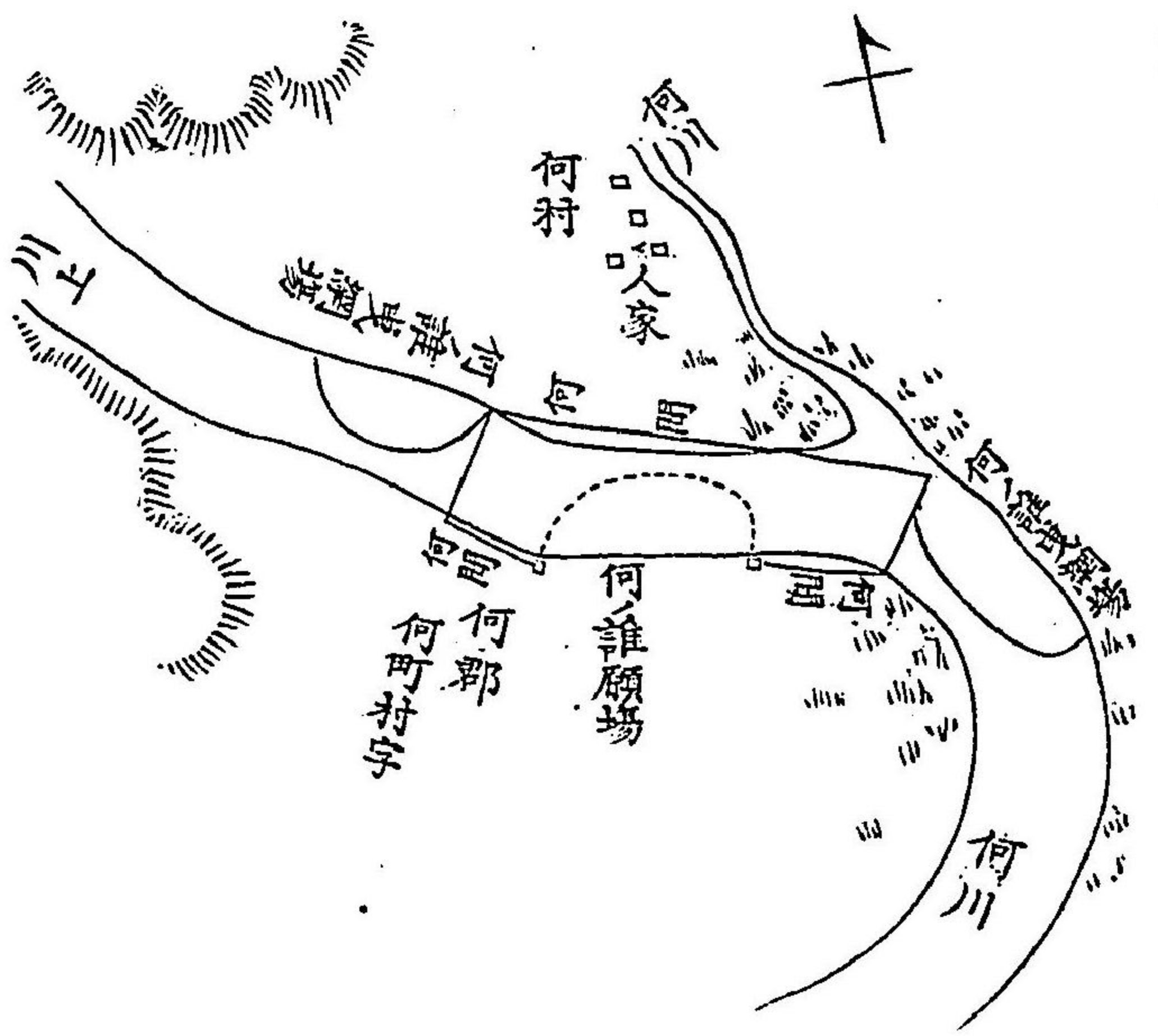
何

誰印

建網類離形ノ圖(用紙半紙)
沖出間數ハ波打際又ハ不動岩石等ヨリ起算シ保津船又ハ三半船ノ中央ニ止ム隣網ノ離距ハ各



曳網類雛形ノ圖(用紙半紙)



○鮭漁ニ「マス」網ヲ用ヒ若クハ夜中漁業禁止

○明治九年八月二十八日開拓使乙第九號布達

鮭漁中マス網ヲ以テ川流ヲ張切候義ハ上流漁業ノ妨タルハ勿論魚苗減耗ノ大害ニ有之既ニ一般差止置候處根室支廳管下ハ未タ更正無之趣ニ付自今マス網張切並夜中ノ鮭漁ハ一切禁止候條此旨布達候事

○明治九年八月二十八日開拓使根室支廳第三十三號布達

鮭漁中マス網ヲ以テ川流ヲ張切候儀ハ一切禁止候旨別紙ノ通布達和成候條其旨可心得添テ此旨布達候事

(別紙ハ本使乙第九號布達ニ付略ス)

○明治九年九月七日開拓使札幌本廳丙第三百三十六號達(札幌郡)市在區戶長總代宛

鮭漁中マス網ヲ以テ川流ヲ張切候儀ハ上流漁業ノ妨タルハ勿論魚苗減耗ノ大害有之ニ付堅禁止ノ處此度更ニ長官ヨリ御布達並ニ告諭書別紙(本年乙第九號ノ本使布達及八月二十八日告諭書)ノ通御達和成候條其管下人民へ懇々可觸示此旨相達候事

○明治九年八月二十八日開拓使無號諭告

全道人民ノ營業ヲ盛大ニシ物産ヲ繁殖セシメノ各所ノ便益ヲ計リ諸般ノ方法ヲ設ケ之ヲ實際ニ勸誘シ漸次歲額増加セリ特ニ海産ノ義ハ既ニ三ヶ年間出港免稅ノ特典アリ合計凡ソ三拾餘萬圓ニ至リ繼テ東京大坂ニ在リシ產物會所及敦賀兵庫堺那珂撫養下ノ關石卷等ノ出張ヲ廢シテ

其歩合收入高毎歳五萬圓餘ニ及ヒシモ今之ヲ收納セス且新開ノ塲所ハ五ヶ年除稅ノ規則アリ實ニ此幸福ヲ被ムル者ハ從來ノ風習ヲ改メ一般其業ヲ勵ミ專ラ國益ヲ起スヘキ筈ノ處東西諸郡ハ舊習ヲ存シ出稼ノ古跡ヲ改メス却テ永住者ノ新ニ開業スルヲ阻隔スル等ノ義有之是カ爲海産ノ鴻益ヲ擴充シ得サル廉少カラズ就中鮭漁中テ網ヲ以川流ヲ橫斷スルノ慣習ハ上流ニ於テ營業スル者ノ妨タルハ勿論魚苗減耗ノ大害ニ有之西地方面ハ先年來皆之ヲ廢棄シタリ仍テ根室地方ニ於テモ自今禁止ノ旨ヲ布達セリ一般之ヲ遵守シ斷然舊慣ヲ改メ魚苗減耗ノ弊源ヲ除キ必ス營業ノ新舊ヲ論セス相共ニ協和シテ其業ヲ勵ミ物産繁殖候様厚ク注意可致此旨告諭候也

◎鮭漁業河流ノ中央へ杭木ヲ打込其他禁止

○明治十年五月八日開拓使札帳本廳甲第三十號布達
鮭漁業ノ節河流ノ中央へ杭木ヲ打込砂石等ヲ以テ埋立或ハ河岸ヨリ水剝粹ヲ築出シ候義大ニ水勢ヲ變換シ其障害不少ニ付今後右等ノ所業一切禁止候條此旨布達候事

○明治二十三年十二月二十日北海道廳令第七十五號

鮭魚產卵孵化期節中即每年十一月ヨリ翌年五月迄千歲川本支川支川、夕張、ラッ、島松、ニ於テ木材薪木流チサツノ五川ヲ指スノ川流シテ禁ス本令ニ違背スルモノハ北海道違警罪目第一條十一項ニヨリ罰セラルヘシ

◎遊樂部川以下諸川鮭漁禁止

○明治十六年三月二十九日函館縣甲第十七號布達

山越郡八雲村字遊樂部川上磯郡茂邊地村茂邊地川松前郡及部村及部川右三ヶ所河口海面横へ三百間沖へ五百間内ニ於テ建網漁業及同上以內ニ於テ毎年十月ヨリ十二月迄三月ヨリ六月迄引網漁業

ヲ禁ス

○明治十六年五月二十二日根室縣乙第六十四號達郡役所宛

管内河川鮭漁場逐年増加シ一條ノ河流ヲ數十人へ賣貸シ鮭魚上流產卵ノ地へ達セサル塲所モ甚カラス自然魚苗減耗後來漁業衰頽ノ憂モ有之候ニ付當分左記ノ川々ニ限リ拂下許可不致候條人民へ諭達方可取計此旨相達候事

根室國根室郡

西別川(別海)風連川(湖中)別當賀川、コタンケシ川

根室國野付郡

常幌川、床丹川、春別川、飛菊川

根室國標津郡

標津川、伊斜仁川

根室國目梨郡

忠類川、コヌヌカ川、蕪別川、サキム井川、元サキム井川、ウエンベツ川、陸志別川、春菊古丹川、ボン春菊古丹川、知西別川、マツノリ川、ラウス川、チトライ川、キ、

釧路國釧路郡

リベツ川、差類川、ルシヤ川、釧路川

同國白糠郡

テヤロ川

北見國斜里郡

ルシヤ川、斜里川、ヤンベツ川、チンチベツ川、瀧湧湖中

同國網走郡

網走川

同國常呂郡

常呂川、サルマ湖中

同國紋別郡

湧別川、紋別川、諸骨川、雄武川、幌内川

○明治十六年五月二十三日札幌縣甲第二十三號布達

十勝國十勝郡大津川口ヨリ全國中川郡安骨村字「チヤシコチヤ」迄ヲ除クノ外該川ニ於テ鮭漁禁止候條此旨布達候事

○明治十一年十二月十七日開拓使札幌本廳甲第四十三號布達

鮭鱒ハ北海道物産ノ最モ鴻益ナル者ニ付益其繁殖ニ注意シ豫メ之ヲ保護セサルヘカラス然ルニ魚苗ノ生育スヘキ支川ニ於テ漁獲候テハ遂ニ其種類ヲ減耗シ繁殖ノ道ヲ失フノ基ニ付漸次漁業制限可相立筈ニ候得共差向札幌郡内諸川ハ鮭鱒漁獲一切差止候條此旨布達候事

◎魚介苗繁殖

○明治十一年七月十日開拓使根室支廳第二十號達第二十五大區小一宛

各種鱒族ノ蕃殖ヲ試驗ノ爲今般函館表ヨリ鯉魚ヲ移シ花咲郡友知村内ノ沼々ヘ相放チ亦遺根ヲ根室郡根室別沼ヘ移植候條追テ何分ノ義相達候マテ同沼ニ於テ漁事採遺不致様區内ヘ諭示可致此旨相達候事

○明治十一年七月十九日開拓使根室支廳第二十一號達第二十五大區小二區總代宛

今般蕃殖試驗ノマメ函館表ヨリ胤鮑貝ヲ移シ辨天島東北並ニベニケムイ海岸ヘ放育候條捕獲或ハ害ヲ不致様區内ヘ諭示可致此旨相達候事

○明治十三年八月十八日開拓使函館支廳第六十三號布達

明治八年中渡島國龜田郡峠下村字葦菜沼ヘ蕃殖ノマメ鯉魚放育致置候ニ付捕獲不相成候條此旨布達候事

◎泥引網等ヲ用フルヲ禁ス

○明治十二年八月十五日開拓使函館支廳第五十七號布達

泥引網及右ニ類スル小目網ノ義ハ海底ヲ撿索細魚ヲ網羅シ自然魚類生育ノ妨害ニ相成候ニ付自今函館港内外海岸ヨリ凡ニ里半以内ニテ該網ヲ用ヒ漁業候義差止候條此旨布達候事

◎函館砲臺外壕及沖合漁業ノ制禁

○明治十五年十二月八日函館縣甲第三十七號布達
函館砲臺外壕及ヒ同臺西北沖合三十間以内ニ於テ船艇繫泊ハ勿論漁釣採藻岩石堀穿等一切不相成
候條此旨布達候事

厚岸湖内牡蠣採取取締及牡蠣繁殖

○明治十八年五月六日根室縣甲第二十一號布達

厚岸湖内牡蠣採取取締規則

- 第一條 釧路國厚岸郡厚岸湖内ノ牡蠣ヲ採取セントスルモノハ此規則ヲ遵守スヘシ
 - 第二條 採取人ハ三百名ヲ定限トス(十九年六月道廳根室支廳甲第十
七號布達ヲ以テ本條ノ通改正)
 - 第三條 採取人ハ願出ノ上甲號離形ノ免許鑑札ヲ受ケ採取ノ節ハ攜帶スヘシ尤モ從前已ニ採取ノ
許可ヲ受ケタルモノト雖モ此際更ニ願出鑑札ヲ受クヘシ
 - 第四條 採取免許ノ期限ハ年ノ十月ヨリ翌年六月ニ至ル九ヶ月間トス後期引續キ採取セントスル
モノハ更ニ願出ヘシ
 - 第五條 採取免許鑑札ハ他人ニ貸與スルヲ得ス
 - 第六條 採取免許鑑札ヲ紛失シ又ハ燒毀シタルモノハ更ニ其書替ヲ願出ヘシ
 - 第七條 蠣島ニ於テ牡蠣ヲ剝キ殼ヲ投ケ及焚火スルヲ禁ス(十九年六月道廳根室支廳甲第十
七號布達ヲ以テ本條ノ通改正)
 - 第八條 湖内ノ苔藻ヲ採取スルヲ禁ス
 - 第九條 第二條ヨリ第八條ニ至ル各條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ
- 甲號離形(用材木札)

<p>表</p> <p>面 五 寸 二</p> <p>○厚岸牡蠣採取免許鑑札</p> <p>何國何郡何村何番地</p> <p>寄留又ハ住居</p> <p>何</p> <p>誰</p>	<p>四 寸</p> <p>蠣 第 號</p> <p>明治何年何月何日</p> <p>○厚岸外五郡役所</p> <p>.....</p> <p>(朱印)</p>
---	--

裏 面

○厚岸外五郡役所

.....

(朱印)

○明治十八年五月十五日根室縣第三十二號布達厚岸外五郡役所
其所下厚岸湖内牡蠣採取區畫追テ相立候マテ一所偏取セサル様取締可致此旨和達候事

○明治十九年九月二十九日北海道廳根室支廳無號達厚岸郡宛
厚岸湖蠣殼ノ儀ハ從來湖中ニ投棄シ來候處石ハ殖産水理ノ妨害ト相成候條別紙ノ通區域ヲ設ケ爾
來全所ニ投棄スヘキ旨管内ヘ告知スヘシ
右相達ス
(別紙略ス)

○明治十九年四月十四日北海道廳根室支廳甲第七號布達

今般牡蠣繁殖ノ爲メ野付郡平系村字飛刈沖合、根室郡幌茂尻村字温根沼一番澤下流及花咲郡瑤瑤
瑠村字登紗布湖ノ三ヶ所へ厚岸湖産牡蠣ヲ移殖シ其採取ヲ禁止ス

○潜水器械ヲ用ヒ海鼠鮑捕獲禁止

○明治十九年十月一日北海道廳甲第十號布達
潜水器械ヲ使用シテ海鼠及ヒ鮑ヲ捕獲スルヲ禁止ス

但明治十四年五月舊開拓使本廳達甲第八十三號布達ヲ廢ス

○身欠練組製輸出取締

○明治二十二年五月六日北海道廳訓令號外郡區役所札幌區役所及川上、樺宛
戸空知郡役所ヲ除ク

水産物現品稅廢止以來身欠練組製(乾燥不充分)ノモノ多キ趣相聞右ハ價格ヲ低落シ從テ需用ノ減
少ヲ來シ結局當業者各自ノ損耗ニ歸スルハ勢ノ免レサル所ナリ抑糞ニ水産稅則ノ公布アリ大ニ當
業者ノ負擔ヲ輕減セラレタルノ旨趣ハ當時屢論達セシ如ク究竟漁業ノ衰頽ヲ挽回シ積年ノ疲弊ヲ
救濟スル特殊ノ恩典ニ外ナラス之カ爲メ當業者取獲物製造販賣ノ自由ヲ得ルノ時期ニ遭遇シ却テ
製造物粗惡ニ流ル、カ如キ狀況アリテハ減稅ノ恩典モ水泡ニ歸スヘシ就テハ製造方法等各組合規
約ニ定メアルモノハ必ス之ヲ實行シ之ナキモノハ規約ニ追加シ其組合ニ於テ充分取締ヲ爲シ永ク
減稅ノ恩典ニ浴シ候様懇篤論スヘシ

海獸獵

○千島國警備及密獵取締方

○明治十八年四月二十三日根室縣成第二十一號達根室郡役所宛

本縣下千島國諸島警備及密獵取締ノ義今般別紙之通海軍省へ達相成候旨内務卿ヨリ被相達候條爲

心得此旨相達候事

(別紙)

其縣下千島國諸島警備及密獵取締ノ儀ニ付今般別紙之通海軍省へ達相成候條爲心得此旨相達候事

明治十八年三月二十六日

内務卿伯爵 山縣 有朋

(別紙)

海 軍 省

根室縣下千島國諸島巡視トシテ年々一回軍艦派遣可致此旨相達候事

但軍艦巡視ノ節ハ内務省協議ノ上密獵取締方可取計事

明治十八年三月十六日

太政大臣公爵 三條 實美

○臘虎并臘肭獸獵業取締手續

○明治二十一年五月十日北海道廳令第三十五號

明治十九年十二月二日北海道廳布達甲第十五號臘虎並臘肭獸獵業取締手續左ノ通改正ス

臘虎並臘肭獸獵業取締手續

第一條 臘虎並臘肭獸獵獲期限ハ毎年四月十五日ヨリ十月三十一日マテトス

第二條 獵場區域ハ千島國ノ内得撫以東占守以南ノ各嶋トシ左ノ三區域ニ分チ毎年一區内ヲ限リ

獵業セシム

第一區 得撫島。知理保以島。アテツトチエルホエフ嶋。合七島

第二區 撫部郡。留公計島。宇志知島。須合六島

◎海產干場ノ消滅ニ關スル心得方

○明治二十三年三月六日北海道廳訓令號外郡區役所宛
開拓使根室支廳及根室縣并當廳根室支廳ニ於テ海產干場ノ拂下又ハ貸下ノ許可ヲ得若クハ拂下ニ
係ル乾場ヲ買受其地先河海面ニ於テ漁業ヲ營來候分ニシテ事故アリ其干場ヲ返納セシムルカ若ク
ハ乾場ノ所有又ハ使用ヲ乙者ニ移ス時ハ甲者ノ漁業權ハ當然消滅スヘキ義ト心得ヘシ

◎海產干場割渡

○明治九年九月二十一日開拓使乙第十號布達
全道ノ海產ハ其利益鴻大ナルヲ以テ益之ヲ擴充シテ民產ノ基本ヲ厚フシ出稼ノ習慣ヲ改メ獨立ノ
産業ニ就カシムルノ目的ヲ以テ海陸ノ運輸ヲ始メ其他諸般ノ方法ヲ設ケ營業ノ便益ヲ施シ實際勸
誘爾來稍繁盛ニ赴キ出產高漸次ニ増加シ昔日ノ比ニアラス然ルニ北見根室千島方面ノ漁場持從來
ノ習慣ヲ固守シ專ラ出稼ノ牀裁ヲ存シ廣大ナル地所ヲ借受致居場所相當ノ漁業ヲ施サヌ却テ他人
ノ新ニ開業スルヲ猜忌シ之ヲ妨クルノ弊習アリ速ニ此弊ヲ除キ勸誘ノ道ヲ盡サ、レハ人民移住ノ
障害ハ勿論遠ニ獨立ノ營業ヲナサシムル能ハサルニ付從來漁場持今般一切相廢シ都テ上地申付且
寄留人借受ノ漁場昆布場等明治五年九月地所規則公布以來未タ精確ナル調査無之家屋倉庫敷地等
ノ經界畝數判然不致ニ付全郡又ハ數郡ヲ一手ニ借受致居候分一先上地爲致候尤モ元漁場持等舊習
ヲ改メ明治十年ヨリ新ニ營業願出ル者ハ實地調査ノ上不都合無之分相當ノ場所更ニ割渡スヘシ其
他永住寄留ノ別ナク營業志望ノ者ハ別記郡數ノ内書式(本年甲第三號府縣布達ニ同シ)ノ通明細調書相添ヘ本年十月
三十一日限可願出此旨布達候事

(別記)

割渡スヘキ漁場昆布場アル郡數

- 一 千島國 振別 藥取 紗那 國後 五郡
- 一 北見國 網走 常呂 紋別 枝幸 宗谷 利尻 禮文 八郡
- 一 根室國 斜里 網走 常呂 紋別 枝幸 宗谷 利尻 禮文 八郡
- 一 標津 目梨 二郡
- 一 根室 花咲 野付 三郡ノ内
- 一 天鹽國 增毛 留萌 苫前 天鹽 四郡ノ内
- 一 膽振國 千歲 白老 幌別 三郡
- 一 日高國 沙流 新冠 三石 三郡
- 一 釧路國 釧路 二郡
- 一 厚岸郡ノ内

◎露國薩哈連島出稼漁業ニ關スル規定

○明治十二年三月十九日開拓使函館支廳第十八號達區戶長宛

露國薩哈連島へ漁業出稼之義願出候者有之節ハ本貴族籍本人財産ノ厚薄篤ト調査ヲ經別紙ヲ以テ可申出此旨相達候事

四三六

○明治十二年四月十四日開拓使札帳本廳丁第二十四號達區戶長宛
露國薩哈連島へ漁業出稼ノ儀願出候者有之節ハ本人品行ノ良否及ヒ財産ノ厚薄篤ト調査ヲ遂ケ別紙ヲ以テ可申出此旨相達候事

○明治十八年八月十三日函館縣告第四十三號告示

魯國薩哈連島海岸日本人民漁業規則別紙ノ通設立之義在浦潮斯德日本貿易事務官へ黑龍政區總督ヨリ通牒有之候旨外務省ヨリ報知有之候條此旨告示候事

魯文反譯

本年薩哈連島海岸日本人民漁業規則設立ノ事ハ最至要ノ件ト見認ルニ付拙者之ヲ處辨スル左ノ如シ

第一條 薩哈連島東北海岸ナイスキト灣及ツイム河口ニ於テハ村民ノ爲メ魚種最必要ナルヲ以テ全ク漁業ヲ禁ス

第二條 テルベニヤ灣アニア灣及該島南海岸ニ於テハ薩哈連地方長官ノ調査ニ依リ蝦夷人ノアイ及殖民需要ノ魚類保護ノ爲メ必要ト認ムル小河ヲ除クノ外一般漁業ヲ許ス

第三條 日本漁業船ハ漁場ニ出張前哥爾薩港ニ寄港シ其地方長官ヨリ漁業鑑札ヲ受領スルモノトス

第四條 魚種輸出税一アードニ付金貨五コペーキト定ム而シテ該税金取立總高ノ計算方ハ從前ノ規則ニ基ク乎或ハ各船舶ノ荷積高ニ依テ之ヲ算スル乎或ハ各船舶漁業濟再ヒ哥爾薩港ニ寄港スルノ約ヲ定メ其都度實地ニ就キ輸出現高ヲ調査スルモノトス

第五條 此他ノ細目及漁民需用ノ材木ニ係ル税金ノ如キハ從前ノ方法ニ基キ地方長官之ヲ調理スルモノトス

前條ノ通薩哈連島漁業規則設立候ニ付及御通達候且併セテ左ニ

將來若シ日本人民魯領陸地海岸即チ浦潮港近海ニ於テ漁業ヲ企望スル者アルニ當テハ已ニ他ノ營業者ニ附與セシ場所ヲ除クノ外ハ之ヲ營ムモ更ニ差支ナシ而シテ其希望者ハ浦潮港軍務縣令ニ出願シ同縣令ヨリ漁業免許ヲ得ルモノトス

右及御通知候也

魯曆一千八百八十五年五月三十一日

黑龍政區總督陸軍中將

パロソ、コルフ

在浦潮港

日本貿易事務官寺見機一殿

○明治二十二年十二月二十八日北海道廳告諭第一號

露國樺太島へ渡航スルモノハ明治九年(十二)第百四十九號布告ニ依リ開港場ヨリ出船シ全島ニ於テ漁業志願ノ者ハ其管轄廳ノ添書ヲ以テ全國哥爾薩港駐在我領事館へ出願可致管ノ處近來其手續ニ據ラズ彼地ニ於テ密漁スルモノ往々有之趣尤モ右密漁者ハ發覺次第彼國々法ニ依リ處罰セラルヘ

第十三類

海産干場

四三七

キハ勿論ノ義ニ候得共夫カ爲メ他ノ正當營業者迄モ全國地方官ノ厭忌セラル、處トナリ不都合不
少旨今般其筋ヨリ通知ノ趣モ有之候條當道ヨリ出稼營業セントスルモノハ豫テ心得違無之様致ス
ヘシ

○明治二十三年二月十五日北海道廳告諭第一號

露國樺太島へ漁業ノ爲メ渡航スルモノ心得方明治二十二年十二月十二日告諭第一號ヲ以テ告諭及置候處尙
左ノ件々心得ヘシ

薩哈連島^{即樺太島}出稼漁業者注意ノ件

- 第一 從前ヨリ薩島へ出稼漁業ヲ營ミ來リタル者ニシテ引續キ其業ヲ營ント欲スルモノハ「コルサコフ」港ニ到リ帝國領事館ヲ經テ露國地方官へ出願シ同業ノ許可ヲ得タル上ハ薩島海産業假規則ノ明記ニ基キ稅銀ヲ納入シ其年度限リノ免狀^{稅銀納入済ニ付何處漁場ニ於テ何業ヲ營ムナリ}ヲ同地方官ヨリ受領セシ後ハ再ヒ從前ノ漁場ニ赴キ捕魚スルヲ得ヘシ
- 但同假規則ニ於テ制禁シタル漁場ハ此限リニ非ス
- 第二 各漁業者右許可ノ漁場ニ到着セル上ハ直ニ漁業免狀ヲ最寄ノ警察官へ差出シ漁業終ル後ハ帝國領事ヲ經テ之ヲ「コルサコフ」港長官へ返納スヘキ事
- 第三 露國海産業假規則ニ於テ差許サレタル漁業場ノ内未タ他人ノ着手セサル場所へ更ニ出稼漁業ヲ爲サント欲スル者ハ其旨郵便ニテ^{油潮港經由スレハ夏秋ノ内六}「コルサコフ」港帝國領事へ出願スヘシ同領事ニ於テハ至急其旨露國地方官へ照會シ差支ノ有無ハ早便ニテ通知スヘシ
- 第四 薩島ニ航スル船舶ハ明治九年十二月一日付第四百四十九號御布告ヲ遵奉シ必開港場ヨリ出船

スヘシ若シ心得違ノモノアリ不開港場ヨリ出船シ來薩スル船舶アレハ其漁業^{或ハニ開シ}「コルサコフ」港帝國領事ハ露國地方官へ照會ヲ爲サ、ルヘシ然ル時ハ自然漁業^{商業}又ハテ營ム能ハサルニ立到リ之レカ爲メ損失ヲ來スヘキニ付心得違ヒナキ様注意スヘキ事

第五 薩哈連島内ハ何レノ地方モ各種酒類ノ輸入ハ嚴禁ナリ且ツ露國民或ハ土人ニ對シ酒類ヲ以テ物品ト交換スルモ同様制禁タルヘシ若シ此禁ヲ破リシ者發覺スル時ハ露國ノ法典ニ於テ露貨五百五十留ノ罰金ヲ取リ立テラレ又海産假規則第十一條ニ基キ其營業ヲ差止メタルヘシ

但シ自己飲料ノ酒類ハ仲間組合規約ノ制限ニ依リ携ヒ行クコトヲ得ヘシ

第六 各漁業者ハ脫獄ノ懲役人ヲ使役シ又ハ匿シ置キ或ハ塲所ヲ與フコト制禁タルヘシ

第七 薩島ヨリ「アイノ」土人ヲ本邦へ連シ來ルコト能ハサルヘシ

第八 露國官廳ヨリ徒刑人へ給與サレタル毛衣並ニ太下織羅紗ノ外套又ハ其切ン地等ハ豫テ地方規則ニ於テ賣買制禁ノモノナリ依テ若シ右ノ制禁物ヲ所持スルモノ薩島内ニ於テ發覺スル時ハ直ニ露國官吏ヨリ取揚ケラルヘシ

第九 各漁業者船司及水漁夫ニ至ルマテ露國地方官ノ許可ナクテハ何等ノ品物ヲリトモ賣賣スルコトヲ得サルヘシ

但シ第六、第七、第八、及第九ニ記載ノ條件ニ違背スル者ハ其事柄ノ輕重ニ由リ露國地方官ニ於テ將來其漁場へ出稼スルコトヲ差止メラルコトアルヘシ

第十 漁業中伐木ノ爲メ山林ニ入ル時ハ失火セサル様注意スヘキ事

第十一 土人等自己ノ食料ノ爲メ捕獲ヒシ魚類ハ物品ヲ以テ之ト交換セサル様漁業者並ニ船司ヨリ其水漁夫共へ篤ト申聞セ置クヘシ

◎漁獲取締規則

○明治九年五月八日開拓使札帳本廳乙第六十二號達各局校院分署宛
北海道漁獲取締規則別紙(本年四月十日)ノ通御達海軍省へ同相成候段東京出張所ヨリ申越候條此旨可
相心得事(別紙見後)

○明治九年五月二十四日開拓使根室支廳第七十七號達各分署宛
當道漁獲取締規則別紙ノ通御達相成候ニ付此旨相達候事

(別紙)

開拓使

北海道漁獲取締規則別紙ノ通被定候條右規則ニ照準シ取締方行届候條處分可致此旨相達候事

明治九年四月十日

太政大臣 三條 實美

日本帝國ノ所轄タル北海道及其近傍諸島沿海諸國規則

第一條 外國諸船舶孰レモ日本帝國ノ所轄タル北海道諸國諸島ノ岸上ヨリ發スル彈丸ノ及連スル
距離内ニ於テ海魚海獸ヲ釣繩網具銃砲等ヲ以テ獵獲スルコトヲ禁ス

第二條 日本海獵取締ノ官員ハ外國諸船舶ノ右禁令ヲ犯サント察スル時ハ其所ヲ引退カンコトヲ示
スヘシ但シ既ニ犯シタルト察スル時ハ其船舶ニ乘込ミ荷物ヲ檢査スヘシ

第三條 外國船舶ノ現ニ第一條ノ禁令犯シタルモノ或ハ第二條ノ引退ノ事又ハ荷物檢査ノ事ヲ拒
ムトキハ日本海獵取締ノ官員其船舶ヲ最寄ノ開港場ニ達シ來リ其船ヲ管轄スル國ノ領事ニ預ケ
置キ糾問ノ上犯令相違ナキニ於テハ相當ノ罰ニ處スルコトヲ求ムヘシ

◎魚粕荷造改良ノ諭示

○明治十一年九月三十日開拓使第十四號達本支廳宛

當管下漁民共從來出產魚粕ノ荷造方概テ極大極大運送ノ不便ハ勿論脫漏等ノ憂不尠就中西洋形
船舶へ積載スル時ハ運賃其他ノ得失ニ關係候條自今一個ノ量拾五貫目内外ヲ定度トシ荷造方一層
注意精密ヲ加ヘ候條諭達可致此旨相達候事

○明治十三年四月十七日開拓使乙第三號諭達

魚粕ノ義ハ當道物産中其効用尤大ナルモノニシテ産出ノ高モ巨額ニ候處從來ノ慣習荷造方多クハ
粗大ニ過キ爲メニ運搬ノ不便ナルハ勿論魚粕ノ漏出スル亦尠シトセス且日本形船へ搭載スルニ該
船水夫等ヲシテ運搬ノ役ヲ執ラシムルノ慣習ニ候處之カ爲ニ時日ト勞力ヲ費ス尠カラス又西洋形
船舶ニ至テハ航海ノ迅速ヲ主トスル故運搬ノ際モ自然急速ニ出ツルニ依リ或ハ魚粕漏出スルヲ免
レズ右弊害ノ原因ハ皆荷造方粗大ナルニ出ルモノニシテ之ヲ改良セザレバ其弊運搬ノ不便漏出ノ
損失ノミニ止ラス或ハ遂ニ其價價ヲ墜スニ至ルモ計ルヘカラス其損益得失ノ係ル所僅少ナラザル
義ニ付宜ク意ヲ注キ自今可成慣行ヲ改メ一箇二十貫目ヲ超サル荷造トナシ前述弊害ノ原因ヲ
斷テ候條可心掛此旨諭達候事
但荷造用筵ハ縱五尺三寸幅三尺二寸定度ノモノヲ追々輸送相成候條該品製出ノ各縣へ及照會候
事

○明治十三年九月十四日開拓使札帳本廳達甲第七十八號諭達

昆布ハ當道物産中ノ最大ナルモノニシテ外國貿易上ニ於テ其鴻益アルハ普ク熟知スル所ナリ故ニ

漸次其繁殖方法ヲ考究シ荷モ生立ニ妨害アル雜草ハ勉メテ芟除セサルヘカラス就中方言ゴムト名クルモノハ多ク日高國方面ノ海岸ニ生シ極メテ繁茂シ易ク其害ヲ與フル最モ酷シ其生長ニ任セ之ヲ袖手坐視スルニ於テハ年々莫大ノ減耗ヲ來スノミナラス全ク其發生ヲ絶ツニ至ルモ難計然ルハ乍チ營業者ノ浮沈ニ關スルハ勿論終ニ國益ノ一端ヲ失フニ至ルノ基ナリ豈夫レ忽ニスヘケン乎從來該草ヲ芟除スルハ漁戶ノ慣行ナリシニ近來之ヲ怠ルカ故ニ有志者率先スルアリト雖更ニ行ハサルアリ是徒ニ一日ノ安キヲ得ント欲シ却テ永世ノ大利ヲ失フモノト云フヘシ若シ今ニシテ之ヲ顧慮セスンハ他日凶歉ノ時ニ臨ミ之ヲ患フルモ亦何ソ及ンヤ因テ漁戶タル者ハ皆宜ク意ヲ茲ニ注キ奮勵協議毎歲必ラス該草芟除ノ方法ヲ實行シ永ク産業ノ利根ヲ培養シ念國產ノ興隆ヲ謀レ此旨諭達候事

○明治十五年七月六日札幌縣甲第七十五號諭達

米糧ハ人生一日モ欠クヘカラサルノ要品ニ付殊ニ倭造ニ注意可致ノ處近來其製粗略ニ流レ海陸運輸ノ間散佚スルモノ甚タ多ク國家ノ損失ヲ致ス不慮ニ付米鹽ヲ始メ水陸產ノ重ナルモノハ自今各地ニ於テ逐次其俵製荷造ヲ改良スヘキ等ニ有之處當管内ニ於テハ米々米鹽輸出ノ場合ニ至ラス俵製モ亦從テ僅少ニ俵得共藪麥等ノ穀物ハ遞年運輸ノ額ヲ増加シ就中海產物ノ如キ各地ニ輸送スルモノ固ヨリ巨額ニシテ其俵造ニ係ルモノ甚ナカラス依之明治十三年四月舊開拓使乙第三號諭達ノ趣モ有之ニ付魚粕等ノ荷造ハ右ニ準據スヘキハ勿論此他俵製ノ荷造ヲ要スルモノハ豫テ此ニ注意シ漸次改良國家ノ公益ヲ謀リ俵樣可致此旨特ニ諭達候事

○明治十五年七月二十四日根室縣乙第三十八號達都役所宛

米糧其他水陸產ノ重ナルモノ荷造方ノ儀ニ付今般農商務卿ヨリ諭達ノ趣モ有之候處魚粕荷造ノ義ハ既ニ舊開拓使根室支廳ヨリ相達置俵得共布海苔其他ノ俵製ニ至テハ未タ一樣ノ制限無之自然鹿造販漏等ヨリ聲價ヲ低落セシムルノ患ヲ不免茲ニ有之候條其品種ニ依リ貫目ヲ定メ荷造ニ制限ヲ立改良俵樣營業者ヘ照會解諭可致此旨相達候事

○明治十八年四月四日函館縣諭第一號諭達

本道產出魚粕從來荷造ノ粗略ニシテ大量ナル運搬上不利ノミナラス委漏ノ損害少カラサルヲ以テ之レカ改良ヲ計畫候條明治十三年四月乙第三號ヲ以テ開拓長官ヨリ諭達之趣モ有之候處爾來六ヶ年ノ歲月ヲ經過スルモ其趣旨ヲ了シ改良ノ緒ニ就クモノ甚タ少シ抑魚粕ハ當初本道輸出ノ際ヨリ其販賣地東京又ハ大坂等ニ至ル迄倉庫ニ解舟ニ廻漕船ニ搭載輸送スルノ手數ニ至リテハ概テ六回乃至九回ニ及ヒ尙ホ夫ヨリ地方各村落需用者ノ手ニ入ル迄ニハ或ハ駄送シ或ハ負擔シ其手數幾回ナルヲ知ラズ然シテ其荷造ノ粗略ナルヨリ之ヲ出納運搬スル毎ニ漏泄委棄スルモノハ實ニ些少ナラス今ヤ產出地ヨリ販賣地ヘ直航スル日本形船ヲ以テ無事ニ輸送スルモ其減損概テ五十分一強ノ多キニ至ル況ヤ函館港ヲ經由スルモノ、如キハ倉庫ニ解舟ニ揚卸運搬ノ手數一層多キヲ以テ其減損ヲ見ル亦從テ一層ノ多キヲ加フルハ必然ナリ故ニ之ヲ竄船ニ積載セントスルハ先ツ其漏泄ヲ防カン爲メ越テ増シ細テ添ヘ壹俵ニ付四五錢ノ費用ト幾多ノ手數トヲ要セサルヲ得ヌ加之ナラズ其量目重且大ナルトキハ其運搬揚卸等ノ際之ヲ小量ノ荷物ニ比スレハ一段ノ勞力ト取扱トヲ要スルヲ以テ併セテ俵裝ヲ取壞シ爲メ仲買者需用者共ニ大ニ其不便ヲ感スルノミナラス魚粕ノ聲價ヲ減損スル丁實ニ鮮少ナラサルナリ今假リニ管内產出ノ魚粕全額十四万石ト見做シ總テ產出地ヨ

り販賣地へ直航スルモノトシ全額ノ五十分ノ一漏泄委棄ニ屬スルモノトスルハ其減損高二千八百石ナリ之ヲ代價百石四百圓トシテ總額壹万貳百圓ナリ此比例ヲ以テ全道ヲ合算スルハ其損失實ニ大ナラスヤ 此欠減ヨリ生スル損失ハ全ク販賣先ニ係ル損失ニシテ生産者ニ於テハ更ニ關係ナクモセサル如ク見ユルモ價格ヲ定ムルヲ以テ其損失ハ是レ從來ノ荷造ヲ改良セサルヲ得サルノ理由ナリ 依テ今從來ノ荷造ヲ改良シ損失ヲ豫防シ且需用者ノ便利ヲ計ラントスルニハ第一從前ノ量目ヲ減シテ正味貳拾貫目ヲ一俵トナシ取扱ニ便ナラシメ第二從前粗略ノ俵造ヲ別紙略圖ノ如ク改良シテ其漏泄委棄ヲ防クニアリ

然ルニ本縣管内産出ノ魚粕ヲ十四万石トシテ之ヲ從來ノ通一俵三十貫目ニ造ルハ其俵數十八万六千六百六十六本餘ニシテ之ニ要スル繩及縫ノ代價例年一俵七八錢乃至十二三錢ナリ之ヲ平均一俵拾錢トナシ算出スレハ壹万八千六百六拾六圓六拾六錢餘ナリ而シテ前段ノ如ク改正スルハ繩ト縫トノ價一俵平均拾錢 從來ハ粗大ノ俵裝ニシテ繩ノ需用少ナク改良俵裝ハ繩ノ需用多キニモ拘ハラズ壹俵ノ裝費拾錢貳七尾ノ尺長繩ヲ專用スルノ見込ナルヲ以テ繩ノ價ハ凡ソ半トシテ貳万八千圓ヲ要ス之ヲ新舊差引キハ壹万八千圓ニシテ足ルヘシ故ニ繩ノ需用多キモ之ヲ價フニ足ラント 引計算スルハ改良ニ係ル増費ヲ償ヒ尙ホ殘餘ヲ見ル而シテ此改良ヨリ得ル所ノ利益壹万貳百圓ヨリ差左ノ如シ

- 一 漏泄委棄ノ憂ナキ
- 二 運搬ニ便利ヲ與ヘ從テ需用額ヲ増進スル
- 三 需用増進スルハ商況從テ活潑ナル
- 四 俵裝改正スレハ船ヲ損毀セス聲價ヲ維持スル

五 一俵ヲ貳拾貫目トスレハ貳百俵ヲ以テ百石トス故ニ賣買上計算等ニ便ナル

六 漁船積ニナスキハ別ニ改裝スルノ手數ヲ省キ費用ヲ減スル

以上ノ如ク顯著ノ利益アルヲ以テ此改良ノ方法ヲ實行スルハ從來委棄スル所ノ魚粕ハ更ニ國家ノ有用品ト爲リ其得ル所ノ價金ハ又管内一般ノ潤益ト爲ル其利害得失如何ンヤ抑舊ヲ改メ新ニ就クハ陋俗ノ厭フ所ナリト雖此利ヲ見此害ヲ知リテ改良スル能ハサルハ實ニ遺憾ノ極ト云フヘシ是レ爲基カ懇切告諭スルノ止ム能ハサル所以ナリ

右諭達候事

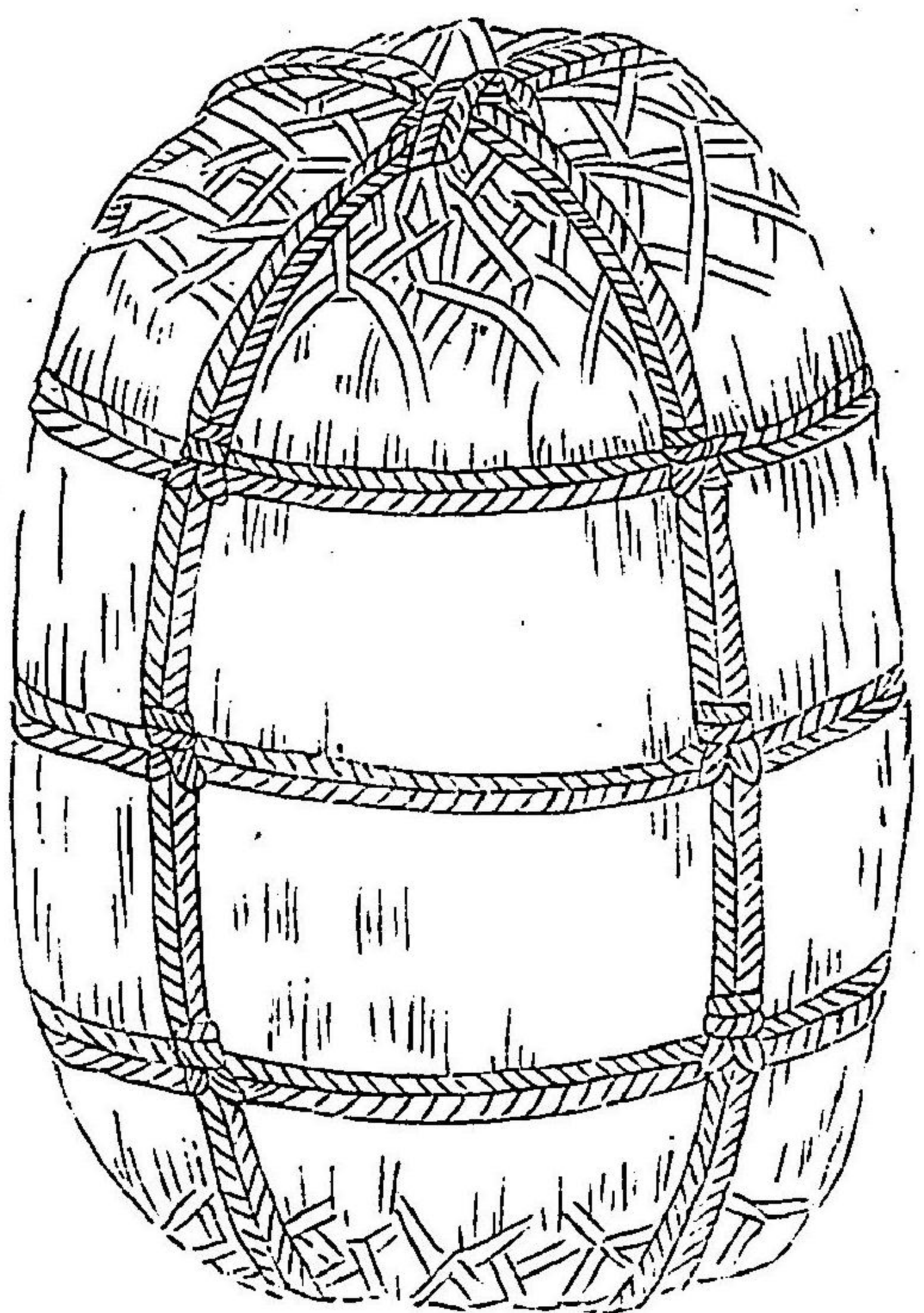
荷造方法

兩口ハ米俵ノ如ク可成緻密ニ織リ胴三ツ繩 繩ヲ以テ 堅十文字ニナリ結回ス

建縫ハ津輕本間 五百目ヨリ 敦賀尺長 五百五十目ヨリ 及ヒ之ニ類似ノモノヲ用ユ

横堅ノ繩ハ大間ヲ用ヒ小口兩織ハ中間繩ヲ用ユ小口建ハ適宜ノモノヲ用ヒコノ量目横堅ノ繩共四百目位

但舊見建所持ノモノハコソ切斷シ 丈五尺三寸取交使用スルモ妨ケナシ



工作及製造

(沿革)開拓使ノ時諸工場設置種々ノ規則アリ廢使以來漸次民業ニ移リ或ハ廢停ス沿革目錄ニ詳ニス○十九年一月北海道廳函館支廳甲第五號布達蒸氣器械ヲ以テ米搗其他ノ營業者出願方ヲ定ム○二十二年六月北海道廳令第四十四號蒸氣器械取締規則ヲ定ム

◎蒸氣器械取締規則

○明治二十二年六月二十二日北海道廳令第四十四號
蒸氣器械取締規則左ノ通定ム

但明治十九年一函館縣甲第五號布達ハ廢止ス

蒸氣器械取締規則

- 第一條 本則ハ製造場精米場等蒸氣器械ヲ裝置スル場所ニ適用ス
- 第二條 蒸氣器械場ヲ設置セントスル者ハ地所及器械場ノ構造繪圖面並器械ノ種類箇數寸法馬力燃料消費高等ヲ記載シタル書面ヲ以テ所轄警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第三條 左ノ各項ニ觸ル、モノハ許可セズ
 - 一 器械場ト隣接地トノ距離拾間以內ノモノ
 - 二 器械場ト道路又ハ鐵道線路トノ距離五間以內ノモノ
 - 三 構造不完全ニシテ危險ノ虞アルモノ
- 第四條 火焚場煙筒及其近傍造作ハ可燃質物ヲ用フヘシ
- 第五條 新築落成及改築又ハ修繕ヲ爲シタル時ハ所轄警察署ニ届出檢査ヲ受クヘシ
- 第六條 既ニ許可シタルモノト雖モ臨時檢査ノ上危險ノ虞アリト認ムル時ハ改築修補ニ至ルマテ運轉ヲ中止スルコトアルヘシ
- 第七條 午後十時ヨリ翌午前四時ニ至ルマテ器械ヲ運轉スヘカラス但四隣遠隔ノ地ニシテ特ニ許可ヲ得タルモノハ此限ニアラス
- 第八條 本則第二條第五條第七條ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

附 則

第九條 從來許可シタルモノニシテ本則第三條一項二項ニ抵觸スル場所ハ改築ノ期ニ至リ該制限ニ從ハシム

酒造

(沿革)明治八年五月開拓使函館支應元第五十三號布達酒類稅則同年公布ノ通施行九年七月同使本廳甲第十九號布達酒類稅則ヲ定ム以來改正其他令達多シ沿革目錄第六類及第十三類ニ詳ニス

◎酢元ニ供スル酒類課稅方

○明治十七年三月十九日札幌縣乙第七十二號達郡區役所宛

- 一 客年月^{十二}第四十一號ヲ以テ酢元ニ供スル酒類課稅ノ義布告相成候ニ付テハ右酒類ニ係ル造石稅表ヲ始メ其他諸表ハ總テ他ノ酒類ノ表式ニ準シ表題中酢元用ノ三字ヲ冠シ各別表ニ調製期限通差出スヘシ
- 一 酒造免許箇所報告表及造酒石高區分並類別表離形凡例及區畫中左ノ通追加ス
- 一 酒造免許箇所報告表凡例第三項
- 一 表記員數ノ内造石稅免除酒類及鑑札^受ニ係ルモノアルキハ其員數ヲ附箋シ置ヘシ
- 一 造酒石高區分並類別表凡例第三項
- 一 石高ノ區分並類別別^ニ總テ製成ノ酒類^ニ事^ニ依^リ免稅^ニ關^スクニ基キ之ヲ調査記載スヘシ但免許ヲ受クシモ製造セサル者アルカ又ハ若手スルモ製成ニ至ラスシテ製造ヲ止メシモノアルキハ其酒造場敷並人員ヲ附箋シ置クヘシ

- 一 造酒石高區分ノ初欄へ五石未満ノ一畫ヲ加フ
- 右相達候事

◎酒造并醬麴營業者出願アルキ身元等取調

○明治十七年十一月二十五日札幌縣乙第二百七十八號達郡區役所宛
酒造並醬麴營業出願ノ者アルキハ本人身元及該營業上諸般差支ナキヤ否ヲ取調へ意見書相添へ進達スヘシ

右相達候事

◎自家用料酒類製造者心得書式

○明治二十二年十一月九日北海道廳令第六十二號
明治十九年^八大藏省令第二十七號自家用料酒類製造者心得第一項第三項書式左ノ通相定ム
但明治十九年^十函館支應甲第十號布達ハ廢ス
自家用料酒製造御届

一	濁酒	何程	國郡區町村番地
一	燒酎	何程	何營業名
一	味淋	何程	何
	(白酒銘酒ノ如キモノニ準ス)		某

(引續製造ノモノハ免許鑑札番號ヲ記載スヘシ)

合製造石高 何 程

右ハ何年度自家用料ノ爲メ前記ノ酒類製造仕候間(免許鑑札御下渡被下度)(御免許相成度)尤今後造酒種目ノ變換及製造高ヲ増減候節ハ其時々御届可仕此段(鑑札相添)御届仕候也

年月日

右

何

某

郡區長宛

(戸長與書)

標札書式

免許鑑札番號

自家用料 何酒製造

國郡區町村番地

何

某

堅巾曲尺二尺

横巾全 八寸

◎酒造營業人心得書

○明治二十三年九月二十五日北海道廳令第六十三號

酒造營業人心得書左ノ通相定メ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

但明治二十二年十一月十一日當廳令第六十二號ハ全日ヨリ廢止ス

酒造營業人心得書

第一條 酒造營業願書ハ第一號新規第二號引續書式ニ倣ヒ差出スヘシ

第二條 稅則施行細則第一條地所建物ノ圖面ハ第三號雛形ニ倣ヒ調製スヘシ

第三條 第一條ノ願書ニハ第四號書式ニ倣ヒ所有不動産價格調書ヲ添付スヘシ但保證物又ハ保證人ヲ要スルモノハ此限リニアラス

第四條 葡萄酒麥酒類ノミ製造セントスルモノハ營業願書ニ製造方法書ヲ添ヘ差出スヘシ

第五條 保證物又ハ保證人ヲ要スルトキハ第五號ヨリ第七號マテノ書式ニ倣ヒ保證狀ヲ差出スヘシ

第六條 稅則第二十六條第二十七條ノ一期造酒見込ノ種目清酒濁酒燒酎酒梅酒葡萄酒白葡萄酒味醂酒等釀酒ノ其酒名ヲ記載スヘシ石數造リ方法並ニ倉庫納屋諸器械ハ第八號ヨリ第十號マテノ書式ニ倣ヒ調製シ

酒造營業免許ヲ受ケタル後五日限リ届出ツヘシ

見込石數ノ増減届書ハ第十一號書式ニ倣ヒ調製スヘシ

第七條 稅則第二十八條ノ標札ハ第十二號雛形ニ倣ヒ調製スヘシ

第八條 醱酵仕込桶遣ヒ及順號ハ第十三號書式ニ倣ヒ造酒著手以前届出之ヲ變換スルトキモ亦同シ

第九條 酒桶斐類ノ新製修繕ニ係ル分ハ稅則施行細則第十二條ノ大量法及算則ニ依リ容量ヲ量リ

第十四號書式ニ倣ヒ檢査願届出桶ノ正面ヘ番號及石數等ノ記載ヲ受クヘシ

斐類ニハ木札ニ記載烙印ヲ受ケ斐ノ上部ニ掲ケ置クヘシ

酒類ヲ容レサルモノハ丈量ニ及ハサルモ柏桶水桶米浸桶ノ類ハ各其名稱番號ノ記載ヲ受クヘシ

第十條 酒造用諸器械ニハ烙印ヲ受クヘシ若シ烙印ヲ捺シ得サルモノハ此限ニアラス

第十一條 酒桶容量調查簿甲乙二帳ヲ製シ甲帳ハ郡區役所ニ備ヘ乙帳ハ營業者ニ下付ス
 第十二條 諸器械ノ買賣讓與貸借又ハ返却スルトキハ桶甕類ハ其番號他ノ諸器械ハ其品目買數ヲ記載シ双方連署ノ上届出帳簿ノ訂正ヲ受ケタル後之ヲ授受スヘシ
 第十三條 前條酒造營業人ニアラサルモノハ賣渡讓渡トキハ烙印ノ削除ヲ請フヘシ
 第十四條 造酒槽リ器械ノ封緘又ハ解封ノトキハ第十五號書式ノ請書ニ調印スヘシ
 第十五條 酒甑及醪ハ熟成ノ期日ヲ豫定シ第十六號書式ニ倣ヒ申出検査ヲ受クヘシ
 第十六條 醪ハ一ト仕舞毎ニ分界ヲ立テ搾リ揚ケ製酒検査ヲ受クヘシ若シ合併セントスルトキハ豫メ其旨申立検査員ノ承認ヲ受クヘシ但釀造方法ノ同シキモノニ限ル
 第十七條 検査済ノ酒甑數個ヲ一ト桶ニ合併シ漸次幾分ヲ使用スルモノハ其殘石數ヲ判然ナラシメシ爲メ醪何個何分何厘ト紙札ニ記載シ桶ノ正面ニ貼付シ置クヘシ
 第十八條 酒粕ハ製成酒検査ノ際共ニ検査ヲ受クヘシ
 第十九條 醪醱製酒等ノ検査ヲ受ケタルトキハ造石検査簿ニ調印スヘシ
 第二十條 醪及製成酒ノ検査ヲ受ケタルトキハ其月日石數ヲ仕込帳計ノ傍ニ記載シ調印ノ上検査員ノ認印ヲ受クヘシ
 第二十一條 検査ヲ受ケタル酒類ニハ月日検査済ト紙札ニ記載貼付シ置クヘシ
 第二十二條 古酒並ニ買入酒ヲ所持スルモノハ造酒期節ノ初メニ於テ石數ノ検査ヲ受クヘシ
 第二十三條 酒類ヲ買入シタルトキハ石數及賣主ノ住所氏名ヲ記載シ届出ツヘシ
 第二十四條 検査済ニ係ル酒類及古酒買入酒等ハ隨時石數ヲ検査スルコトアルヘシ但買入酒ハ仕切書送狀等ヲ取置キ検査ノ参照ニ供スヘシ

第二十五條 營業ノ都合ニヨリ未製成ノ酒類ヲ同業者へ賣渡讓渡サントスルトキハ双方連署ノ上申出検査ヲ受クヘシ
 第二十六條 二ヶ所以上免許ヲ受ケタルモノ甲ノ酒造場ニ於テ製造シタル醪醱ヲ乙ノ酒造場へ移サントスルトキハ其旨申出検査ヲ受クヘシ
 第二十七條 腐敗酒ヲ販賣セントスルトキハ其所用ヲ明記シ買主連署届出ツヘシ
 第二十八條 腐敗酒買入酒等ヲ變製セントスルトキハ申出検査ヲ受ケ尙製成ノ上検査ヲ受クヘシ
 第二十九條 稅則施行細則第二十二條帳簿ノ記載方ハ第十七號ヨリ第二十四號マテノ書式ニ倣フヘシ
 第三十條 廢業ノトキハ免許鑑札ヲ添ヘ其旨届出ツヘシ
 第三十一條 營業上代人ヲ置クトキハ委任狀寫ヲ添ヘ双方連署届出ツヘシ
 第三十二條 検査未済ノ酒甑醪立順其他ノ酒類ニハ仕込帳ヲ紙札ニ記載シ桶甕ノ正面ニ貼付シ置クヘシ
 第一號

酒造營業免許願
 何國何郡何町何番地
 酒造場

酒類製造見込高
 一何酒何程

(製造見込ノ種目毎ニ列記スヘシ)

右酒造場ニ於テ明治何年度酒造營業仕度候間免許鑑札御下渡相成度依テ(同業者連署シ)用酒類ヲ製造スルモノハ酒造場一區域地所建物ノ繪圖面(所有不動産價格調書)(納稅保證狀)類ノミ製造同業者連署ノ六字ヲ除ク酒造場一區域地所建物ノ繪圖面(所有不動産價格調書)(納稅保證狀)類ノミ製造下十四字ヲ除ク添付此段相願候也

年月日

願

何國何郡何町何番地(寄留)
(原籍何々)

何國何郡何町何番地

某印

酒造營業人 何

某印

以下同業者連署前ニ做フ

區郡 長宛

(戸長ノ與書ヲ要ス)

備考

- 一 戸長ノ與書ハ酒造場所在地ノ戸長タルヘシ
- 一 後見人アルモノハ後見人ノ名ヲ以テスヘシ

第二號

引續酒造營業免許願

何國何郡何町何番地

酒造場

第何號(乙種)

一 酒類製造營業免許鑑札

酒類製造 見込高

一 何酒何程

(製造見込ノ種目毎ニ列記スヘシ)

右酒造場ニ於テ引續明治何年度酒造營業仕度候間御免許相成度(依テ所有不動産價格調書納稅保證狀)ハ依テ以下十六字ヲ除ク添付此段相願候也

何國何郡何町何番地(寄留)

(原籍何々)

酒造營業人 何

某印

年月日

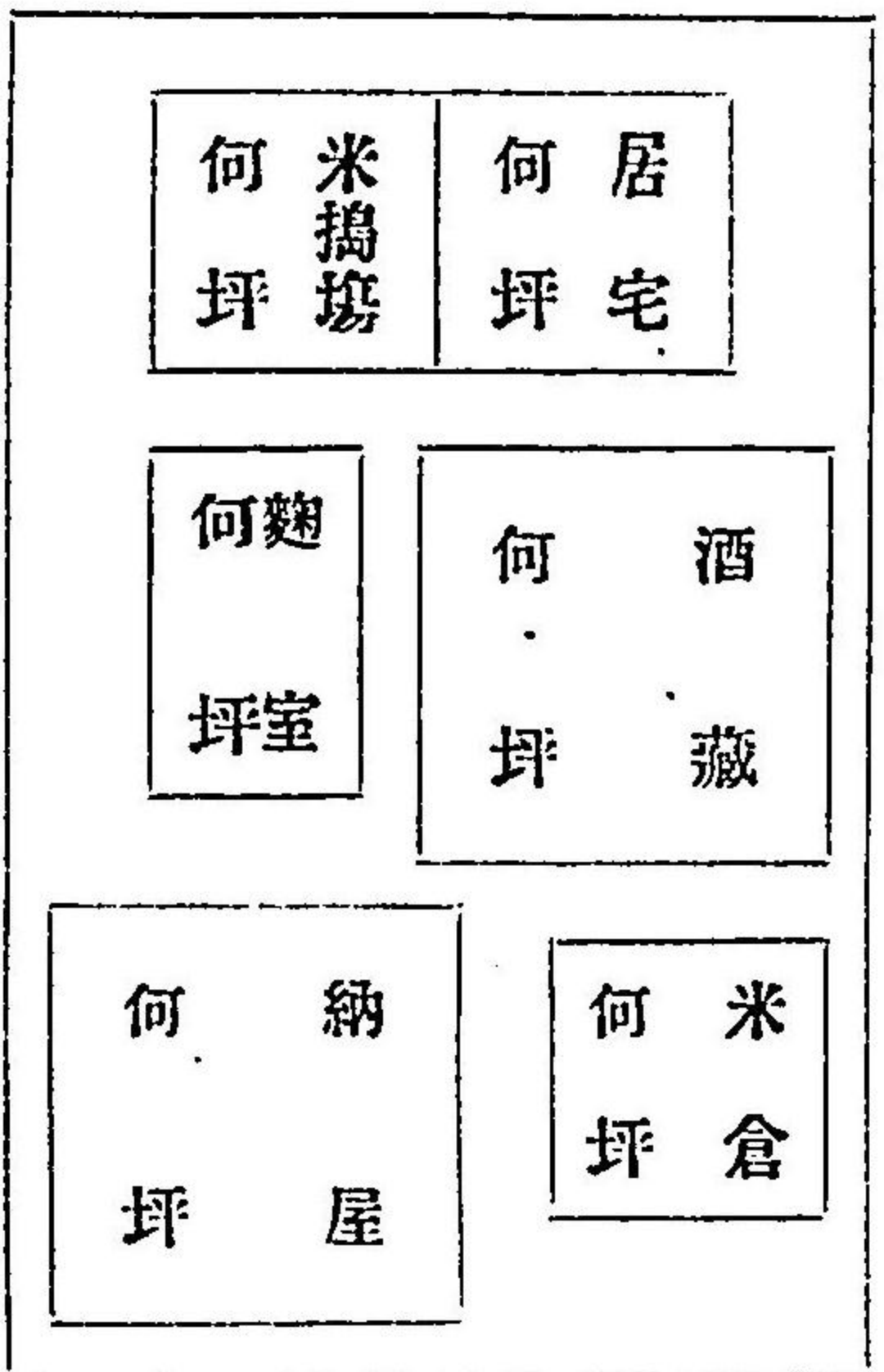
區郡 長宛

(戸長ノ與書ヲ要ス)

備考

- 第一號ニ全シ
- 第三號

酒造場一區域地所建物繪圖



一 地所

此(反別)(坪數)何程

一 建家

此總坪數何程

幾棟

內

何程

何程

右之通候也

營業ニ屬スル分
營業ニ屬セサル分

年 月 日
備 考

何

某 印

一 繪圖面中酒造營業ニ屬セサル分ハ朱書ヲ以テ記載スヘシ
第四號 不動産價格調査

土地之部

何國何郡何町何番號

一 何々反別何程

此地價何程

此賣買代價何程

(以下一地目毎ニ列記スヘシ)

計

何々反別何程

地價何程

賣買代價何程

建物之部

何國何郡何町何番號

一 何々家屋

此賣買代價

(以下一種毎ニ列記スヘシ)

計

但(質入書入等ニ差入無之)(明治何年何月何日何國何郡區何町何番
何番地何某へ(質書)登記済)

但(質入書入等ニ差入無之)(明治何年何月何日何國何郡區何町何番
地何某へ(質書)登記済)

此賣買代價何程
右之通所有不動産相違無之候也

何國何區何町何番地(寄留)
(原籍何々)

年月日

區郡 長宛

何

某印

備考

(戸長ノ奥書ヲ要ス)

一 戸長ノ奥書ハ地所建物所在地ノ戸長タルヘシ
第五號ノ一

納稅保證狀
印紙

私儀明治何年度酒造營業出願候ニ付納稅保證ノ爲メ別紙目錄之通保證物差出候若シ造石稅
滯納ノ節ハ保證物賣却御徵收相成且該價格ニ對シ異議申立間敷候也

何國何區何町何番地(寄留)
(原籍何々)

年月日

區郡 長宛

何

某印

第五號ノ二

納稅保證狀
印紙

何國何區何町何番地(寄留)何某明治何年度酒造營業出願候ニ付納稅保證ノ爲メ別紙目錄之通
保證物差出候若シ本人ニ於テ造石稅滯納ノ節ハ保證物賣却御徵收相成且該價格ニ對シ異議申立
間敷仍テ連署仕候也

年月日

持

主

某印

何國何區何町何番地(寄留)
(原籍何々)

酒造出願人
何

某印

區郡 長宛

第六號

納稅保證物目錄

第何號	第何號	等公債番證號書	種類	額面金額	利子	賣買價格	額面記名主
何	何	何	何	金何程	何	何	何
何	何	何	何	金何程	何	何	何
何	何	何	何	金何程	何	何	何
何	何	何	何	金何程	何	何	何

國郡區町村大字名	字	番	號	地	目	反	別	地	價	賣	買	價	格
何國何區何町何字	字	何	番	何	々	何	程	何	程	金	何	程	
國郡區町村番地	種地	類物	構	造	坪	數	造	有	無	付	賣	買	價
何國何區何町何番地	何	々	何	々	何	程	何	々	何	程	何	程	

右納稅保證物トシテ差入タル目錄相違無之候也

何國何區何町何番地(寄留)

何

某印

年月日

區郡 長宛

第七號

印紙券

納稅保證狀

何國何區何町何番地(寄留)何某明治何年度酒造營業出願候ニ付若シ造石稅滯納ノ節ハ拙者ニ於テ本人ニ代リ辨納可致候也

何國何區何町何番地(寄留)
(原籍何々)

年月日

區郡 長宛

保證人 何

某印

第八號

酒造見込種目並石數御届

何國何區何町何番地

酒 造

場

免許鑑札第何號

一 清酒何千何百石

白米何石

但幾仕舞ノ見込

一 燒酎何百石何斗

酒粕何拾何万貫目

但幾釜蒸溜ノ見込

一 酒精何拾石

酒粕何拾万貫目

但幾釜蒸溜ノ見込

一 味淋何百石

糯米何百石

但幾仕舞ノ見込

一 保命酒何拾石

味淋何石

但同上

右ハ明治何年度酒造見込種目及石數前記ノ通ニ有之候尤以後増減之節ハ其時々御届可仕候也

何國何區何村何番地(寄留)

何

某印

年月日 區郡長宛

備考

一 免許鑑札番號及酒造場番地ヲ記載スルハ一人ニシテニヶ所以上ノ酒造場ヲ有スルノ例ナリ

一ヶ所ヲ有スルモノハ記載ニ及ハズ以下之ニ倣フ

一 濁酒ハ清酒ニ白酒ハ味淋ニ銘酒ハ保命酒ニ倣ヒ記載スヘシ

第九號

酒類釀造方法書

何醜一個釀造法

一 蒸米何斗

一 麴米何斗何升

一 水何斗何升

此見込醜何石何斗

清酒一ト仕舞釀造法

醜米何斗

此仕込水何石何斗

初添米何石何斗 内 蒸米何斗

此仕込水何石何斗

中添米何石何斗 内 蒸米何石

此仕込水何石何斗

留米何石何斗 内 蒸米何石

此仕込水何石何斗

合 白米何石何斗

此見込醜何石何斗

此見込清酒何石何斗

燒酎一ト釜蒸溜法

元粕何拾貫目

此見込燒酎何斗

元腐敗清酒何石

此見込燒酎何斗

元燒酎何石 味淋一ト仕込製造法

掛米何石何斗

此見込醜何石何斗

此見込味淋何石何斗

保命酒一仕舞製造法

元 燒酎何石

味淋何石

但白米一石ニ付仕込水平均何石何斗

但白米ヨリ何割何分ノ見込

但醜ヨリ何割何分ノ見込

但元粕拾貫目ニ付何升取(凡何度數)ノ見込

但元一石ニ付何斗取(凡何度數)ノ見込

但元一石ニ付何斗取(凡何度數)ノ見込

但元一石ニ付何斗取(凡何度數)ノ見込

但元一石ニ付何斗取(凡何度數)ノ見込

但元一石ニ付何斗取(凡何度數)ノ見込

但元一石ニ付何斗取(凡何度數)ノ見込

但元一石ニ付何斗取(凡何度數)ノ見込

但元一石ニ付何斗取(凡何度數)ノ見込

但元一石ニ付何斗取(凡何度數)ノ見込

但元一石ニ付何斗取(凡何度數)ノ見込

但元一石ニ付何斗取(凡何度數)ノ見込

- 一 甌 但何石何斗入 何個
- 一 蒸 釜 但何石何斗入 何個
- 一 半切 桶 何個
- 一 試シ 桶 何個
- 一 暖氣 樽 何個
- 一 桃 桶 何個
- 一 捲 桶 何個
- 一 柄 杓 但何升何合何勺 何個
- 一 水通上樽 但何斗何升入 何個
- 一 水汲 桶 但何升何合何勺入 何個
- 一 麴 板 何枚
- 一 櫃 何個

右酒造場建築物及諸器械即今所持ノ分前記之通相違無之候尤モ以後増減有之節ハ其時々御届可仕候也

以下第八號書式ニ準ス

備考

- 一 酒造用諸器械ハ使用ト否トヲ問ハス苟クモ酒造場内ニ現在シ使用シ得ヘキモノハ無減記載スヘシ
- 一 居宅其他ノ建物中ニ酒類及諸器械ヲ入置クモノハ酒造ニ屬スル部分ニ記載スヘシ

一 借用ノ物件ハ其左傍ニ國郡區町村番地何某ヨリ借用ト記スヘシ
第十一號 造酒見込石數(増減)御届

一 清酒何百何拾何石

白米何百何拾石

何年何月御届

一 清酒何拾何石

白米何拾石

今度増造ノ分ノ見込
何石仕舞何個

合計

清酒何百何拾石

白米何百何拾石

(減造届ハ左ノ如ク記載スヘシ)

一 清酒何百何拾石

白米何百何拾石

何年月日御届高

内

清酒何拾何石

白米何拾何石

今度減造ノ分ノ見込
何石仕舞何個

差引

清酒何百何拾石

白米何百何拾石

右ハ明治何年度造酒見込石數前書ノ通増(減)造仕候此段御届候也

以下書式第八號ニ準ス

備考

一 他ノ酒類ノ増減届モ之ニ準スヘシ
第十二號

免許鑑札第何號

清酒何拾何石何斗何升何合

濁酒、、、、、、、、、、

焼酎、、、、、、、、、、

何國何郡何町何番地
何
某

葡萄酒麥酒類ノミ製造スルトキノ例

免許鑑札第何號

葡萄酒(麥酒)製造場

何國何郡何町何番地
何
某

第十三號

醱膠仕込桶造ヒ順序調

醱取半切桶造法

半切何枚ニ分配

半切何枚ニ合縮

半切何枚ニ合縮

半切何枚ニ合縮

坪臺桶一個ニ入

膠仕込桶造法

三尺桶何本

同 何本

仕込桶 何本

三尺桶 何本

仕込桶何本

膠仕込桶造順號

第何號桶

仕込順號

第何號桶

同

第何號桶

同

第一號 第五號 第九號

第二號 第六號 第十號

第三號 第七號

第十三類 酒 造

第何號桶

同 第四號 第八號

右ハ明治何年度醜醜仕込桶造ヒ順序前書之通ニ有之候尤増減并ニ變更等有之候節ハ其時々御届可仕候也

以下書式ハ第八號ニ準ス

備考

一 清酒外酒類モ之ニ準ス

第十四號

酒造桶容量御検査願

第何號

一桶 但新調(買入)(譲受)(修繕)

口徑何尺何寸何分

第一胴徑何尺何寸何分

第二胴徑何尺何寸何分

第三胴徑何尺何寸何分

底徑何尺何寸何分

深サ何尺何寸何分

第二胴徑以上石數何石何斗何升何合

但口頭ヨリ一寸減

第二胴徑以下石數何石何斗何升何合
合石數何石何斗
第何號

一 甕 但(新調)(何々)
石數何石何斗何升何合 (但水量試シ)
右容積御検査被下度此段相願候也
以下書式ハ第八號ニ準ス
第十五號

造酒器機封印御請書
造酒器機ノ内左ノ品々へ御封印相請候ニ付該器機使用又ハ洗滌修繕等ノ節ハ其旨申立御解封可願上尤モ御開封ノ上ハ左ニ掲ケル數日中ニ必ス使用又ハ洗滌修繕等ヲ了リ御再封相受可申候仍
御封緘御解封ノ都度其年月日使用又ハ洗滌修繕日數ヲ左ニ掲記シ御請印仕候也

何國何郡何町何番地
酒造營業人 何 某 印

何國何郡何町何番地
酒造 場

郡區長宛

年月日

免許鑑札番號

器械番號	同品目	御封緘箇所	御封緘年月日	御封緘上願	御開封年月日並日數
何號	酒槽	一ヶ所	明治何年何月何日	洗滌	明治何年何月何日
何號	男柱	一ヶ所	明治何年何月何日	修繕	明治何年何月何日
何號	兜釜	一ヶ所	明治何年何月何日	使用	明治何年何月何日
何號	酒槽	一ヶ所	明治何年何月何日	同	明治何年何月何日

備考

一 ①印ノ處へ検査員②印ノ處へ營業人捺印スルモノトス
第十六號

一 醜(醜)御検査願
何個

但來ル何日頃熟成ノ見込
一 醜(醜)何號ヨリ 幾仕舞
第何號マテ
但來ル何日頃熟成ノ見込
右御検査被下度相願候也
以下書式ハ第八號ニ準ス
第十七號

表
明治何年度
酒造原品受拂帳
横帳ニ調製スヘシ
以下之ニ倣フ

裏
何國何區何町何番地
何 某
免許鑑札番號
酒造場ト居住地ノ番地異ナルモノハ併記スヘシ
以下之ニ倣フ

備考
一 此帳簿ニハ受拂ノ部ヲ設ケ口分ヲ爲シ記載スヘシ
一 小計ハ月計ニシテ一ヶ月目ヨリ通計ヲ付スヘシ
以下之ニ倣フ
受之部

一玄米	何程	何國何區郡何町
此代價何程		何某ヨリ(買入)(借入)
此白米何程	月 日	
一白米	何程	何國何區郡何町
此代價何程		何某ヨリ買入
小計何程	月 日	
一玄米	自作ノ分	
此白米何程	月 日	
一玄米	何程	何國何區郡何町
此代價何程		何某ヨリ買入
此白米	何程	
小計	何程	

通計	何程	
以下前ニ倣フ	月 日	
一白米	何程	
小計	何程	
通計	何程	
拂之部		
一元麴米	月 日	何程
一元蒸米	何程	
一元麴米	何程	
一掛麴米	何程	
一同蒸米	何程	
小計	何程	
通計	何程	
以下前ニ倣フ	何程	
第十八號		

表		裏	
仕	、		
込	、		
帳	、		

備考

- 一 此ノ帳簿ニハ醗取ト醗仕込ト各別ニ記入スヘシ
- 一 醗取及醗仕込トモ醸造法同一ナルモノハニ々蒸麴水等記載ニ及ハスト雖モ順號月日ハ勿論
- 一 仕舞ノ計ニハ石數ヲモ記載スヘシ

醗取ノ部

第一號
 蒸米 何 水 醗
 麴米 何 程
 汲水 何 程
 月 日

第二號ヨリ

生 醗

第四號迄

全上 醸造法全一ノモノハ一々記スルニ及ハス

第五號ヨリ

全

第七號迄

全上

小計 何 何 何
 蒸米 何 程 程
 麴米 何 程 程
 汲水 何 程 程
 通計 何 程 程
 蒸米 何 程 程
 麴米 何 程 程
 汲水 何 程 程

以下前ニ倣フ

仕込ノ部

第一號

第二號	中	添	添	醜	第二號
汲水	蒸米	蒸米	蒸米	蒸米	汲水
月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日
何	何	何	何	何	何
程	程	程	程	程	程
				程 第二號 第三號 五分	

留	中	添	醜	醜	立
蒸米	蒸米	蒸米	蒸米	蒸米	立
計	汲水	汲水	汲水	汲水	月
月	月	月	月	月	日
日	日	日	日	日	日
何	何	何	何	何	何
程	程	程	程	程	程
					第一號 一個

小計
元粕 何程
元何酒 何程

第二十一號

明治何年度	表	裏
變製酒類原品受拂帳		

備考
一 此帳簿ニハ變製セントスル原品受拂口分ヲ設ケ記載スヘシ
受之部

(清酒)(腐敗酒) 何程
一濁酒 何程
小計何々 何程

通計何々 何程

以下之ニ倣フ

拂之部

書式受ノ部ニ同シ

第二十二號

酒類藏出帳	表	裏

備考

- 一 此帳簿ニハ古酒買入酒煮込酒ト各口分ケヲナシ日々藏出ノ高ヲ記載シ月末ニ至テ小計通計ヲ付記スヘシ
- 一 藏内ニテ直ニ賣渡スモノハ其時々若クハ點數ヲ以テ其石數ヲ記載スヘシ
- 一 小賣ニ供スル爲メ見世賣場へ酒類ヲ移ストキハ賣場出トシテ其石數ヲ記入スヘシ
- 一 藏働キ雇人等ノ飲料ニスル酒類ハ一個ノ用器ヲ供ヘ半日若クハ一日丈ケノ量ヲ見積リ該帳

ニ記入シ而シテ後飲用セシムヘシ

古酒ノ部	月	日	藏出
一何程			賣場出
一何程			自家用料
一何程	月	日	藏賣
一何程			煮込
小計			何々
一何程			何々
通計			
新酒ノ部	月	日	
以下前ニ倣フ			
煮込酒ノ部	月	日	

第二十三號

裏	表
、 、 、 、 、 、 、 、	酒類買上帳

備考
一 此帳簿ニハ古酒買入酒煮込酒各口分ケテ爲シ御賣ハ買主ノ住所氏名ヲ記シ小賣ハ其日締高ヲ記載スヘシ
古酒之部

一何程
内
何程
何程
月 日
以下前ニ倣フ

古酒
新酒

月 日

何國何郡何町
何

某

一何酒何程

此代價何程

以下之ニ倣フ

醬麴

〔沿革〕前ニ同シ

○醬麴營業取扱心得書

○明治十四年一月七日開拓使函館支廳第一號達郡區役所宛

昨十二年十一月大藏省乙第三十九號乙第四十號(醬麴營業取扱心得書)府縣へ達ノ趣當廳ニ於テモ同様履行候條此

旨相達候事

○明治十四年六月二十九日開拓使根室支廳丙第二十七號達郡役所宛

今般甲第三十七號ヲ以テ醬麴營業稅則布達候條右取扱心得方ハ十三年十一月乙第四十號大藏卿達ノ

通可相心得事

○明治十九年四月五日北海道廳已第十九號達郡區役所^{支廳管内宛}

明治十四年四月舊開拓使本廳達甲第五十一號布達醬麴營業稅則取扱心得方ハ明治十三年十一月乙第四

十號大藏省達ニ準據取扱フヘシ
右相達ス

○醬麴營業出願届書式

○明治十七年十一月二十五日札幌縣甲第七十七號布達

明治十四年四月舊開拓使達甲第五十一號布達醬麴營業稅則第四條第五條ニ據リ可差出願届書式別紙

ノ通相定ム

右布達候事

(別紙)

醬麴販賣見込石數御届

一醬麴製造高

但製造場何村何番地

右ハ當一期醬麴販賣見込石數書面之通御届仕候也

國郡町番地^{在籍}

年 月 日

何

誰 印

戸長

名

印

縣 令 宛

醬麴販賣石高検査願

見込御届高(増減石アレハ之ヲ差引殘石高ヲ記スヘシ)

一醬麴販賣石高

右ハ何年一期齋麴販賣石高皆濟書面之通相違無之候間御檢査被下度別冊販賣石高帳相添へ此段奉願候也

年月日

國郡町番地在籍
戸長
何
誰
印

縣令宛

表

用紙半紙

何年一期齋麴販賣石高帳

國郡町番地 姓名

販賣石高	年月日	國郡(區)町番地	購求者姓名
何斗	何年何月何日	何國何區郡何町何番地	何ノ誰

煙草

[沿革]前ニ同シ

◎煙草營業者心得書

○明治二十一年七月二十五日北海道廳令第四十五號
煙草稅則改正ニ付煙草營業者心得左ノ通定ム
但明治十七年九月札幌縣甲第六十三號布達明治十八年四月函館縣甲第十六號布達明治十九年六月北海道廳根室支廳甲第十九號布達ハ廢止ス

煙草營業者心得書

第一條 稅則第二條及施行細則第二十六條ノ願屆書ハ其地戸長ノ與印ヲ受クヘシ

第二條 煙草製造營業ヲ願出ル者ハ施行細則第一條ニ據ルノ外尙製造器械ノ種類個數及雇人弟子職工ノ數ヲ詳記シタル調書ヲ願書ニ添フヘシ

第三條 煙草製造入證約ノ金額ハ郡區長ノ指示ニ從ヒ之ヲ記入スヘシ

合何石					何人

證約ノ保證人其資格ヲ失ヒタル時ハ他ノ保證人ヲ立テ證約狀ヲ更ムヘシ
 證約金ノ全部若クハ一部ヲ徵收スル時ハ更ニ證約狀ヲ差出スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ更ニ證約狀ヲ差出サ、ルトキハ免許ノ効ヲ失フモノトス
 第四條 煙草營業者ハ營業ノ標札ヲ第一號離形ニ捺リ調製シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ
 但兼業者ハ列記スルモ妨ケナシ
 第五條 煙草製造營業ヲ願出ルトキ届出サル不使用ノ刻ミ器械ハ所轄郡區役所へ申出封緘ヲ受ク
 第六條 煙草製造人葉取葉拵又ハ賃卷ノ爲メ煙草ヲ營業場外ノ職工ニ付スルトキハ職工一人ニ付
 葉取葉拵ハ八貫目賃卷ハ五百目ヲ超ユヘカラス
 前項煙草ノ量目七分以上ヲ還付スルニアラサレハ次回ノ煙草ヲ渡スコトヲ得ス
 前項ノ場合ニ於テ製造人ハ通帳ヲ調製シ之ヲ職工ニ渡シ置受授ノ煙草種類量目年月日ヲ詳記シ
 製造人證印ヲ捺スヘシ
 第七條 稅則第九條製造煙草ノ包裹ハ各自之ヲ一定シ其見本ヲ所轄郡區役所ニ届出ヘシ
 第八條 施行細則第十六條印紙ノ消印ニ用フル印章ハ其印鑑ヲ所轄郡區役所ニ届出ヘシ
 第九條 施行細則第十條第二項ノ文字ハ楷書行書ヲ以テ記載スヘシ
 第十條 施行細則第十五條ノ場合ハ必ラス其包裹ニ(何年何月何日切抜キ見本)ト明記シ各箇一場
 ニ陳列スヘシ
 第十一條 煙草營業者内外國產製ノ煙草ヲ買買スルトキハ其店頭ノ陳列及ヒ藏置場トモ内外ノ區
 別ヲナシ置クヘシ

第十二條 煙草營業者煙草ノ出賣ヲナシ又ハ家族雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ其帳ヲ調製シ
 携出ノ煙草種類箇數量目及年月日ヲ記載スヘシ
 營業者又ハ家雇雇人ハ前項ノ事故ヲ記載シタル帳簿ヲ携帶シ若クハ之ヲ携帶セシムヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ烟草容器(箱或ハ行李等ノ類)ノ外部ニ營業者ノ資格住所氏名ヲ明記スヘシ
 第十三條 烟草營業者他郡區又ハ他管下へ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添へ所轄郡區役所ニ
 願出添簡ヲ受ケ移轉地ノ郡區役所又ハ府縣廳へ申出鑑札ノ下渡ヲ請フヘシ
 第十四條 煙草營業者及ヒ耕作人ニシテ自ラ其煙草荷物ヲ運送スル場合ニ於テハ施行細則第二十
 一條ノ事項ヲ記載シタル賣渡先(賣渡先定マラサル者ハ何市場又ハ何場所ニ運送スル旨)ヲ記シ
 タル證明書ヲ所持スヘシ
 第十五條 施行細則第二十四條ノ帳簿ハ左ノ通之ヲ調製シ記載方ハ第二號書式ニ據ルヘシ
 煙草製造人
 葉煙草買入帳、煙草製造帳、製造煙草賣渡帳、煙草印紙(元受使用)帳、葉煙草預リ帳
 煙草仲買人
 葉煙草買入帳、葉煙草賣渡帳、製造煙草賣渡帳、製造煙草買入帳、葉煙草預帳、製造煙草預
 帳、外國煙草買入帳、外國煙草賣渡帳
 煙草小賣人
 製造煙草買入帳、製造煙草預帳、外國煙草買入帳
 第十六條 煙草營業者ニ於テ桐葉蓮葉山歸來野薔薇等ヲ買買シ又ハ之ヲ吸煙料ニ製造シテ賣買
 スルトキハ前條帳簿ニ準シ之ヲ記載スヘシ

第十七條 煙草營業者營業ニ關スル帳簿書類ヲ燒失又ハ毀損セシトキハ其事由ヲ詳記シ速ニ所轄郡區役所ニ届出ヘシ

第十八條 煙草製造人仲買人水火盜難又ハ其他ノ事故ニ依リ未製造煙草ニ損害ヲ受ケタルトキハ速ニ所轄郡區役所ニ届出ヘシ

第十九條 煙草營業者及ヒ耕作人ニシテ煙草ヲ賣入若クハ抵當ニ差入又ハ之ヲ受戻シタルトキハ其種類箇數目年月日ヲ詳記シ双方連署ヲ以テ所轄郡區役所ニ届出ヘシ
但抵當ノ煙草ハ先方ニ差出スモノト所有者ノ所持スルモノト其區別ヲ届書ニ記載スヘシ
前項ノ煙草賣流抵當流トナリ之ヲ他ニ賣却セシトキハ其種類箇數目年月日元賣入主抵當差入主及買受人ノ營業資格住所氏名ヲ其時々所轄郡區役所ニ届出ヘシ
但製造人ニテ他ニ賣却セサルモノハ賣流トナリ時直ニ届出ヘシ

第二十條 煙草營業者不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ此場合ニ於テハ委任狀寫ヲ添ヘ所轄郡區役所ニ届出ヘシ

第二十一條 天災其他抗拒スヘカヲサレ事變ニ罹リ所持ノ煙草包裹及ヒ其貼用ノ印紙毀損又ハ汚染シテ印紙ノ交換ヲ願出ツル場合ニ於テハ速ニ所轄郡區役所ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第二十二條 煙草營業者廢業ノ際煙草ヲ所持スル場合ニ於テハ其種類箇數目ヲ詳記シ速ニ所轄郡區役所ニ届出ヘシ

第二十三條 煙草營業者廢業スルトキハ所轄郡區役所ヘ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第二十四條 煙草仲買人小賣人ニシテ稅則第三十九條第二項ノ場合ニ於テ印紙ノ買入ヲ爲ストキハ施行細則第二十二條ノ手續ヲ爲スヘシ

稅則第三十八條第三十九條第二項ニ據リ改裝ノ煙草ハ第十五條ノ帳簿ニ記入シ改裝ノ二字ヲ加ヘ置クヘシ

第二十五條 煙草營業者ニシテ稅則施行以前ノ煙草仕入出賣鑑札ヲ所持スルモノハ所轄郡區役所ニ申出携帶人ノ屬籍年齡記入ヲ請フヘシ

第二十六條 稅則施行前ノ印紙買入鑑札ハ本年八月三十一日限り所轄郡區役所ヘ還納スヘシ

第二十七條 稅則施行以前裝置シタル刻ミ煙草ニシテ本年九月三十日マテ賣買セシ分ハ稅則施行以前ノ帳簿ニ記載スヘシ

第二十八條 煙草製造人仲買人本年七月一日以降ニ持越シタル葉煙草ハ施行細則第十八條ノ手續ニ據リ標札ヲ附スヘシ

第一號 離形 標 札

鑑札番號

煙草 製 仲 賣 買 小 賣 買 營業

營業人族籍住所姓名

木札寸法幅八寸(曲尺) 堅二尺九寸

第二號 記帳式
(煙草製造人ノ部)

葉煙草買入帳

煙草製造人

何郡區何町村番地

何

帳簿ノ表面ハ此式ニ依リ其帳簿ノ名稱
營業人ノ資格及住所姓名ヲ記スヘシ
仲買人小賣人亦全シ

買入ノ部

何年何月何日
第 號

一何葉煙草何貫目入何個

此貫目何程

此代金何程

何年何月何日

第 號

一何葉煙草何貫目結何束

此貫目何程

此代金何程

右ノ如ク其都度記帳スヘシ以下皆倣之

計何程

(毎月未計ヲ付スヘシ以下皆倣之)

何府縣郡區町村番地職業何某ヨリ買入

但一貫目ニ付金何程

何々

但全上

此代金何程

通計何程(一ヶ月以上毎月通計ヲ付スヘシ以下皆倣之)

此貫目何程

此代金何程

使用ノ部

何年何月何日

原量何拾貫目(原葉煙草)

一葉煙草何拾貫目(葉取ヲ終リ)

此代金何程

内

原量何貫目

何葉煙草何貫目

此代金何程

原量何貫目

何葉煙草何貫目

此代金何程

量目何百何拾貫目

計何百何拾貫目

此代金何程

刻煙草又ハ卷煙草ニ使用ノ分

何年何月何日第何號何某ヨリ買入ノ分

但壹貫目ニ付金何程

何々

但全上

量目何百何拾貫目
通計何百何拾貫目

此代金何程

煙草製造帳

何年何月何日

一刻煙草紙包何匁入

此代金何程

一同函詰（若クハ函詰紙包）何匁入

此代金何程

一紙卷煙草（紙包）何本入

此代金何程

一葉卷煙草（全シ）何本入

此代金何程

何年何月何日

一何々

此代金何程

何煙草何百何拾個

此代金何程

何拾個

但壹個定價金何程

何拾個

但

何拾個

但

何拾個

但

何煙草何百何拾個

此代金何程

通計

書式計ノ例ニ依ルヘシ

何年何月何日

製造煙草賣渡帳

一何煙草（種類容量等ヲ區別スルハ製造帳ノ例ニ依ルヘシ）

何年何月何日

此賣却代金何程

一何々

何年何月何日

一何々

計

何煙草何百何拾個

此代金何程

何煙草何百何拾個

此代金何程

通計

書式計ノ例ニ依ルヘシ

何拾個

何府縣郡區町村番地（小賣人）

何某（賣渡）

但壹個定價金何程

但壹個定價金何程

但壹個定價金何程

但壹個定價金何程

但壹個定價金何程

但壹個定價金何程

但壹個定價金何程

但壹個定價金何程

但壹個定價金何程

煙草印紙元受帳
煙草印紙元受ノ部

何年何月何日 何郡區町村番地印紙賣捌人
 一何厘印紙 何百何拾枚 何某ヨリ買入
 此代金何程
 一何錢印紙 何拾枚 全上
 此代金何程
 何年何月何日 何々々
 一何錢何厘印紙 何百何拾枚 何々
 此代金何程
 計何千何百何拾枚
 此代金何程
 通計何千何百何拾枚
 此代金何程
 煙草印紙使用ノ部
 何年何月何日 何百何拾枚
 一何厘印紙 何百何拾枚
 此代金何程
 一何錢印紙 何百何拾枚

此代金何程

計何千何百何拾枚
 此代金何程
 通計何千何百何拾枚
 此代金何程
 葉煙草預リ帳
 預ノ部
 何年何月何日
 第 號
 一何葉煙草 何貫目入 何府縣郡區町村番地職業
 此貫目何程 何個 何某ヨリ預ル
 何年何月何日
 第 號
 一何葉煙草 何貫目結 何々々
 此貫目何程 何十束 何某ヨリ預ル
 計何百何十個
 此貫目何程
 通計何千何百何十個
 此貫目何程

拂戻ノ部

何年何月何日 何貫目入 何個 何年何月何日第何號何某ヨリ預
 一何葉煙草 此貫目何程 何ノ分返戻又ハ同人ヨリ買受ル

何年何月何日 何程 何々

一何葉煙草 此貫目何程 討何百何拾個 此貫目何程

通計何千何百何拾個 此貫目何程

(煙草仲買人ノ部)

葉煙草買入帳 記帳式ハ煙草製造人葉煙草買入帳ノ例ニ準スヘシ

葉煙草賣渡帳

何年何月何日 何年何月何日第何號買入ノ分 何府縣郡區町村番地製造人

一何葉煙草何貫目入何個 此貫目何程 何 某 ヲ 賣 渡

但何程ニ付金何程

何年何月何日 何年何月何日第何號買入ノ内 何々 何 某 ヲ 賣 渡

一何葉煙草 此代金何程 計何程 此貫目何程 此代金何程

通計何程 此貫目何程 此代金何程

製造煙草買入帳

何年何月何日 何府縣郡區町村番地製造人

一刻煙草紙包何匁入何個 此買入代金何程 但一個 何 某 ヲ 買 入

一同函詰者クハ(函詰紙包) 何匁入何個 何々 買入價格 何何程

此買入代金何程 但 何 某 ヲ 買 入

一何卷煙草(紙包)(紙包) 何本入何個 何々 何 某 ヲ 買 入

此買入代金何程 何年何月何日 但

一何々

計
 何煙草々何程
 此代金何程
 何煙草々何程
 此代金何程

通計

書式計ノ例ニ依ルヘシ
 製造煙草賣渡帳
 記帳式ハ煙草製造人製造煙草賣渡帳ノ例ニ準スヘシ
 葉煙草預リ帳
 記帳式ハ煙草製造人葉煙草預帳ノ例ニ準スヘシ
 製造煙草預リ帳
 記帳式ハ葉煙草預帳ノ例ニ準スヘシ
 外國煙草買入帳
 記帳式ハ煙草買入帳ノ例ニ準シ記入スヘシ
 外國煙草賣渡帳
 記帳式ハ煙草賣渡帳ノ例ニ準シ記入スヘシ
 (煙草小賣人ノ部)
 製造煙草買入帳

記帳式ハ煙草仲買人製造煙草買入帳ノ例ニ準スヘシ
 製造煙草預リ帳
 記帳式ハ煙草製造人葉煙草預帳ノ例ニ準スヘシ
 外國煙草買入帳

記帳式ハ製造煙草買入帳ノ例ニ準シ記入スヘシ
 ◎煙草稅則取扱方要領

○明治二十一年七月二十五日北海道廳訓令第五十八號郡區役所宛
 煙草稅則改正ニ付其取扱方要領左ノ通心得ヘシ

煙草稅則取扱方要領

- 第一款 桐葉蓮葉山歸來野薔薇其他草木ノ葉ニたばこノ葉ヲ混和シタルモノハ勿論煙草ノ煎汁等ヲ加ヘテ製造シタル一種ノ煙草ハ其風味名稱ノ如何ニ拘ラス總テ本稅則ニ據ルヘキモノトス
- 第二款 外國產製ノ煙草ヲ內國ニ於テ煙草營業者ニ賣渡ス者ハ仲買營業免許鑑札ヲ受ケシメ之ヲ自用者ニ賣渡ス者ハ小賣營業免許鑑札ヲ受ケシムヘシ
- 第三款 煙草製造人ニシテ葉煙草買入場製造場製造煙草賣渡場煙草仲買人小賣人ニシテ煙草買入場賣渡場ト各別ニ願出ルルハ各其箇所毎ニ營業免許鑑札ヲ與フヘシ
 但葉取葉拵又ハ賃卷ヲ爲サシムル職工ノ家宅ニ對シテハ此限ニアラス
- 第四款 煙草問屋及委託販賣者等ノ如キ賣買双方ノ仲間ニ立チテ紹介媒灼ヲ爲シ別ニ定店ヲ有セサルモ口錢手數料等ヲ領收スルモノハ仲買營業免許鑑札ヲ受ケシムヘシ
- 第五款 二人以上組合又ハ會社ヲ設ケ營業ヲ願出ルトキハ其組合ハ組長會社ハ頭取ノ名ヲ以テ免

許鑑札ヲ與フヘシ

第六款 施行細則第二條ノ證約金額ハ其標準ニ基キ猶ホ製造器具ノ精粗營業者ノ狀況等ヲ參酌シ
テ之ヲ定ムヘシ
既ニ證約狀ヲ徵シ免許ヲ與ヘタル後尙ホ金額ノ増減ヲ必要トスル場合ニ於テハ之ヲ増減スル
ヲ得

第七款

一人ニテ製造營業場數箇所ヲ有スルモノハ其箇所毎ニ證約狀ヲ徵スヘシ

第八款

煙草製造人證約ニ相當ノ保證人ヲ得スシテ之ニ代フルニ左ニ掲記スル所ノ證書株券等ヲ
差出シ請願スルモノハ聽許スルモ妨ナシ

一 公債證書

一 國立銀行預リ金證

一 國立銀行又ハ政府ニ於テ利益ヲ保護スル會社ノ株券

第九款

煙草製造營業ヲ許可シタルルハ證約狀記入ノ金額及營業人保證人ノ住所姓名並雇人器械
ノ員數建物ノ坪數ヲ詳悉シ直ニ第四部長ニ報告スヘシ

但金額ノ増減保證人ノ變更アルルハ其時々報告スヘシ

第十款

證約金ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ郡區長ハ意見ヲ具狀シ其徵收金額ハ當廳ヨリ命スルモ
ノトス

第十一款

證約金徵收ノ達ヲ爲シタルヨリ五日以内ニ本人其金額ヲ完納セサルトキハ保證人ニ辨
納ノ旨ヲ達シ尙ホ完納セサル時ハ民事訴訟ノ手續ヲナスヘシ

第十二款

明治二十一年當廳令第四十五號第三條第二項第三項及本令第六款第二項ノ證約狀ヲ更

定シ若クハ改徵スルニ該リ之ニ應セサルトキ又ハ前款民事訴訟ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ營業
ヲ停止シ免許鑑札ヲ引上クヘシ若シ鑑札ノ所在不明ナルトキハ當廳ニ報告スヘシ
但免許鑑札ヲ引上ケタル後更ニ適當ノ證約狀ヲ差出ストモ最前ノ鑑札ヲ下附スルノ限ニアラ
ズ總テ新規營業ヲ以テ取扱フヘキモノトス
第十三款 第八款ノ證約金ヲ期限内ニ上納セサルトキハ其抵當品ヲ公賣シ又預ケ金ヲ引出シ徵收
ノ手續ヲ爲スヘシ
第十四款 營業免許鑑札ハ番號ノ下ニ其營業場所ヲ記入スヘシ
第十五款 稅則第四條ノ仕入出賣免許鑑札ハ左ノ雛形ニ據リ調製下付スヘシ

木製寸法

堅巾曲尺 二寸三分
横巾同 一寸七分

番號	煙草(仕入)鑑札
表	(製造)(仲買)(小賣)人
面	屬籍 氏 名
	携帶人
	屬籍 氏 名
	年齡

裏
明治年月日
管 廳 燒 印
面

第十六款 明治二十一年當廳令第四十五號第二十五條ノ場合ニ於テ鑑札料ハ之ヲ徵收セサルモノトス

○煙草印紙毀損汚染ノ節當分營業人ニテ改装方

○明治二十一年七月二十五日北海道廳訓令第五十九號郡區役所宛
煙草仲買人及小賣人ノ所持スル製造煙草其包裝若クハ包裹ニ貼用シタル印紙ヲ毀損若クハ汚染シタルトキハ當分該營業人ニ於テ改装印紙貼用スルコトヲ得但此場合ニ於テハ稅則第八條第九條及施行細則第十條ノ手續ヲナスヘシ
右營業人ニ示達スヘシ

○煙草營業者證約又ハ保證ノ義務ニ就キ責任條款

○明治二十三年十月二十一日北海道廳訓令號外郡區役所宛
明治二十一年四月大藏省告示第五十八號手續ニヨリ煙草營業者管廳へ證約狀差出ノ後改徵ヲ要ス

ル場合ハ其改徵前ニ係ル證約又ハ保證ノ義務ニ就テモ責任ヲ負フヘキ條款ヲ補足シ設カシムヘシ
賣藥

〔沿革〕沿革前ニ同シ

○賣藥營業人及請賣心得

○明治十七年十月十日札幌縣甲第六十九號布達
賣藥營業人及ヒ賣藥請賣人心得別紙之通相定ム
右布達候事

(別紙)

第一條 賣藥營業人ハ日々ノ製藥高及ヒ賣捌高等藥劑一方毎ニ第一號甲乙離形ニ倣ヒ帳簿ヲ製シ記載シ置クヘシ

第二條 賣藥請賣人ハ其買入高及ヒ場所年月製藥人ノ姓名等藥劑一方毎ニ第二號離形ニ倣ヒ帳簿ヲ製シ記載シ置ヘシ

第三條 賣藥營業人ニ於テ調製セシ賣藥ハ印紙稅則第一條ニヨリ必ス其定價ヲ附記シ該定價ニ從ヒ藥品ノ容器又ハ包紙等ヘ相當印紙ヲ貼用シ印紙而ノ中心ヨリ他所ニ掛ク消印スヘシ
但賣藥類ノ如キ包紙ヲ用非サルモノハ現品ノ裏面ヘ貼用シ本條ノ通消印スヘシ

第四條 印紙ヲ消印スル印章ハ營業人ノ實印或ハ店判等ノ内孰レカ一定ノ印ヲ用フヘシ
第五條 長印紙ヲ角印紙ニ角印紙ヲ長印紙ニ交互代用スルコトヲ得ス
一號離形(甲)

賣藥製造帳

何月製藥	何程	定價	何	錢	第何號賣藥免許	何	何府何國何郡何村何番地	何	某
一何藥									
何月製藥	何程	定價	何	錢					
一何藥									
(藥方ト定價トノ異ナル毎ニ如此記載スヘシ)									
一號離形(乙)									
製藥買捌帳									
請買人									
何府何國何郡何村何番地									
何									
請買免許鑑札何號									
請買約定書何號									
某									
何年何月何日	何程	定價	何	錢					
一何藥									
一何藥	何程	定價	何	錢					
(帳簿中適宜口取ヲナシ請買人異ナル毎ニ分類記載スヘシ)									

二號離形

賣藥仕入帳

何年何月何日	何程	定價	何	錢	製藥人免許鑑札何號	何	何府何國何郡何村何番地	何	某
一何藥									
何年何月何日	何程	定價	何	錢					
一何藥									
(藥方ト製藥人トノ異ナル毎ニ如斯分類記載スヘシ)									
◎賣藥營業者印紙買入并賣捌人取扱方									
◎明治十九年七月九日北海道廳乙第十四號布達									
賣藥營業者ハ郡區役所ニ願出印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲナス毎ニ其鑑札ヲ携帯シ賣捌人ニ示スヘク印紙賣捌人ハ右鑑札ヲ照査シテ其買渡高及買受人ノ氏名住所買渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記スヘシ									
右布達ス									
◎賣藥印紙買入鑑札下付方									
◎明治十九年七月九日北海道廳已第七十三號郡區役所支廳管轄									
本年七月乙第十三號布達賣藥印紙買入鑑札ハ左ノ離形ニ依リ調製下付スヘシ									

右相達ス

木製寸法 縦市二寸三分 横市一寸七分

表 面

番 號
賣藥印紙買入鑑札
住 所
賣藥營業人 姓 名

裏 面

明 治 年 月 日
北 海 道 廳 (燒 印)

◎賣藥營業人印紙買入手續

○明治十九年七月二十二日北海道廳函館支廳甲第六號布達

賣藥營業人賣藥印紙買入ノ手續左ノ通心得ヘシ

第一項 賣藥營業人ハ其郡區役所ニ願出賣藥印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲナス毎ニ鑑札ヲ携帶シ印紙類賣捌人ニ示スヘシ

第二項 賣藥營業人ハ帳簿ヲ製シ印紙買入高其賣捌人ノ住所氏名及ヒ使用高ヲ登記スヘシ

第三項 賣藥印紙買入鑑札ヲ失却若クハ代換改名轉居セシトキハ之ヲ其郡區役所ニ届出鑑札再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第四項 賣藥營業人廢業若クハ禁止セラレタルキハ賣藥印紙買入鑑札ヲ其郡區役所ニ還納スヘシ

右布達ス

○明治十九年七月二十二日北海道廳函館支廳丙第十一號達郡區役所宛

本年七月當廳甲第六號ヲ以テ賣藥營業人賣藥印紙買入ノ手續布達候ニ付テハ右手續第一項第三項ニヨリ鑑札ヲ請フモノニハ別紙雛形ニ據リ調製下付スヘシ

右相達候事

表 面

番 號
賣藥印紙買入鑑札
住 所
氏 名

裏 面

年 月 日
郡 區 役 所 烙 印

縦二寸三分

○明治十九年七月十七日北海道廳根室支廳甲第二十一號布達

賣藥營業者ハ郡役所ニ願出印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲナス毎ニ其鑑札ヲ携帶シ賣捌人ニ示ス

ヘク印紙賣捌人ハ右鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記スヘシ

右布達ス

○明治十九年八月九日北海道廳根室支廳乙第七十一號達郡役所宛

明治十九年七月甲第二十一號布達賣藥印紙買入鑑札ハ租稅課ヘ請求スヘシ

但鑑札面記載方ハ左ノ雛形ニ據ルヘシ

右相違ス

賣藥印紙買入鑑札(木製)雛形

番號	年 月 日
賣藥印紙買入鑑札	管應燒印
賣藥營業人姓名	
住所	
面	裏

◎賣藥營業鑑札請求手續

○明治二十一年十一月二十八日北海道廳令第七十一號

賣藥營業鑑札請求手續左ノ通定ム

但明治十五年五月函館縣甲第十七號布達廢止ス

賣藥營業鑑札請求手續

第一條 賣藥ヲ營業セントスルモノハ方名配伍藥品量目用量主治功能等ヲ列記シ本廳へ願出請賣行商チナサントスルモノハ郡區役所へ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

但請賣者ハ營業者トノ約定書ヲ添フ可シ

第二條 賣藥營業及ヒ請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限ルモノニ付別戶支店等ニ於テハ別ニ其居住人ニ於テ鑑札ヲ受クヘシ

第三條 賣藥營業者請賣及行商者ヲ定メタルトキハ其都度族籍氏名ヲ郡區役所ニ届出ヘシ

第四條 賣藥營業者及請賣者族籍住所氏名ヲ轉換シタルトキハ免許鑑札ノ書換ヲ請フヘシ但シ住所ノミニ轉換ハ鑑札ニ裏書シテ下付スルコトアルヘシ

第五條 賣藥營業者及請賣者ノ看板ハ左ノ通タルヘシ

堅 三 尺

堅 三 尺

免 許

賣 藥 營 業

免 許

賣 藥 請 賣 營 業

◎格魯兒酸加溜謨賣買授受届出方

○明治二十二年十一月十九日北海道廳令第六十四號

何人タリモ格魯兒酸加溜謨(格魯兒酸加溜謨)又ハ鹽酸加里(鹽酸加里)ヲ賣買授受スルトキハ豫メ其斤量及ヒ需
要ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ管轄警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ但警察官ハ臨時其
現品ヲ検査スルコトアルヘシ

前項ノ手續ニ違反シ賣買授受ヲ爲シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ三日以上十
日以下ノ拘留ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

(書式)

格魯兒酸加溜謨

斤量

右ハ(醫業)(工業用等何々)必要ニ付前書ノ斤量(買買)(授受)致度御認可被成下度候也

本籍何府何市何郡何町何番地族籍

現住所全上

(買主)(受主)

氏

年

齡

名

(實印)

何府何市何郡何町何番地族籍

(賣主)(授主)

氏

年

齡

名

(實印)

警察署長宛

○明治二十二年十一月三十日北海道廳訓令第五十三號警察署宛

明治二十二年十一月十一日北海道廳令第六十四號ニ依リ藥舖藥種商ヨリ陸海軍其他官設工場病院等へ格魯兒酸加溜謨(鹽素酸加溜謨)ノ買納ニ係ル届書ハ其購求證アルモノニ限リ買主ノ連署ナキモ妨ナシ

印紙

〔沿革〕開拓使及元三縣印紙類ニ關スル令達多シ大抵一時ノ施行ニ止ル沿革目錄ニ詳ニス

○身代限ノ節諸印紙所持ノモノ買上方

○明治十七年十一月十一日札幌縣乙第二百六十二號達郡區役所宛

民事訴訟身代限リ又ハ税金不納ニヨリ財產ノ全部ヲ公賣スル際諸印紙手形用紙ヲ所持スルモノ及ヒ煙草賣藥營業者廢業又ハ其營業稅不納公賣處分ノ際該印紙ヲ所持スルモノハ損傷汚染ノ分ヲ除キ手形用紙及印紙面價額十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ之ヲ買上ルコトヲ得但買上タル印紙類ハ其役所元受ニ組入レ買上代金ハ別途請求スヘシ

右相達候事

○明治十九年五月八日北海道廳根室支廳乙第二十九號達郡役所

民事訴訟身代限リ又ハ税金不納ニヨリ財產ノ全部ヲ公賣スル際諸印紙手形用紙ヲ所持スルモノ及ヒ煙草賣藥營業者廢業又ハ其營業稅不納公賣處分ノ際該印紙ヲ所持スルモノハ損傷汚染ノ分ヲ除キ手形用紙及ヒ印紙面價額十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ之ヲ買上ルコトヲ得但買上タル印紙類ハ郡役所ノ元受ニ組入レ買上代金ハ別途支廳長ヘ請求スヘシ

右相達ス

○明治十九年十月四日北海道廳函館支廳丙第十四號達郡區役所宛

民事訴訟身代限リ又ハ税金不納ニ依リ財產ノ全部ヲ公賣スル際諸印紙手形用紙ヲ所持スルモノ及煙草賣藥營業者ノ廢業又ハ營業稅不納公賣處分ノ際該印紙ヲ所持スルモノハ損傷汚染ノ分ヲ除キ手形用紙及其印紙面價額十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ之ヲ買上ルコトヲ得

但買上タル印紙類ハ郡區役所元受ニ組入買上代金ハ本年九月當廳丙第十二號達ニ照準下付方請
求スヘシ

右相達ス

◎返納印紙買戻代金下付請求方

○明治十九年九月十一日北海道廳己第八十七號達郡區役所支廳管轄宛

印紙類賣捌人ヨリ返納スル所ノ印紙類代金下付方ノ義ハ本年大藏省令第二十一號印紙類賣下買捌
規則ノ改正實施前後ヲ以テ區分シ右下付金ノ出所ヲ殊ニスルモノニ付該代金下付ノ請求方左ノ通
心得ヘシ

右相達ス

一 本年六月二十日以前ノ返納ニ係ルモノハ歲入取扱順序第五十條ニ據リテ歲入下戻計算書ヲ以
テ其代金ノ下戻方ヲ請フコト從前ノ通タルヘシ

一 本年七月一日以後ノ返納ニ係ルモノハ大藏省訓令第二十二號第十四項ニ據リテ買戻スヘキ
モノナルヲ以テ左ノ書式ニ倣ヒ買戻仕譯書ヲ副ヘ其代金下付方ヲ稟申スヘシ

返納印紙買戻代金下付稟申書式 (用紙普通美濃十三行野紙)

一金何程

右ハ常郡内印紙類賣捌人事故ニ由リテ返納セル印紙類該規則第十七條ニ據リ割引ヲ以テ買戻シ
候分御下付相成度依之別紙仕譯書相添ヘ此段上申候也

年月日

長官宛

區長 氏

名印

(賣捌人死亡等ニテ代金受取人ヲ異ニスルモ
ノハ受取人ノ國郡町村氏名ヲ詳記スヘシ)

返納印紙買戻代金仕譯書

(用紙普通美濃
十三行野紙)

十九年何月何日賣捌人何國何郡何町
村何某廢業ニ付返納

一 煙草何夕用何厘印紙何枚

此額面金何圓

此買戻代金何圓

一 煙草角形何厘印紙何枚

此額面金何圓

此買戻代金何圓

一 證券何錢印紙何枚

此額面金何圓

此買戻代金何圓

小計額面金何圓

此買戻代金何圓

一 約束手形何錢用紙何枚

此額面金何圓

此買戻代金何圓

一 爲換手形何錢用紙何枚

此額面金何圓

此買戻代金何圓

十九年何月何日賣捌人何國何郡何町村
何某賣捌方滿期ニ付返納

全 上

小計額面金何圓
 此買戻代金何圓
 一訴訟用何錢印紙何枚
 此額面金何圓
 此買戻代金何圓
 一賣藥角形何厘印紙何枚
 此額面金何圓
 此買戻代金何圓
 一賣藥長形何厘印紙何枚
 此額面金何圓
 此買戻代金何圓
 小計額面金何圓
 此買戻代金何圓
 合計
 一煙草何匁用何厘印紙何枚
 此額面金何圓
 此買戻代金何圓
 一煙草角形何厘印紙何枚
 此額面金何圓

十九年何月何日賣捌人何國何郡何町村
何某賣捌方禁止ニ付返納

全上

全上

此買戻代金何圓
 計煙草印紙何枚
 此額面金何圓
 此買戻代金何圓
 一證券印紙何枚
 此額面金何圓
 此買戻代金何圓
 計證券印紙何枚
 此額面金何圓
 此買戻代金何圓
 一約束手形何錢用紙何枚
 此額面金何圓
 此買戻代金何圓
 一爲換手形何錢用紙何枚
 此額面金何圓
 此買戻代金何圓
 計手形用紙何枚
 此額面金何圓
 此買戻代金何圓

- 一 訴訟用何錢印紙何枚
此額面金何圓
- 此買戻代金何圓
- 計訴訟用印紙何枚
此額面金何圓
- 此買戻代金何圓
- 一 賣藥角形何錢印紙何枚
此額面金何圓
- 此買戻代金何圓
- 一 賣藥長形何錢印紙何枚
此額面金何圓
- 此買戻代金何圓
- 計賣藥印紙何枚
此額面金何圓
- 此買戻代金何圓
- 通計諸印紙何枚
此額面金何圓
- 此買戻代金何圓

○明治十九年九月二十日北海道廳函館支廳丙第十二號達郡區役所宛

印紙賣捌人ヨリ返納ニ係ル諸印紙代金下付方ノ義ハ本年六月大藏省令第二十一號印紙賣下賣捌規則實施前後ヲ以テ區界ヲ立テ下付金出所ヲ殊ニスルモノニ付該代金請求方ハ左ノ通心得ヘシ

- 右相達ス
- 一 本年六月三十日以前返納ニ係ルモノハ其代金請求方ハ從前ノ通り心得ヘシ
- 一 本年七月一日以後ノ返納ハ當廳丙第十號達第十四項ニヨリ之ヲ買戻スヘキモノナルヲ以テ左ノ書式ニ準シ該仕譯書ヲ副ヘ代金下附方稟申スヘシ
(書式北海道廳已第八十七號達ニ全シ略ス)

○明治十九年九月二十二日北海道廳根室支廳乙第七十七號達郡役所宛

印紙類賣捌人ヨリ返納スル所ノ印紙類代金下付方ノ儀ハ大藏省令第二十一號印紙類賣下賣捌規則ノ改正實施前後ヲ以テ區界ヲ立テ右下付金ノ出所ヲ殊ニスルモノニ付該代金下付ノ請求方左ノ通心得ヘシ

- 右相達ス
- 一 本年六月三十日以前ノ返納ニ係ルモノハ歲入取扱順序第五十條ニ據リテ歲入下戻計算書ヲ以テ其代金ノ下戻方ヲ請フコト從前ノ通りタルヘシ
- 一 本年七月一日以後ノ返納ニ係ルモノハ當廳乙第六十二號達第十六項ニ據リ之ヲ買戻スヘキモノナルヲ以テ左ノ書式ニ照準買戻仕譯書ヲ副ヘ其代金下付方ヲ稟申スヘシ
(書式北海道廳已第八十七號達ニ全シ略ス)

第十三項 規則第十七條ニ據リ返納セシ印紙(代金延納ニ係ルモノヲ除ク)ハ其種類(長角又ハ短角印紙ハ何モノヲ除ク)枚數及代金等明細仕譯書ヲ添付シ其時々代金下付方ヲ稟議スヘシ
但本文印紙返納ノ年度ト之レカ代金納入ノ年度ヲ異ニスルモノアルキハ代金納入年度ノ區分ヲ立テ之ヲ稟申スヘシ

第十四項 郡區長ハ毎月賣捌人ヨリ賣捌タル印紙ノ種類(煙草證券賣捌印紙ノ如シ)金額及殘高ノ計算書ヲ差出サシムヘシ

第十五項 損傷又ハ汚染印紙ノ交換ヲ差許シタルトキハ規則第十六條ニ據リ郡區役所現在印紙ヲ以テ交換シタル印紙ハ受拂計算表拂ノ部損傷毀損欄内ヘ記載シ該印紙ハ每半年分取纏メ第四部ヘ送附スヘシ

第十六項 規則第十一條ニ據リ割引ヲナス時ハ厘位未滿ノ端數ヲ生セサル様賣下ヲナスヘシ

第十七項 當廳ニ於テハ隨時主任官ヲ派遣シ受拂ノ實況及現在高ヲ精査スルコトアルヘシ

第十八項 賣捌人ニ於テ規則ニ違背シタル者アルキハ手續書ヲ徵シ尙其情狀ヲ具申スヘシ
(雛形略ス)

◎證券印稅臨時檢査
○明治二十二年五月二十九日北海道廳訓令第二十八號郡區役所宛
證券印稅ハ其地ノ情況ニ依リ定期檢査ヲ爲サス臨時檢査ニ止ムルモ妨ナシ

○印紙類受拂報告書及諸鑑札受拂報告書
○明治二十三年三月二十七日北海道廳訓令第九號郡區役所宛
明治二十二年ハ大藏省訓令第五十八號印紙類出納規程第十八條ニ依リ調製スル諸印紙類受拂報告

書及諸鑑札受拂報告書ハ年度後五日以内印紙類出納計算書ハ年度後二ヶ月以内其地ヲ發シ當廳ヘ差出スヘシ(二十三年北海道廳訓令號外ヲ以テ本條ノ通改正)

◎印紙類檢査現品照合
○明治二十三年三月二十九日北海道廳訓令第十五號郡區役所宛
明治二十二年ハ大藏省訓令第六十八號印紙類出納證明程式第四條ニヨリ物品出納證明程式第六條二項下檢査ニ係ル現品ノ照合ハ郡區役所ニ於ケルモノハ郡區長之ヲ執行シ保證書ヲ製シ計算書ト共ニ差出スヘシ

○明治二十三年八月二十六日北海道廳訓令號外(札幌區役所宛 札幌外四郡役所宛)
本年三當廳訓令第十五號印紙類下檢査ニ係ル現品ノ照合ハ當廳ニ於テ之ヲ執行ス
土石堀採

◎豊平川筋砂利堀採
○明治二十年五月四日北海道廳告示第七十四號
豊平川筋ニ於テ砂利ヲ堀採セント欲スルモノハ札幌區役所ニ申出指揮ヲ受クヘシ
但明治十八年三札幌縣丁第三十八號告示ハ廢止ス

◎土石拂下手續
○明治二十二年一月十五日北海道廳告示第三號
土石拂下手續左ノ通定ム
土石拂下手續

第一條 官有森林山野及其他ノ官有地ニ於テ土石ノ拂下ヲ願出ルトキ森林山野ニ在リテハ第二部
 林務課員派出所へ其他ノ官有地ニ在リテハ郡區役所へ願出^{書式第一}許可ヲ受ク可シ

第二條 土石拂下ノ許可ヲ受ケタルトキハ速ニ代金ヲ皆納シ其引渡ヲ受ク可シ

第三條 拂下ヲ受ケタル土石ノ採取及搬出期限ハ一ケ年以内トス其都度許可ヲ受ク可シ但期滿ノ
 節ハ現場ノ檢査ヲ請フ可キモノトス

第四條 前條ノ期限内ニ於テ採取又ハ搬出セサルモノハ之ヲ官收ス但正當ノ事故ニ因リテ期限内
 ニ採取又ハ搬出シ得サルモノニ限り特ニ延期ヲ與フルコトアル可シ

第五條 土石ノ拂下ヲ願出ツル前ニ於テ試堀ヲ望ムトキハ一ケ年以内ノ期限ヲ以テ願出^{書式第二}許
 可ヲ受ク可シ

第六條 凡ソ石ハ一尺立方ヲ以テ一切トシ切以下ハ分厘ヲ以テ之ヲ算出シ土砂ハ六尺立方ヲ以テ
 一坪トシ坪以下ハ合夕ヲ以テ之ヲ算出スルモノトス

第七條 此手續ハ日本坑法第一章第三款所屬ノ土石類ニ限り施行ス

第一號書式

何石御拂下願
 何國何郡何村字何別紙圖面ノ箇所ニ於テ
 一何
 此代金何程 但一切ニ付金何程
 此採取區域 縦何間横何間厚又ハ高サ何間
 採取又ハ搬出期限 明治何年何月何日限
 何 程

右土石拂下手續ヲ遵守シ保證人連署ヲ以テ御拂下奉願候尤モ御聞届相成候上ハ代金速ニ皆納可
 仕候也

(一ヶ所ニ於テ土石ヲ合セ拂下ヲ願出
 シトスルトキハ別項ニ記載スヘシ)

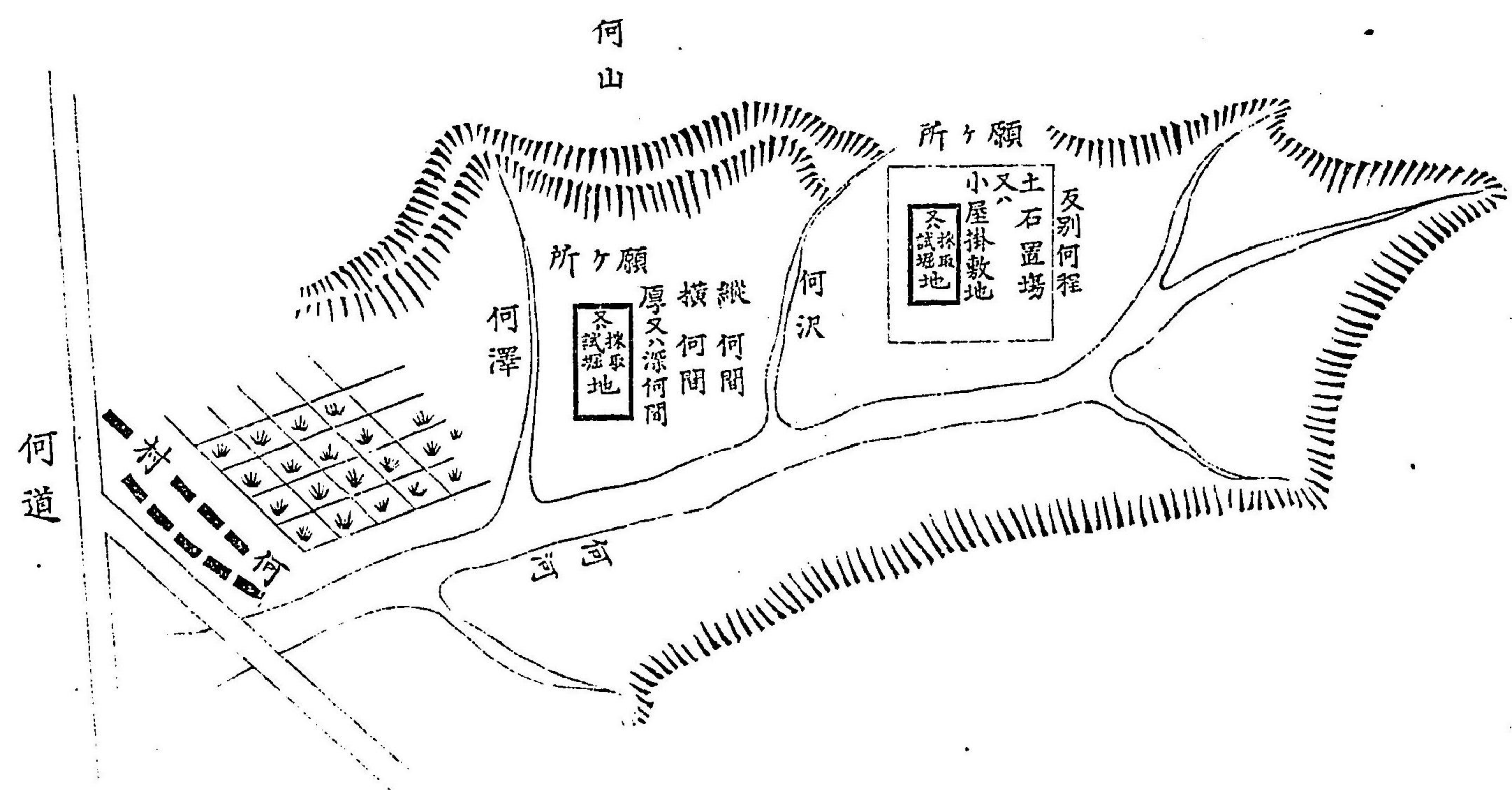
何國何郡何村何番地
 (寄留人ハ原籍及寄留
 地共ニ肩書スヘシ)
 華士族平民

年月日 願人 氏 名 印
 全 全

保證人 氏 名 印

林務課員派出所又ハ郡區長宛
 (郡區長へ差出スヘキ願書ニハ戶長ノ與書ヲ要ス)

第二號書式 何石試堀願
 何國何郡何村字何別紙圖面ノ箇所ニ於テ
 一何石試堀場
 此試堀期限 明治何年何月何日限
 右土石拂下手續第五條ヲ遵守シ試堀仕度候間御聞届被成下度保證人連署ヲ以テ此段奉願候也
 (以下第一號書式ト同文)



何澤口又ハ何所ヨリ願箇所マテ何里程

○明治二十二年三月十二日北海道廳告示第十九號

本年一當廳告示第三號土石拂下手續第五條ニ依リ試掘ノ許可ヲ得テ掘採シタル土石ヲ使用セント
スルモノハ其數量ヲ届出拂下ヲ受クヘシ
但試掘ノ目的外ナル有價品ヲ發見シタル時ハ速ニ届出ツヘシ

銀行、會社

○農工商漁等ノ會社又ハ類似ノ營業ヲナス者出願方

○明治十七年二月八日根室縣乙第十號達^{郡役所宛}

管内ニ於テ人民農工商漁等ノ事業ヲ經營ノタメ各自ノ財産ヲ提出シテ一ノ盟約ヲ定メ會社又ハ右
ニ類似ノ營業ヲナス者ハ將來ノ目的方法役員姓名等詳細明記シ當廳ヘ出願認可ヲ受クヘキ義ニ有
之候處往々其手續ヲ經スシテ營業ヲナスモノ有之哉ノ趣且ツ某地ニ於テ許可濟ノ會社ニシテ支社
ヲ當管内ニ設置候節ハ本社許可ノ證ヲ以テ當廳ヘ可願出答ニ候條目今會社又ハ右ニ類似ノ營業ニ
シテ未ダ許可ヲ經サル者ハ更ニ願出サスヘシ此旨相達候事
但本文既ニ許可濟ノ者ト雖モ此際其許可ノ寫相添更ニ當廳ヘ届出サスヘシ

組合

〔沿革〕明治十七年四月根室縣乙第五十一號達茶業組合準則ヲ頒チ同年乙第九十一號

ヲ以テ當分施行セサル旨ヲ達ス○同年五月函館縣甲第十五號布達漁業組合條

例ヲ定ム○同年八月根室縣甲第五十三號布達鮭漁業組合規則ヲ定ム○同年十

二月札幌縣甲第八十一號布達同業組合準則ヲ定ム○十八年一月函館縣甲第一

號布達商業組合例則ヲ定ム○同年三月根室縣甲第八號布達同業組合準則ヲ定ム○十九年十一月北海道廳甲第十三號布達ヲ定ム○二十一年同上令第四十三號同業組合例則ヲ定ム從前ノ規則ヲ廢ス

◎漁業組合例則

○明治十九年十一月二十四日北海道廳甲第十三號布達
漁業組合準則左ノ通定メラル

但同業組合準則漁業組合例則昆布營業取締規則ニ基キ既ニ組合ヲ設ケ規約認可ヲ得タル分ハ向後規約改正ノ際ニ至リ此準則ニ基キ更ニ組合組織スヘシ

漁業組合準則

第一條 漁業水産動物採捕ヲ併稱スニ従事スルモノハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設ケ規約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

但漁者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セサル地ハ管轄廳ノ見込ヲ以テ組合ヲ要セサルコトアルヘシ

第二條 組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ目途トスヘシ

第三條 組合ハ左ノ二類トス

第一類 捕魚採藻遼海漁業若クハ大地引蟹網捕鯨鰵漁昆布採收ノ類各其種類ニ從ヒ特ニ組合ヲナスモノ

第二類 河海湖沼沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲナスモノ

第四條 前條第二類ノ漁業ニシテ漁場ノ相連帶スルモノハ必ス一組合トナスヘシ

第五條 組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
 - 二 組合ノ目的
 - 三 役員選舉法及權限
 - 四 會議ニ關スル規程
 - 五 加入者及退去者ニ關スル規程
 - 六 違約者處分ノ方法
 - 七 費用ノ徵收及賦課法
 - 八 捕魚採藻ノ季節ヲ定ムル事
 - 九 漁具漁法及採藻ノ制限ヲ立ル事
 - 十 漁場區域ニ關スル事
 - 十一 前各項ノ外組合ニ於テ必用トナス事項
- 第六條 組合ハ規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ
- 第七條 組合ハ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り若クハ之ヲ更正セントスルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ
- 第八條 二府縣以上ニ渉ル組合及聯合會ノ規約ハ交渉管轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ
- 但規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキモ亦本條ニ準スヘシ
- 第九條 二府縣以上ニ渉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設ケ其他ハ每府縣事務所支部ヲ置クヘシ
- 但支部ハ組合ノ事情ニ依リ其必要ナラサル場合ニ於テハ之ヲ置カサルヲ得

◎同業組合例則

○明治二十一年七月十日北海道廳令第四十三號
同業組合例則左ノ通り定ム

但明治十八年一函館縣甲第一號布達全十七年^{十二}札幌縣甲第八十一號全十八年中第四十五號布達全十八年^三根室縣甲第八號布達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

同業組合例則

第一條 當廳管内ニ於テ重要物産ニ關スル營業ヲ爲スモノ及ヒ之レカ營業上ノ利害ヲ共ニスルモノ組合ヲ結ハントスルハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ申合規約ヲ作り當廳ノ認可ヲ請フヘシ

第二條 組合組織ハ成ルヘク同業者ヨリ成立セシムヘシト雖モ地方ノ情況及便宜ニ因リ特ニ關係ヲ有スル營業者ニ限リ合併組合ヲ設クルコトヲ得

第三條 同業申合規約ハ左ノ數項ヲ掲クヘシ

第一項 業名及組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員選舉法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 營業取引ニ關スル規程

第七項 加入退去ニ關スル規程

第八項 費用徵收及賦課法

第九項 違約者處分

右ノ外組合ニ於テ必要ト認ムル事項

第四條 組合ハ各自營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的トスヘシ

第五條 組合ノ設ケアル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ムモノハ必ス其組合ニ加盟スヘシ
但加盟シ難キ事實アルカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルハ其旨當廳ヘ申出テ認定ヲ請フヘシ

第六條 同業組合員ハ組合ノ資格ヲ以テ營利ノ事業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 同業組合ハ其事務及收支決算表ヲ毎年郡區役所ヲ經テ當廳ヘ報告スヘシ

第八條 同業組合ハ業跡又ハ事務上一切ニ付組合ノ資格ヲ以テ管轄廳ノ諮問ニ對シ答辨スルノ責メアルモノトス

第九條 規約ノ改正ハ其改正案ヲ作り又組合ノ分立合併ハ更ラニ規約ヲ作り當廳ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 同業組合ニ於テ各地區内聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作りタルハ當廳ヘ申出テ認可ヲ請フヘシ

附 則

函館札幌根室三縣布達同業組合準則及商業組合例則ニ依リ已ニ組合ヲ結ヒ營業セルモノハ更ニ其規約ノ認可ヲ請フニ及ハス今後規約ノ改正等ヲ爲サントスルハ本則ニ依リ當廳ノ認可ヲ請フヘシ

牛馬賣買

牛馬賣買

牛馬賣買

牛馬賣買

牛馬賣買

◎牛馬賣買規則

○明治十一年十二月十七日開拓使乙第二十九號布達
牛馬賣買規則別紙ノ通相定メ明治十二年一月ヨリ施行候條此旨布達候事

(別紙)

牛馬賣買規則

- 第一條 牛馬賣買營業ノ者牛馬鼻綱ニ付免許鑑札壹枚宛申受ヘシ
但壹鼻綱ハ牛馬共七匹ニ限リ鑑札壹枚所持ノ者旅行ノ時ハ七匹以內貳枚所持ノ者ハ拾四匹以內トス其餘之ニ準スヘシ
- 第二條 免許鑑札ヲ新ニ申受ル者六月以前ハ全年分七月以降ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以降ハ全年分六月以前ハ半年分納稅スヘシ
- 第三條 免許鑑札壹枚ニ付一ヶ年税金壹圓宛上納スヘシ
但税金ハ每年兩度ニ半額宛前半年分ハ一月三十一日限り後半年分ハ七月三十一日限り納付シ新ニ申受クル者ハ其都度半額即納スヘシ
- 第四條 免許鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ毀損候節ハ其旨管廳ヘ届出新規鑑札申受ヘシ
但鑑札壹枚ニ付手数料金貳拾錢上納スヘシ
- 第五條 免許鑑札ヲ所持セスシテ密ニ賣買スル者ハ其牛馬ヲ官沒シ及ヒ鑑札稅拾倍ノ科料ヲ徵收スヘシ
- 第六條 免許鑑札ヲ借受ケ賣買スル者ハ第五條ニ同シ其貸渡ス者ハ鑑札稅五倍ノ科料ヲ徵收スヘシ

第七條 第五條第六條ノ犯者ヲ見認メ訴出ル者ハ本犯科料ノ半額ヲ與フヘシ
物產展覽

◎海陸產物見本品陳列場規則

○明治二十一年九月二十一日北海道廳告示第六十八號

北海道海陸產物見本品陳列場規則左ノ通り相定ム但シ開場日限ハ追テ告示ス

北海道海陸產物見本品陳列場規則

第一章 總則

- 第一條 本場ハ天產人工ヲ問ハス當道產出スル所ノ物品及各般事業ノ參考トナルヘキモノヲ廣ク蒐集出陳シ洽シ公衆ノ縱覽ニ供シ各業ノ進歩ヲ謀ルヲ以テ要旨トス
- 第二條 本場ハ石狩國札幌區字中嶋遊園地内ニ設置シ第二部ノ管理ニ屬ス
- 第三條 本場ノ陳列品ハ現品若クハ模型彫形圖面其他說明書等ヲ以テ之ヲ示スヘシ
- 第四條 本場ノ列品ハ通常寄託ノ二種ニ區別ス通常列品ハ本場ニ於テ蒐集或ハ購入セルモノト行志者ノ寄付セルモノトヲ以テ之ニ充テ寄託品ハ當業者ノ出願ニヨリ出品セシムルモノトス
- 第五條 有志者ノ寄付ニ係ル運搬費ハ本場之ヲ支辨スルコトアルヘシト雖モ當業者ノ臨時寄託ニ係ル運搬費等ハ本人ノ自辨タルヘシ
- 第二章 寄託出品規定
- 第六條 物品ヲ寄託出品セント欲スル者ハ左ノ書式ニ據リ第二部ヘ申出指揮ヲ受ケ現品ヲ遞送スヘシ
但特ニ出品物ニ說明書ヲ添付セントスルモノハ之ヲ現品ト共ニ差出スヘシ

出品人職業住所姓名

- 一品名
 - 一數量
 - 一價格
 - 一產地又ハ製造地
 - 一説明(例ヘハ一季又ハ一ヶ年收穫及製造額等)
發製造採收流獲等其方法ヲ詳記スヘシ
- 右出品仕度候也

年月日

右

何

某印

北海道廳第二部宛

- 第七條 出品收納ノ上ハ領收證書ヲ交付ス若シ其運搬中損傷等アルモ其旨ヲ記載交付スヘシ
- 第八條 寄託品ノ下戻ヲ請求セントスルモノハ其旨第二部ヘ申出ヘシ
但現品ノ下戻ハ毎月曜日ニ限ル
- 第九條 前條ノ場合ニハ本場ヨリ物品出場ノ證ヲ渡スヘシ其讀ナキモノハ搬出ヲ許サス
- 第十條 寄託品ハ本場ニ於テ相當ノ保護ヲナスト雖モ盜難火水風震其他ノ事故ニ因リ被損紛失スルモ本場其責ニ任セサルヘシ
- 第十一條 左ニ掲クルモノハ出品スルヲ許サス
 - 一 發火及破裂ノ性アルモノ
 - 一 他ノ出品ニ損害ヲ與アルノ虞アルモノ

- 一 衛生ニ害アルモノ其他汚穢醜態ノモノ
- 一 重複品又ハ本場ニ於テ不用ト認ムルモノ

第三章 縦覽規程

- 第十二條 本場ハ毎年四月十五日ヨリ十一月十五日迄縦覽ヲ許ス
但毎金曜日ハ開場セズ
- 第十三條 縦覽時間 自四月十五日午前九時ヨリ午後四時マテ 自六月一日午前八時ヨリ午後五時マテ
自九月一日午前九時ヨリ午後四時マテトス
至十一月十五日
- 第十四條 縦覽入ハ入場ノ際門衛ヨリ入場券ヲ受取出場ノキ之ヲ返付スヘシ
- 第十五條 瘋癲或ハ白痴酩酊者ト認ムルモ入場ヲ禁シ又ハ退場セシムヘシ
- 第十六條 縦覽入ハ渾ヲ掛員ノ指揮ニ從フヘシ
- 第十七條 縦覽入ハ掛員ノ承諾ヲ經スシテ擅ニ物品ニ觸ル、ヲ許サス若シ誤テ物品ヲ毀損破損セシムルトキハ其損害ヲ辨償セシムヘシ
- 第十八條 館内ニ於テ喫煙ヲ禁ス
- 第十九條 館内ニ犬ヲ牽入ル、ヲ許サス

農商務通信

◎農商務通信規則

○明治十七年二月十九日札幌縣乙第四十號達(郡區役所宛)
農商務通信規則別紙ノ通農商務省ヨリ達有之候條此旨相達候事
(別紙ハ十六年農商務省第二十一號府縣達ナリ略ス)

○明治十七年六月十九日札幌縣乙第七十四號達郡區役所宛
 本年乙第四十號ヲ以テ相達候農商務通信規則ニ據リ通信員ヨリ直接ニ主務局ヘ報告ヲ要スヘキ
 モノハ當分ノ内左ノ事項ニ限ルヘキ旨農商務省ヨリ達有之候條此旨相達候事

- 一 蟲害蔓延ノ勢アルトキ
- 一 牛馬傳染病劇烈ノ徵候アルトキ

○明治二十二年五月十八日北海道應訓令第二十四號郡區役所宛
 明治二十年四月當應訓令第十六號同二十一年五月當應訓令第四十六號農商務通信規則別冊ノ通改正ス
 但別冊ハ別ニ頒ツ

(別冊略ス)

蹄鐵工

○蹄鐵工假免許手續細則

○明治二十三年十一月十一日北海道應令第六十六號

蹄鐵工假免許手續細則左ノ通相定ム

蹄鐵工假免許手續細則

蹄鐵工假免狀ヲ得ントスルモノハ左ノ書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ郡區役所ヲ經テ本廳ヘ差出スヘシ

書式(用紙美濃紙一通)

蹄鐵工假免許下付願

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族 籍

氏

名

生 年 月

私儀何郡何村何番地ニ於テ蹄鐵工開業仕度候間蹄鐵工假免狀御下付被成下皮別紙履歷書相添ヘ
 此段奉願候也

年 月 日

右

氏

名 印

戶長

氏

名 印

農商務大臣宛

○明治二十三年十一月十一日北海道應訓令第七十六號郡區役所宛
 蹄鐵工假免狀下付願ヲ受タル郡區役所ハ年限、營業地區域、廣袤地勢及馬匹頭數ヲ取調ヘ本人ノ願
 書ト共ニ當廳ヘ差出スヘシ

第十四類

雇傭

〔沿革〕開拓使ノ時漁業雇人及外國人ニ傭使セラル、者等ノ爲メ届出方履々令達アリ
明治十二年一月同使函館支應第八號布達雇人請宿規則ヲ定ム○十四年一月同
廳第六號布達雇人請宿規則ヲ改正ス○同年四月同上根室支應甲第二十三號布
達同上規則ヲ定ム

◎雇人請宿規則

○明治十四年一月三十一日開拓使函館支應第七號布達
明治十二年一月當廳第八號布達雇人請宿規則左之通改定候條從前營業ノ者モ該規則ニ據リ更ニ出願
可致此旨布達候事

雇人請宿規則

第一條 雇人請宿營業セント欲スル者ハ組合取締及戸長ノ加印ヲ以テ
〔結社營業ノモノハ社則等ヲ添ヘ戸
長及ヒ郡區長ノ印ヲ受ケ函館支
應〕郡區役所ヘ願出鑑札ヲ受ケ手数料トシテ金貳拾錢相納ムヘシ
但廢業ノ節ハ函館支應又ハ郡區役所ヘ鑑札返納スヘシ

第二條 請宿營業者ハ左ノ罐形ノ看板ヲ店頭ニ掲シヘシ

鑑札番號
□雇人請宿
又ハ何ノ
誰社
豎三尺
幅七寸

第三條 請宿ハ被雇人一切ノ保證ヲナス者ナレハ結社請宿營業ノ者ハ株金ノ外ニ七百圓相當ノ不動產(土地家屋等ノ運搬ス)ヲ備置獨立營業者ハ現地在住ノ者ニシテ函館ハ金三百圓以上福山江差ハ金貳百圓以上其他ハ金百圓以上ノ不動產ヲ有シタル者ニ限ルヘシ

但不動産ヲ所持セサル者ハ公債證書又ハ銀行等ノ株券ヲ以テ不動産ニ換フルヲ得ヘシ

第四條 鑑札ヲ受ケス又ハ獨立營業者ハ組合ニ入ラスシテ營業スルヲ許サス

第五條 結社營業ノ者ハ株主等ノ増減ヲ其時々届ケ出ヘシ

第六條 當管内各地ヘ分社ヲ設クルハ本社設立願濟ノ證ヲ添ヘ其地ノ郡區役所ヘ(他管下ニ於テ本手帳ヲナスヘシ)願出許可ヲ受クヘシ

第七條 營業免許鑑札ヲ失却毀損スルカ又ハ代替改姓名轉居セシキハ其旨申出再渡又ハ書換ヲ請ヘシ

但手數料トシテ金貳拾錢相納ムヘシ

第八條 函館福山江差市街ハ獨立營業ヲナス者ノ爲メ適宜組合ヲ設ケ各取締一名副取締二名乃至四名(各村ハ此限ニテ)ヲ置キ組内取締ヲ爲スヘシ

第九條 雇主被雇人ハ結約ノ際左ノ諸項ハ特ニ注意スヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ請宿ノ者立會約條證書ニ記名調印シテ其確實ヲ表スヘシ

一 雇期限及給金高

一 給金授受ノ期日

一 被雇人疾病死亡或ハ逃亡セシキノ始末

一 臨時解雇ノ節處置

一 其他緊要ト認ル條項

第十條 被雇人ヲラント欲スル者若犯罪其他不審ノ所業アルヲ認ルハ警察官吏ヘ密告スヘシ

第十一條 雇主被雇人ノ本籍姓名年齢ヲ帳簿ニ記載シ置キ警察上取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 請宿世話料ハ最初被雇人一期給金高ノ一割ヨリ多カラサル金額ヲ雇主被雇人双方ヨリ全額ノ半數宛申受クヘシ

第十三條 定メタル世話料ノ外種々ノ名儀ヲ以テ雇主被雇人ヨリ金錢ヲ食リ又ハ被雇人ノ臍胎ヲ押隠シテ口入シ或ハ雇人口入等ニ事寄セ止宿セシムル等ノ所業ヲ爲スヘカラス

第十四條 被雇人給料ノ幾分ヲ前借ノ上逃亡シ雇主ヘ損失ヲ負ハシムルハ其前借金ハ請宿ノ者其報知ヲ得タルヨリ十五日以内ニ必ラス辨償スヘシ

但遠隔ノ地ニシテ期日内ニ辨償ノ途ナキハ何時ニテモ辨償方差支ナキ株金員備ヘ置クヘシ

將タ廢業シタル後ト雖モ豫メ口入シタル約條期限内ハ本條ノ通りタルヘシ

第十五條 請宿ハ被雇人受取ル所ノ前金(逃亡シ)償ハシムル爲メ他ノ被雇人ヲシテ共受ヲ爲サシムヘカラス

第十六條 組合規則ヲ私ニ取設ク又ハ無謂出錢ヲ爲サシムヘカラス若巴ムヲ得サル事故アリ出錢ヲ爲サシムルハ其事由ヲ郡區役所ヘ申出差圖ヲ受クヘシ郡區役所ヨリハ警察署又ハ警察分署ヘ報告スヘシ

此規則ニ違背スルモノハ違警罪ニ照ラシ處分セラル、ノ外行政上ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ(十六年函館縣甲第十號布達ヲ以テ本條ノ通改正)

○明治十四年四月十六日開拓使根室支廳甲第二十三號布達
雇人受宿規則別紙之通相定候條此旨布達候事

(別紙)

雇人受宿規則

第一條 雇人受宿營業セント欲スル者ハ戸長(戸長アラサ)ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ願出
 鑑札ヲ受ケ鑑札料トシテ金拾錢相納ヘシ(十七年六月根室縣甲第三十九號布達ヲ以テ本條ノ改正)
 但廢業ノ節ハ鑑札返納スヘシ

第二條 受宿營業者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

鑑札番號	
□ 雇人受宿	何ノ誰
	豎三尺 幅七寸

第三條 受宿ハ被雇人一切ノ保證ヲナスモノナレハ金貳百圓以上ノ不動産ヲ有シタル者ニ限ルヘシ
 但不動産ヲ所持セサル者ハ公債證書又ハ銀行等ノ株券ヲ不動産ニ換フルヲ得ヘシ

第四條 營業免許鑑札ヲ失却毀損スルカ又ハ代替改姓名轉居セシキハ其旨申出再渡又ハ替換ヲ請
 但鑑札料トシテ金拾錢相納ムヘシ

第五條 雇主被雇人ハ結約ノ際左ノ諸項特ニ注意スヘシ
 但本條ノ場合ニ於テハ受宿ノ者立會約條證書ニ記名調印シテ其確實ヲ表スヘシ

一 雇期限及ヒ給金高

第十四類 貸借

一 給金授受ノ期日

一 被雇人疾病死亡或ハ逃亡セシトノ始末

一 臨時解雇ノ節處置

一 其他緊要ト認ル條項

第六條 被雇人ヲラント欲スル者若犯罪其他不審ノ所業アルヲ認ルルハ警察官吏ヘ密告スヘシ

第七條 雇主被雇人ノ本籍姓名年齢ヲ帳簿ニ記載シ置キ警察上取調ノ用ニ供スヘシ

第八條 受宿世話料ハ最初被雇人一期給金高一割ヨリ多カラサル金額ヲ雇主被雇人雙方ヨリ金額ノ半數宛申受クヘシ

第九條 定メタル世話料ノ外種々ノ名義ヲ以テ雇主被雇人ヨリ金錢ヲ貸リ又ハ被雇人ノ腹胎ヲ押
 隠シテ口入シ或ハ雇人口入ニ事寄セ止宿セシムル等ノ所業ヲ爲スヘカラス

第十條 被雇人給料ノ幾分ヲ前借ノ上逃亡シ雇主ヘ損失ヲ負ハシムルハ其前借金ハ受宿ノ者其
 報知ヲ得タル日ヨリ十五日以内ニ必ス辨償スヘシ
 但遠隔ノ地ニシテ期日内ニ辨償ノ途ナキトハ何時ニテモ辨償方差支ナキ様金員備ヘ置クヘシ
 將テ廢業シタル後ト雖モ豫メ口入シタル約條期限内ハ本條ノ通りタルヘシ

第十一條 受宿ハ被雇人受取ル所ノ前金ヲ逃亡ス償ハシムル爲メ他ノ被雇人ヲシテ共受ヲナサシ
 ム可カラス

第十二條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

貸借

◎人民相互ノ訴訟ニヨリ抵當物公賣處分方

○明治十六年四月廿四日札幌縣乙第五十一號達郡區役所宛
人民相互ノ訴訟ニヨリ抵當物公賣處分ノ儀ハ郡區長又ハ戶長ニ於テ不都合無之様取扱フヘシ此旨
相達候事

○明治十六年六月五日根室縣乙第七十號達郡區役所宛
人民相互ノ訴訟ニヨリ抵當物公賣處分ノ義裁判所ヨリ通報ヲ得タルモハ不都合無之様可取扱此旨
相達候事

質入書入公證 登記

○戶長所有ノ地所建物船舶等質入書入等ノ節公證取扱方

○明治十八年四月十一日札幌縣乙第五十六號達郡區役所宛
戶長所有ノ地所建物船舶等ヲ質入書入及ヒ賣買セントスルモハ其次席ノモノ次席ノモノ無之トキ
ハ隣町村戶長ヲシテ公證ヲ取扱候處自今戶長ニ於テ成規ノ公證ヲナシ郡區長_{戶長役場ヲ兼メル區ノ}
檢閱ヲ爲受候様可致儀内務省達有之候條此旨相達候事
但檢閱ノ證トシテ公證帳簿ト證書トニ郡區役所ノ割印ヲナスヘシ

○明治十八年四月十三日函館縣乙第十號達郡區役所宛

戶長所有ノ地所建物船舶等ヲ質入書入及賣買セントスルモハ其次席ノ者ヲシテ爲取扱候處自
今戶長ニ於テ成規ノ公證ヲ爲シ郡區長_{戶長役場ヲ兼メ}ニ於テ檢閱ヲ受クヘシ此旨相達候事
但郡區長ニ於テ檢閱ノ證トシテ公證帳簿ト證書トニ其役所ノ割印ヲナスヘシ

○明治十八年四月二十九日根室縣乙第四十號達郡區役所宛

戶長所有ノ地所建物船舶等ヲ質入書入及賣買セントスルモハ其次席ノ者ヲシテ爲取扱候處自今
戶長ニ於テ成規ノ公證ヲ爲シ郡長_{戶長役場ヲ兼メ}ノ檢印ヲ受クヘシ此旨相達候事
但郡長ニ於テ檢閱ノ證トシテ公證帳簿ト證書トニ其役所ノ割印ヲナスヘシ
○登記法第十六條乃至十九條ニ依リ登記請求ノ場合ハ法第四十條ヲ
適用スルノ限ニ非ストス

○明治二十一年五月十四日北海道廳訓令號外_{郡區役所宛}

明治十九年法律第一號登記法第十六條第十七條第十八條第十九條ニ依リ登記請求ノ場合ニ於テハ
法第四十條ヲ適用スルノ限ニアラサル義ト心得ヘシ

相續 遺產處分

○失踪逃亡及絶家ノ財産ヲ戶長保管スルトキハ目錄ヲ作り郡區長ニ差出サシム

○明治十七年一月二十五日函館縣乙第四號達郡區役所宛
失踪逃亡死亡及絶家ノ財産ヲ戶長ニ於テ保管スルモハ財産目錄ヲ作り郡區長ニ可差出旨内務省達
有之候條此旨相達候事

○明治十七年一月三十一日札幌縣乙第十六號達郡區役所宛

失踪逃亡及絶家ノ財産ヲ戶長ニ於テ保管スルトキハ財産目錄ヲ作り郡區長ニ差出候様可致此旨相
達候事

◎生存者ノ家督相續ニ係ル建物船舶讓渡ハ建物讓渡規則ニ依ラシム
 ○明治十八年五月二十九日函館縣乙第十四號達郡區役所宛 戶長役場宛
 生存者ノ家督相續ニ係ル建物船舶讓渡ハ讓渡ノ方式ヲ履行セサルハ第三ノ人ニ其効ヲ及ホサル
 旨司法卿ヨリ訓示ノ次第モ有之候ニ付若シ戶主隱居ノ際建物船舶ヲ其相續人ニ讓渡サントスル
 ハ建物賣買讓渡規則第一條船舶ハ本則ノ手續ヲ行ハシムヘシ此旨相達候事

○明治十八年六月八日札幌縣乙第百二號達郡區役所宛 戶長役場宛
 生存者ノ家督相續ニ係ル建物船舶讓渡ノ方式ヲ履行セサルハ第三ノ人ニ其効ヲ及ホサルニヨリ
 若シ戶長隱居等ノ際建物船舶ヲ其相續人ニ讓渡サントスルハ建物賣買讓渡規則第一條ノ手續ヲ
 行ハシムヘシ此旨相達候事
 ◎遺留財產處分方

○明治二十一年八月十五日北海道廳訓令號外郡區役所宛
 遺留財產ノ件ニ付別紙之通內務大臣ヨリ訓令アリ
 (別紙)
 訓第四五二號

北海道廳

失踪又ハ死亡跡遺留財產ヲ其親族ニ於テ保管スル場合本人又ハ其家ノ利害ニ關シ協議ヲ以テ賣却
 若クハ交換等ヲ爲サントスルハ郡區長ノ認可ヲ受ケシムヘキ旨及指令候趣モ有之處自今
 都テ所管裁判所ノ認可ヲ受ケシム可シ

右訓令ス

明治二十一年七月十九日

內務大臣伯爵 山縣 有朋

○明治二十一年十二月二十一日北海道廳訓令號外郡區役所宛 戶長役場宛
 遺留財產ノ件ニ付別紙ノ通內務大臣ヨリ訓令アリ
 (別紙)
 訓第七一〇號

北海道廳

親族又ハ區戶長ニ於テ保管スル失踪逃亡並死亡者ノ遺留財產處分ニ付從前始審裁判所ノ認許ヲ經
 ヲルモノハ自今始審裁判所所在地ヲ除ク外管轄治安裁判所ニ認許ヲ乞フヲ得可シ
 右訓令ス

明治二十一年十二月一日

內務大臣伯爵 山縣 有朋

婚姻 養子

◎婚姻又ハ養子女ノ取組等戶籍面ニ登記セサル内ハ其効ナキモノトス
 ○明治九年一月十五日開拓使函館支廳第三號布達
 婚姻又ハ養子女ノ取組若シクハ其離離婚縁令相對熟談ノ上タリテ双方ノ戶籍ニ登記セサル内
 ハ其効ナキ者ト見做スヘキ旨御達相成候條右等ノ届方ハ節々届出ヘキ旨ニ候得共猶精々注意等閑
 ノ儀無之様可致候此旨布達候事

○明治九年二月二十日開拓使根室支廳第十一號達^{根室花咲兩宛}
婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離縁縁令相對熟談ノ上タリヒ雙方ノ戶籍ニ登記セサル内ハ
其効ナキモノト看做スヘキ旨御達有之候條論達可致此旨相達候事

○養家ヨリ直ニ他ヘ養子女ニ遺ルヲ禁ス

○明治九年九月二十六日開拓使函館支廳第九十三號布達

管内人民ノ中養子ヲ貰請其後不和合或ハ事故有之不縁セント欲セシ時ハ双方熟談ヲ遂ケ斷縁ノ上
實家ヘ可爲致復歸ハ勿論ニ候處無其儀養家ヨリ直ニ他ヘ養子女ニ差遣候者モ有之哉ニ相聞エ戶籍不
名義ヲ生シ無謂事ニ候右ハ養家斷縁ノ上一旦實家ヘ復歸シ候上ナラテハ養父兩名ヲ帶スル譯ニ付
前條ノ通手順ヲ經不名義ヲ不生様可致此旨布達候事

後見人

○後見人職務權限

○明治十六年八月七日札幌縣乙第百二十九號達^{郡區役所宛}
後見人職務權限ノ義ニ付別紙寫ノ通内務省伺ヘ太政官御指令相成候條此旨相達候事

(別紙)

後見人職務權限ノ義ニ付伺

後見人規則發布ノ義ハ目下急施ヲ要スル事項ニ付客年四月十三日上稟シタル旨趣モ有之就テハ
伺出ノ府縣ヘ追テ一般ノ法律制定相成マテ地方從來ノ慣習ニ依リ可取扱旨指令及ヒ來候處爾後
後見人職務ノ權限伺出ル府縣夥多有之抑後見人ハ當初親族ニ於テ撰任シタルモノナレハ常ニ監
察スヘキ方法モ無之ニ付規則御制定マテ不動産賣買讓渡質入等ニ限リ其證書又ハ願書ニ親族連

署ノ上ナラテハ戶長ニ於テ公證與ヘサル様相定メ其旨指令ニ及ヒ度右ハ未タ成規モ無之此段相
伺候也

明治十六年五月三十日

太政大臣三條實美殿

內務卿 山田 顯 義

伺之趣聞届候事

明治十六年七月三日

○明治十六年八月二十七日函館縣乙第五十二號達^{郡區役所宛}
後見人職務權限ノ義ニ付左之通内務省ヨリ達相成候條爲心得此旨相達候事
(左記ハ本年七月十八日内務省番外達ニ付略ス)

苗字名

○恩給扶助料ヲ受クルモノ氏名ヲ改メタルトキ取扱方

○明治十五年十一月二十二日函館縣乙第四十六號達^{郡區役所宛}
陸軍恩給又ハ扶助料ヲ受ケタル者氏名ヲ改メシキハ本籍戶長ノ認印セシ届書ニ恩給登錄寫帖ヲ副
ヘ其金員ヲ受領スヘキ府縣廳ニ出シ長官ノ裏書ヲ受サスヘシ此旨相達候事

第十五類

呼出

◎呼出狀送達責任拂方

○明治十七年九月五日札幌縣乙第二百二十七號達^{郡區役所宛}民事裁判上呼出狀等送達ヲ受クル者不在ナルカ又ハ本人若クハ親族等ニテ其受領ヲ拒ムニ由リ戶

長役場ニ於テ送達方取扱フニ際シ之カ費用ヲ要スルキハ役場小使ヲシテ送達セシムル等裁判所ヨリ金員受取ノ上仕拂フヲ得ヘキ方法ヲ以テ送達スヘシ但其費用送致方該裁判所へ申出送致アルヲ待テ仕拂フ義ト心得ヘシ此旨相達候事

訴訟手續

◎出訴期限

○明治十八年七月四日札幌縣乙第三百二十五號達^{郡區役所宛}地所質入書入建物船舶書入質ノ公證ヲ受ケタルモノハ出訴期限無之旨今般太政官裁令ヲ經内務省

ヨリ達相成候條此旨相達候事

犯罪

◎陸海軍々法會議ノ處刑者費用及收監方

○明治二十年四月十三日北海道廳丁第五號達^{監獄署宛}陸海軍々法會議ノ處刑者費用及ヒ收監ノ義別紙訓第二二八號之通内務大臣ヨリ訓令アリ

右相達ス

(別紙)
訓第二二八號

陸海軍々法會議ノ處刑者費用區分方客歲甲第一號ヲ以テ別紙ノ通應府縣へ相達置候ニ付テハ其應ニ於テモ來ル二十年度以降右處刑者アル毎ニ該軍監獄ヨリ直チニ送付スル等ニ付其都度之ヲ相當監獄ニ收監シ其費用ハ當該監獄ヨリ支辨スヘキ儀ト心得ヘシ

右訓令ス
明治二十年三月十八日

內務大臣伯爵 山縣有朋

(別紙)
甲第一號

陸海軍々法會議ニ於テ輕重懲役及ヒ剝官ヲ附加シタル禁錮ノ刑若クハ普通刑法ニ依リ懲役禁錮ノ處斷ヲ受ケ官職ヲ失ヒ軍籍ヲ除カレタル囚徒ニ係ル費用ハ來ル二十年度以降軍法會議所在地方ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

但從前陸海軍々律ニテ處斷セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ明治十四年三月第十七號公布ニ依リ區分シ陸海軍刑法ニテ徒刑流刑禁錮ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ國庫費ヨリ支辨スヘキ儀ト心得ヘシ

右相達ス
明治十九年一月二十九日

內務大臣伯爵 山縣有朋

○海軍々人軍屬犯罪者ヲ逮捕シタル時其他犯罪者送致方

○明治二十一年十一月二十一日北海道廳訓令號外警察署宛

海軍軍人軍屬ノ犯罪者ヲ逮捕シタル時及海軍諸官ノ囑托ニヨリ逮捕シタル犯罪者送致方之義ニ關シ別紙ノ通司法大臣ヨリ訓令有之候條此旨心得ヘシ

右訓令ス
(別紙)

司法省刑甲第四三二號

裁 判 所
警 視 廳
北 海 道 廳
府 縣 (東京府ヲ除ク)
憲 兵 司 令 部

海軍軍人軍屬ノ犯罪者ヲ逮捕シタル時ハ從來橫須賀鎮守府軍法會議へ送致シ來リタル處明治二十二年七月東京、吳、佐世保ノ各地ニ軍法會議開設後モ仍ホ橫須賀へ向送致シ來リ候モノ有之趣自今海軍軍法會議ノ管轄ニ屬スル犯罪者ヲ逮捕シ或ハ其自首ヲ受ケタル時ハ其最近ノ軍法會議若クハ被告人ノ所屬長ニ送致スヘキ儀ト心得ヘシ

但シ海軍諸官ヨリ逮捕ヲ囑托シタル者ハ其囑托シタル諸官ニ送致スル儀ト心得ヘシ

右訓令ス
明治二十二年十一月七日
司法大臣伯爵 山田顯義

檢證及物件差押證人訊問

○戸長役場備置ノ書類差押方
 ○明治十七年六月二十一日函館縣乙第三十九號達郡區役所宛
 犯罪證據物トシテ戸長役場備置ノ書類差押フル儀ニ付本年五月司法省丙第一號達官報第二百七十四號ノ通可相心得此旨相達候事

○明治十七年十月十九日札幌縣乙第九十四號達郡區役所宛
 犯罪證據物トシテ戸長役場備置ノ書類ヲ差押フル義ニ付取扱方別紙丙第一號之通司法省ヨリ達有之候條爲心得此旨相達候事
 (別紙略ス)

賣付保釋

○保釋賣付中ノ被告人取締方

○明治十六年十二月十五日根室縣乙第七十八號達郡區役所宛
 保釋賣付中ノ被告人取締方ノ儀ニ付本年十一月五日付丁第三十一號ヲ以テ左ノ通各裁判所ヘ達相成候旨司法卿ヨリ達有之候條爲心得此旨相達候事
 (左記略ス)

公判

○換刑處分方

○明治二十一年六月十八日北海道廳訓令號外各監獄署宛

換刑處分ノ義ニ付甲號通司法省ヘ上申候處乙號ノ通指令相成候條自今右ニ依リ取扱フヘシ
 甲 號

換刑處分ノ義ニ付上申

當廳管下空知樺戸釧路ノ監獄署ニ拘禁中ノ囚徒ニシテ原裁判所ニ於テ附加ノ罰金ヲ納完スルコト能ハサルヨリ換刑ニ處セラレタルモノ本刑ノ執行ヲ終ヘ更ニ換刑ヲ執行セントスル際罰金ヲ納完シテ換刑ノ免除ヲ乞フ者アリ又ハ期日ヲ定メテ納完ノ延期ヲ乞フモノアルトキ一々之ヲ原裁判所ニ移牒シ其命令ヲ待テ處分スヘキ者トスルトキハ遠隔ノ土地徒ヲニ多ノ日數ヲ費シ爲メニ囚徒ヲシテ空シク拘束ノ苦楚ヲ被ラシムルノ恐レモ之アリ實際其不便甚カラス候條自今右等ノ場合ニ於テハ豫テ原裁判所ノ囑托アリタルモノト見做シ該監獄署限リ之ヲ處分候様致度此段上申候也

明治二十一年五月十六日

司法大臣宛

長 官 名 印

乙 號

上申ノ趣原裁判所檢察官ヨリ囑托アリタルモノト看做シ三監獄署司獄官吏ニ於テ處分ス可シ

明治二十一年六月二日

裁判執行及特赦

司 法 大 臣 印

○犯則ニ依リ官沒シタル物件戸長ニ於テ公賣取扱タル費用

○明治十八年九月三十日函館縣乙第二十三號達郡區役所宛

犯則ニ依リ官沒シタル物件ヲ裁判所ノ囑托ニ依リ戸長ニ於テ公賣取扱タル節右公賣ニ關スル費用

○物件看守者ノ手當並職
敷料筆墨紙炭油雜費)ハ其裁判所ノ費用ニ立ツヘキモノニ付戸長役場費ヨリ支辨セサル儀ト心得ヘ
キ旨内務卿ヨリ被達候條此旨相達候事

○明治十八年十月十二日札幌縣乙第百八十七號達郡區役所宛

犯則ニ由リ官沒シタル物件ヲ裁判所ノ囑托ニヨリ戸長ニ於テ公賣取扱タル節右公賣ニ關スル費用
(物件看守者ノ手當並職
敷料筆墨紙炭油雜費)ハ其裁判所ノ費用ニ相立ツヘキモノニ付戸長役場ヨリ支辨セサル儀ト心得ヘ
キ旨内務省ヨリ被達候條此旨相達候事

○犯罪又ハ犯則ニ據リ沒收シタル物件取扱方

○明治十九年十一月十九日北海道廳函館支廳丙第十七號達郡區役所宛
犯罪又ハ犯則ニ依リ沒收シタル物件ハ左ノ手續ニ據リ取扱フヘシ

右相達ス

第一項 裁判所ヨリ沒收物件引渡ノ通知ヲ得タルトキハ其物件受取ノ手續ヲ爲シ物件ノ性質ニ從
ヒ得失ヲ量リ郡區役所ヘ取寄セ又ハ其所在地ノ戸長ニ保管セシメ其旨申報スヘシ

第二項 沒收ノ物件ハ裁判所ヨリ受取タル後三ヶ月内ニ於テ公賣ニ付スヘシ
但公賣ノ場所ハ物件所在ノ地ニ限ラス總テ適當ノ地ヲ撰定スルモノトス

第三項 沒收物件中官廳ノ烙印アルモノハ公賣ニ付スル前其烙印ヲ削除スヘシ

第四項 公賣ノ方法ハ入札拂若クハ競賣ニ據ルヘシ

第五項 沒收物件公賣ニ付スルモ買受人ナキカ若クハ代價相當ノ價格ニ達セサルトキハ公賣ヲ停
止其旨申報爾後三ヶ月以内ニ於テ更ニ公賣ニ付ヘシ

第六項 沒收物件中毀損腐敗ニ係リ若クハ物品輕微ニ公賣ニ付スルモ價直ナシト認ムルモノ或
ハ運搬費置場敷料ヲ要シ公賣ニ付スルモ其得失相償サルモノ或ハ第五項期限内ニ於テ公賣ニ付
スルモ買受人ナク若クハ代價不相當ニ公賣ヲ停止シタル者ハ其處分方意見ヲ具シ稟議スヘシ
第七項 沒收物件中特ニ成規アリテ第二項以下ノ手續ニ據リ難キモノハ其時々稟議スヘシ

○特赦申立方

○明治二十年四月十二日北海道廳訓令號外^{空知樺戸}監獄署典獄宛

已決囚改悛ノ狀著明ナルキハ其處斷ノ舊法ト新法トニ據ルニ拘ハラズ典獄ヨリ特赦ノ申立ヲナス
コトヲ得ルハ勿論ノ處中ニ就キ舊法ニ據リ竊盜三百圓三犯五十圓以上若クハ四犯得財等ノ罪實ヲ
以テ懲役終身ニ處セラレタル者ハ之ヲ新法ニ比視スルハ終身刑ニ該當スヘキモノニ非ス是固ヨリ
法律ノ然ラシムル所ナリト雖モ其事情ニ於テハ憫諒スヘキ者少カラス付テハ右等懲役終身ニ處セ
ラレシ者ニシテ其犯狀實ニ憫諒スヘキ所アル者ハ其行為ヲ精査シ速ニ特赦ノ申立ヲ致サルヘシ
右訓令ス

○罰金ヲ輕禁錮ニ換ヘタル場合處分方

○明治二十一年十月十日北海道廳訓令號外^{網走}警察署宛

罰金ヲ輕禁錮ニ換ヘタル場合ニ於テ其日數十日以下ナルキハ拘留ノ例ニ依リ警察署附屬ノ留置場
ニ於テ執行スルコトヲ得ル旨明治十七年七月内務省乙第三十四號ヲ以テ達有之候處自今根室輕罪
裁判所管内ノ分ニ限リ其日數十日以上ニ涉ルモノト雖モ都テ前段同様執行スルコトヲ得ル旨内務
司法兩大臣ヨリ訓令有之候條右ニ依リ取扱フヘシ

○民事裁判執行ノ時裁判官渡書ノ末尾ニ命令書ナキ場合執行方

○明治二十三年二月十四日北海道廳訓令號外警察署宛
民事上裁判執行ノ件ニ關シ別紙之通内務大臣ヨリ訓令有之候條此旨心得ヘシ
(別紙)
訓第五二號

北海道廳

明治十八年七月廿八日當省甲第二十六號ヲ以テ民事上裁判執行ノ件相違置候處爾今裁判官渡書寫ノ末
尾ニ該命令書ヲ添付セサルモ權利者ニ於テ裁判官ノ命令書ヲ提供シ義務者所轄ノ警察署ニ該執行
ヲ願出ルトキハ警察官ハ直ニ義務者ヲシテ右命令書通執行セシムヘシ
右訓令ス

明治二十三年二月一日

内務大臣伯爵 山縣有朋

○千島離島ニ於ル刑事被告人欠席ノ儘裁判官渡ヲ受ケタルモノニシテ刑期一年以下ノ
者執行方

○明治二十三年六月十六日北海道廳訓令號外根室監獄署宛 紗那監獄署宛

千嶋國離嶋ニ於ケル刑事被告人中欠席ノ儘裁判官渡ヲ受ケタル者ニシテ刑期一年以下ノ者ハ紗那
警察署ニ於テ便宜執行シ其費用ハ根室監獄署ヨリ支拂フ義ト心得ヘシ
但定役囚ハ相當ノ役ヲ科スヘシ

刑法

○監視期限計算方等

○明治十六年六月十九日札幌縣丙第三十五號達警察署宛

監視規則之義ニ付別紙天第二十一號伺へ朱書之通指令有之候條爲心得此旨相違候事
(別紙)
天第二十一號

監視規則之義ニ付伺

一 監視者旅行又ハ住所ヲ轉スルモノ甲地ヨリ乙地ニ至ル日數ヲ限定シ證票ヲ付與シタリ然ルニ
其日數經過スルモ乙地警察署へ届出サルヲ以テ刑法第百五十五條ニ該ルモノ再ヒ監視ニ付セ
ラレ候場合監視期限計算方ハ右限定セシ日數ヲ限内ニ通算スル義ト心得可然哉
一 刑法附則第二章第二十七條第一項ニ毎月二度所轄警察署ニ至リ云々トアリ右ハ昨年御省乙第
十九號御達該離形ニ違ヒ十五日後二度出頭スルカ如キ不勤慎ナルモノハ規則ヲ違背セシモノ
ト認メ處分致可然哉又ハ一月内一日二日或ハ二十九日三十日ノ二度出頭スルモ附則中明文ナ
キヲ以テ犯則ノ限ニ無之哉
右兩條何分ノ御指揮有之度此段相伺候也

明治十六年三月十二日

内務卿山田顯義殿

(書面伺之趣左之通心得ヘシ)

(第一項)

(伺之通)

(第二項)

(前段伺之通)

明治十六年五月二十二日

札幌縣令調所廣丈代理

札幌縣大書記官 佐藤秀顯

内務卿 山田顯義

司法卿 大木 喬 任

○監視ニ付セラントルモノ北見千島根室三國中郡役所戸長役場ニ於テ證票認印ヲ受ケ

シム

○明治十七年四月十七日根室縣乙第五十號達^{郡役所戸長役場宛} 警察署分署宛

監視ニ付セラントル者ハ刑法附則第二十七條第一項ニ據リ毎月兩度所轄ノ警察署ニ出頭シ官吏ノ認印ヲ受クヘキ儀ニ有之候處左ノ郡村ニ居住スル者ハ便宜其地ノ郡役所又ハ戸長役場ニ至リ謹慎ヲ表スル爲メ監視ノ證票ヲ出シ認印ヲ受クルコトヲ得此旨相達候事

根室國野付郡ノ内

別海村

平糸村^{自シンベツ川}以南

北見國

紋別郡

全郡

千島國

擇捉郡

振別郡

全郡

紗那村ノ内

留別村

○明治十七年四月十七日根室縣丁第二十號達^{警察署宛} 警察署宛

監視ニ付セラントル者取扱方之義今般乙第五十號ヲ以テ相達候ニ付テハ該郡村ニ居住スル者ハ監

視票ヲ下付スルハ其旨本人へ告知可致置此旨相達候事

違警罪

〔沿革〕沿革目錄ニ詳ニシ此ニ容ス

○違警罪目

○明治二十年十月四日北海道廳令第九十號

北海道違警罪目左ノ通相定メ明治二十年十一月一日ヨリ施行ス

但元函館札幌根室縣ニ於テ定メタル違警罪目ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

北海道違警罪目

第一條 左ノ諸件ヲ犯シタルモノハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 外國人遊歩規程外ニ於テ旅券ヲ持セサル外國人ヲ私ニ止宿セシメタル者
- 二 規則ニ依リ族籍氏名年齢身分職業ヲ稱スヘキ場所ニ於テ之ヲ詐稱シタル者
- 三 病死又ハ病毒アル鳥獸ノ肉ヲ販賣シタル者
- 四 毒藥劇藥又ハ氣發物ヲ用ヒ禽獸魚介ヲ捕獲スル者
- 五 飲用水ヲ汚濁シ又ハ水路ニ妨害ヲ爲シタル者
- 六 延燒ノ豫防ヲ爲サシテ野火ヲ焚キタル者
- 七 制止ヲ肯セス喧嘩若クハ爭論ヲ爲シタル者
- 八 人ニ瓦礫氷雪其他ノ物件ヲ投シタル者
- 九 牛馬ヲ街頭ニ放置シ又ハ之カ繫鎖ヲ忘リ籠籠アル他人ノ邸宅田圃ニ入ラシメタル者